
Summer School 2008 Report Contents

巻頭言

.....	1
-------	---

第一部 夏期短期留学（受入）

プログラムと日程	2
日本語の授業	5
日本事情講義	7
エクスカージョン	12
工学部との交流授業	19
4週間コース歓迎会	21
夏期短期留学参加者名簿	23
ホームステイファミリー	24
宿舎チューター	26
宿舎チューター名簿	32
サマースクール感想文	33
まとめの会とアンケート集計結果報告	43

第二部 夏期短期留学（派遣）

グリフィス大学	51
ソウル産業大学	65
短期留学（サマースクール）参加者アンケート	79

岐阜大学夏期短期留学（サマースクール）担当者一覧	91
--------------------------------	----

今年度もまた、サマースクールが無事終了した。

サマースクールは、6月から8月にかけて、日本語授業のほか見学旅行を含めた日本事情講義を行うもので、8週間コースと4週間コースからなっている。サマースクールが始まったのが1988年だから、今年度でちょうど20年経ったことになる。毎年20人前後受講しているのだから、これまでに300人余りがわがサマースクールを修了したことになる。

本年度は、8週間コース（6月9日～8月5日）の参加者が15人（ルンド大学）、4週間コース（7月2日～8月5日）の参加者が9人（ソウル産業大学5人、木浦大学3人、ユタ州立大学1人）、計24人だった。本年度も、例年どおり日本語授業、多彩な日本事情の講義、エクスカッション、郡上でのホームステイプログラム等が行われたが、特に、美濃市と土岐市を対象にエクスカッションが実施されたこと、森学長と受講生との懇談が行われたこと（森学長の癌に関する日本事情講義後に行われた）が特色だった。また、今年度から学術交流協定校となった韓国木浦大学の学生3人が参加してくれた。さらに、本年度から、新たに宿舍と岐阜大学間に通学バスを運行していただくことになり、通学時間の短縮と安全が図られた。昨年度までは、8キロメートルもある宿舍と大学間を自転車通勤していたのである。

私も、日本事情の講義を行う機会を得、また、1日だけであったが郡上でのホームステイプログラムに参加することができた。受講生が熱心に私の講義に耳を傾けてくれ、郡上では、彼らが書道や郡上踊りの実習、市民との交流に熱心に取り組む姿を目にして、改めて母国と日本の架け橋になってくれることを実感した。

2007年4月、「大学の優れた国際展開モデルについて」（中間報告書）が出されたが、そのなかで、今必要とされている「国際化」は、従来の「国際化」とはその意味合いが大きく変化しているとの認識に立って、1）外国人研究者（留学生）等へのサービ

ス、2）外部資金の獲得、3）職員養成、4）キャンパスの国際化、5）組織的な留学生・研究者派遣、6）海外拠点の活用利用等を、戦略的・組織的に実施すべきだと提言している。

岐阜大学では、既述のサマースクールをはじめとする日本語・日本事情教育は大きな成果をあげているが、留学生に対する入り口（入試・入学）の改善、留学生の派遣の増加、キャンパスの国際化等課題も多い。今後、岐阜大学としてどのような国際化戦略を打ち出し、それを実行していくのか。「留学生30万人計画」ともからんで、まさに、戦略的・組織的に進めていくことが要請されているといえよう。留学生センターとしても、これらの課題に積極的に応えていきたいと思う。

ともあれ、サマースクールが成功裏に終わったのは、留学生センターの教職員の皆様はじめ、日本語を熱心に教えてくださった非常勤講師、受講生をお世話いただいたチューターの方々に負うところが大きい。また、サマースクールに対して積極的にご支援いただいた森学長、古田副学長、土肥副学長をはじめとする学長・理事・副学長の皆様、そして、関係いただいた各部局の先生方のおかげである。ホームステイに関しては、とりわけ郡上八幡国際友好協会会長の鷲見氏をはじめとする会員の皆様にお世話になった。これらの方々に、心から感謝の意を表したい。



第一部 夏期短期留学（受入）

プログラムと日程

留学生センター・准教授 土谷 桃子

岐阜大学サマースクール（受入、以下略）は、今回で21回目を迎えた。2008年度のサマースクールは、過去20年間の歴史を尊重し継続しつつ、現状に甘んじることなく新しい局面への転換を図るサマースクールであった。これは大きな冒険であったが、岐阜大学ブランドが提供するサマースクールを学内外、国内外に認知してもらうために、また、今後も安定的にサマースクールを実施するために、いつかは越えなければならないハードルである。その成否については後述するが、いずれも挑戦するにふさわしい課題であったと自負している。以下に今年度のプログラムと日程を詳述するが、今年度の新しい試みでプログラム内容に関連する事柄については該当箇所にて説明を加える。

6月9日（月）から8週間コースを開始した。11日（水）に8週間コース参加者15名（スウェーデン・ルンド大学）のための開講式及びガイダンスを実施し、翌12日（木）からいよいよ実際のプログラムが走り出した。7月2日（水）には、後半4週間に参加する4週間コースの開講式及びガイダンスを行ない、9名（韓国・ソウル産業大学5名、同・木浦大学3名、アメリカ・ユタ州立大学1名）が合流した。よって今年度の参加者は、合計24名となった。

プログラムには、以下の内容が盛り込まれた。後掲の日程表を参照願いたい。

1. 日本語授業：毎週月～木曜、1日2コマ（8：50～10：20、10：30～12：00）
2. 日本事情講義：全9回実施（講義内容：能の実演6/18、美濃6/19、日本の経済6/30、土岐7/3、岐阜の自然・産業・生活7/8、能と狂言7/15、相撲7/16、癌と食物7/18、狂言の実演7/22）
3. エクスカーション：美濃6/20、土岐7/4、相撲7/17、長良川鵜飼7/25
4. 旅行：郡上7/11～14
5. その他：工学部数理デザイン工学科フレッシュセミナーとの交流会、開講式、ガイダンス、まとめの会（反省会）、歓迎会、歓送会等それぞれの項目について、説明を加える。

項目1・日本語授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）を使用し、8週間コースでは全冊、4週間コースでは後半を学習した。参加者の国

籍が偏らないようにクラス分けをし、留学生センター専任教員2名を含む6名の教員が授業を担当した。日本語授業に関しては、プログラム開始直前まで教室の確保ができず、提供内容とは別の次で大きな問題に直面するという一幕があった。

項目2・日本事情講義は、開講目的によって3つのカテゴリーに分類することができる。まず、2005年度から始めた、「本物に触れる」ための講義である。そのきっかけとなった2005年度の講義以降、毎年講義をお願いしている観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生による能の実演、そして、昨年度からご講義いただいている大蔵流狂言方の山口耕道先生と茂山良暢先生による狂言の実演、この2つが「本物に触れる」ための講義である。次に、数として最も多いのは、エクスカーションや旅行等の事前学習となるものである。美濃講義（美濃エクスカーションの準備、以下同様）、土岐講義（土岐エクスカーション）、相撲講義（相撲観戦）、能と狂言講義（狂言実演）がそれに当たる。留学生センター長が担当した「岐阜の自然・産業・生活」も、郡上旅行に備えるという意味合いが込められている。エクスカーションや旅行が、ただ楽しかった・面白かったというだけに留まらず、学習の場であるサマースクールに相応しいものとなるよう、配慮したつもりである。3つ目のカテゴリーに入るのは、岐阜大学にとってのサマースクールの重要性を反映した講義である。それらは、学長が専門分野を語った「癌と食物」の講義、学長特別顧問による「日本の経済」の講義、そして重複するが、留学生センター長による「岐阜の自然・産業・生活」の講義である。学長と特別顧問の講義は、内容がかなり専門的であったため、内容理解を重視した英語による講義となった。参加学生は、学長を初めとする大学首脳陣から直接講義を受けるという貴重な体験を得た。また、本サマースクールは、全学委員会である留学生交流委員会が掌握する全学事業である。実質の運営は留学生センターが担っているが、全学事業であるという点でも、学長等が講義を担当したということは、重要な事実であると考えている。以上のように



に、今年度はバラエティに富んだ日本事情講義を9科目提供した。

項目3・エクスカッション及び同4・旅行については、今年度大きな転換を試みた。一言で言えば、「地域密着型志向」である。昨年度まで、日本文化体験の一環として、1泊2日の京都旅行をプログラムに組み込んでいたが、ここ数年、不評とまではいかないまでも、学生の反応から再考が必要ではないかと考えざるを得ない状況となっていた。本サマースクールが始まった約20年前は、学生にとって京都旅行は貴重な機会であった。しかし、最近の情報入手の手軽さや、京都のようなメジャーな観光地への行きやすさを考えると、わざわざ大学が連れて行かなくても、ということになる。また、1泊2日では足りないからと自費で滞在を延ばしたり、翌日そのまま大阪へ足を伸ばしたりする学生も増え、安からぬ費用がかかっている京都から岐阜への帰りのバスがガラガラということにも疑問を感じていた。そこで、今回は思い切って京都旅行を取りやめ、その代わりに岐阜という地域の特色を前面に打ち出した、岐阜大学ならではの内容を提供しようではないかと考えた。

エクスカッションの中で、昨年度まで好評だったため今年度もそのまま継続したのは、大相撲の名古屋場所観戦のみである。陶芸体験ができる土岐エクスカッションは、昨年度も行なったが、昨年度は午後に陶芸を作るだけのために訪問していたのを拡大し、午前には窯の見学や博物館への訪問を加えた。往復でバス3時間かかる場所であるから、できるだけ体験してもらえればと考えた。そして、今年度新たに盛り込んだのが美濃エクスカッションと長良川鶴飼見学である。美濃では紙漉き体験、浴衣を着てうだつの上がる町並み散策、和太鼓（小倉太鼓）体験を盛り込んだ。長良川鶴飼は、岐阜市に来たのなら見て行ってほしいものである。このように「岐阜」を前面に打ち出してみた。初めての試みであったため、必ずしも意図したとおりの学生の反応が得られたわけではないが、方向性に誤りはないであろうと考えている。今後とも試行錯誤を続けていきたい。

地域密着を志向する場合、大学のみではその遂行は不可能である。今回のサマースクールでは、地域自治体やボランティア団体の皆様の協力で大きく支えられた。心より感謝申し上げますとともに、今後ともご協力いただけるよう、お願い申し上げます。各エクスカッションの詳細については、該当ページをご参照いただきたい。

京都旅行を取りやめた結果、プログラムに含まれる旅行は、郡上のみとなった。3泊4日のホームステイと、さまざまな日本文化体験を含む郡上プログ



ラムは、今年度も郡上市役所と郡上八幡国際友好協会の全面的な協力によって行なわれた。地域の皆様のお力がなければ本サマースクールの実施は不可能であることを、ここでも深く再認識した。

項目5・その他の、工学部数理デザイン工学科フレッシューズセミナーとの交流会は、今年度のもう1つの新たな試みであった。このセミナーは同学科の新入生の必修科目で、大学で学ぶ上での基礎を学ぶ。その一部に、英語でのコミュニケーションを目的とした、 Rund大生とのメール交換プロジェクトが含まれていた。この試みは2004年度から行なわれていたが、サマースクールとは別個に存在し、今年度初めて連動を試みた。対象が Rund大生に限られるため、4週間コースの学生が合流する前に交流会を設定した。 Rund大・岐阜大の両学生は、サマースクール開始前までに英語・日本語で最低1回はメールのやり取りをし、交流会では岐阜大生が Rund大生に岐阜や日本について教えるという形が取られた。岐阜大生にとってのサマースクールのメリットは何かという点は、常に心にかかっている。宿舎である学外研にサマースクール参加生とともに宿泊する宿舎チューター制度は、勿論岐阜大生にとっての大きなメリットの1つである。その他に、岐阜大生との交流授業を試みたことが過去にあるが、初対面の学生を集めてその場で話をさせようと思っても、なかなかスムーズに進むものではない。今回の数理デザイン工学科との試みは、今後のための大きな示唆となるであろう。

以上に述べたように、今年度のサマースクールは、今までの優れた歴史を継承し、それとともに新しい展開も試みた、盛りだくさんのプログラムとなった。準備段階から実施までご協力いただいた、学内外の皆様への感謝をここに再度記しておきたい。



2008年度夏期短期留学（サマースクール）受入日程

期 間 8週間コース [2008年6月9日（月）～8月5日（火）]

4週間コース [2008年7月2日（水）～8月5日（火）]

参加人数 24名 [内訳……ルンド大学15名, ソウル産業大学5名, 木浦大学3名, ユタ州立大学1名]

6月9日(月)	6月10日(火)	6月11日(水)	6月12日(木)	6月13日(金)	6月14日(土)	6月15日(日)
学外研修施設入居	学外研修施設入居	8週間コース開始 開講式、ガイダンス 歓迎会	日本語授業 8:50～10:20 10:30～12:00		フリー	フリー
6月16日(月)	6月17日(火)	6月18日(水)	6月19日(木)	6月20日(金)	6月21日(土)	6月22日(日)
日本語授業	日本語授業	日本語授業 日本事情講義1 「能の実演」 13:30～15:00	日本語授業 日本事情講義2 「美濃」 13:30～14:30	エキスカージョン1 「美濃」	フリー	フリー
6月23日(月)	6月24日(火)	6月25日(水)	6月26日(木)	6月27日(金)	6月28日(土)	6月29日(日)
日本語授業	日本語授業	日本語授業	日本語授業		フリー	フリー
6月30日(月)	7月1日(火)	7月2日(水)	7月3日(木)	7月4日(金)	7月5日(土)	7月6日(日)
日本語授業 日本事情講義3 「日本経済の最近の動向」 13:30～15:00	日本語授業	日本語授業 数理デザイン交流会 13:00～15:00 4週間コース開始 開講式・ガイダンス	日本語授業 日本事情講義4 「土岐」 13:30～14:30	エキスカージョン2 「土岐」	フリー 4週間コース学生 歓迎会	フリー
	7月8日(火)	7月9日(水)	7月10日(木)	7月11日(金)	7月12日(土)	7月13日(日)
日本語授業	日本語授業 日本事情講義5 「岐阜県自然・産業・生活」 13:30～15:00	日本語授業	日本語授業	「郡上プログラム」 郡上のホストファミリー宅で7月14日(月)までホームステイ		
7月14日(月)	7月15日(火)	7月16日(水)	7月17日(木)	7月18日(金)	7月19日(土)	7月20日(日)
	日本語授業 日本事情講義6 「能と狂言」 13:30～15:00	日本語授業 日本事情講義7 「相撲」 13:30～15:00	エキスカージョン3 「大相撲」	日本語授業 日本事情講義8 「学長講義・交流会」 13:30～15:00	フリー	フリー
7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)
フリー (海の日)	日本語授業 日本事情講義9 「狂言の実演」 13:30～15:00	日本語授業	日本語授業	エキスカージョン4 「鶴飼」	フリー	フリー
7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)	8月2日(土)	8月3日(日)
日本語授業	日本語授業	まとめの会 15:00～16:00 歓送会	学外研修施設退居	学外研修施設退居		
8月4日(月)	8月5日(火)					
学外研修施設退居	学外研修施設退居					

日本語の授業

留学生センター・准教授 橋本 慎吾



「日本の文化をよく知るために、日本語を勉強しています」この文は、今期のサマースクールの学生が授業中に作った文である。8週間、あるいは4週間という短い期間の留学において、日本語を学ぶ意義は何だろうと、日本語コーディネーターとしてよく思うのであるが、この短期留学をよりよいものにする、つまり日本の地に実際に降り立ち、生の日本文化に接する中で、日本語を磨くことがよりよい日本理解の一助になるとすれば、短期間の日本語学習にもそれなりの意義が見出せる。

今年度の日本語コースも例年同様、8週間コースが先行し、途中から4週間コースが合流するというスケジュールで計画を進めた。今期の8週間コースはスウェーデンの Lund 大学から15名の学生を受け入れた。事前に学生の日本語能力に関する資料を送っていただいていたが、日本語のレベルでクラス分けするより、様々なレベルを混ぜて助け合いながら学ぶほうが短期学習の場合のほうがうまくいくと考え、機械的に名簿の頭から2つのクラスに分けた。教科書は、これも例年と同じく初級終了レベルの『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）を使用し、これに岐大で作成した文法補助教材と読解教材を合わせて授業を行なった。

授業の方針としては、文法を正確に使うことも重要であるが、学生の知的欲求を満たしながら自分の言いたいことを自分の言葉で話す機会を提供することに努めた。スケジュールの中にも適宜フリート

クの時間を作り、自国のことや日本での出来事などを話す機会を設けた。同じ大学から来る学生でも毎年少しずつ違ったカラーがあるが、今年のリンドの学生は全般的に大人しい印象であった。といっても何もしゃべらない、沈黙が多いということではなく、じっくり冷静に考え、きちんと話そうと努力する姿からそういう印象を受けたのだと思う。

この8週間コースの途中から4週間コースが合流する形で例年進むが、いつも問題になるのは、4週間コースの学生の日本語レベルが来日まで全くわからないということである。特に今年度は、例年参加している韓国のソウル産業大学に加え、アメリカのユタ州立大学、そして今年度から募集対象となった韓国の木浦大学が新たに参加することとなり、うまく合流できるかどうか心配をしていた。とりあえず機械的に2クラスに分け、8週間クラスに合流したが、ユタ州立大学の学生がまだ初級レベルで授業についていけず、留学生センターの教員と話し合った結果、センターが開講している日本語研修コースの集中Aクラス（初級レベル）に入ってもらうことにした。こういったケースに、新たに別のクラスを設けることができればよいが、その実現はなかなか難しいのが現状である。

さて、韓国の学生達が合流したことは、既に折り返し地点に来ていたスウェーデンの学生達にも刺激となったようで、フリートークでいつも以上に張り切って話す学生の姿が見られたりした。今年のスウ

ル産業大学の学生も大人しい印象があったが、自分の意見をしっかり持っているという感じであった。対する木浦大学の学生は、今年から参加ということもあったのか（ソウル産業大学の学生は、先輩達から多少の情報ももらっていると推測される）、勝手にわからないという感じで、どうしても同じ大学で固まってしまうところがあり、クラスではその固まりをほぐし、クラスに溶け込むよう配慮しながら進める必要があった。

クラスの最終日に、このサマースクールについての作文（本報告書の33ページから掲載）を書き、ま

た口頭テストとして、短い時間のインタビューテストを実施してコースの間にどれだけ日本語能力が向上したかを測った。どの学生も1～2ヶ月の短い期間で大きな成長が見られ、日本語コーディネーターとしてもうれしい限りである。今回の留学だけでなく、彼らの将来にも、この短期間の日本語学習が多少の助けとなると、うれしい。

担当講師（50音順）

梅野由香里・加藤由紀子・河合瑞恵・橋本慎吾・吉成祐子・六郷明美



日本事情講義

日本事情講義①

「能の実演」

留学生センター・教授 森田 晃一



観世流シテ方の味方團先生と田茂井廣道先生による能の実演講義も、今回で4回目となった。毎年、学生たちに高い評価を得ているこの講義だが、今年は、日本事情講義の第1回目ということもあって、学生たちには、代表的な日本の伝統文化に接したことにより、いよいよ日本語・日本文化を学ぶサマースクールが始まった、という強い印象を与えたようである。

講義の内容は次の通り。

- ①実演：「石橋」より、獅子の舞の一部
(味方先生)
- ②能の歴史 (田茂井先生)
- ③能面の話 (味方先生)

④能における喜怒哀楽の表現 (味方先生)

⑤謡い (声出し) 指導：「高砂」(田茂井先生)

⑥舞い指導 (味方・田茂井先生)

⑦着付け (味方・田茂井先生)

学生たちは、①で、獅子の舞いの迫りに圧倒され、みな真剣な眼差しで見つめていた。②③④では、先生方が、学生たちの理解度を確かめながら、巧みに話を展開されたので、時折笑い声も生じ、①の緊張感からは少し解放されて、和やかな雰囲気があった。⑤⑥に進むと、実際に声を出し、基本的な動きとして「摺り足」を行ったので、講義への集中度が増したようであった。⑦では、学生代表のガブリエラさんが、先生方の鮮やかな手捌きによって、美しい能装束を身に纏い、髪と面を付け、華麗に変身して行く姿を、みな興味深そうに見つめていた。

短い時間ではあったが、学生たちは、日本の伝統文化の奥深さを感じてくれたものと思われる。サマースクールにとって、とても大切な講義の一つである。



日本事情講義②・④

美濃・土岐

留学生センター・准教授 土谷 桃子

今年度のサマースクールでは、いくつかの新しい試みをしたが、その1つが岐阜大学だからこそ提供できるサマースクール、岐阜という地域のメリットを生かしたサマースクールを目指すということだった。それが最も顕著に表れたのが、今年度新規にプログラムに盛り込んだ美濃エクスカッション（6/20）と鶉飼見学（7/25）であり、また昨年度までの内容をバージョンアップした土岐エクスカッション（7/4）である。これらに毎年学生に絶賛される郡上プログラム（7/11～14）を合わせれば、岐阜の地を満喫できるサマースクールであると言っても過言ではないだろう。

日本事情講義②および④では、上記の地域密着エクスカッション、美濃・土岐それぞれについて講義を行った。講義担当者は、サマースクール受入コーディネーターであり、両プログラムの企画に関わった土谷が担当した。美濃講義（日本事情講義②）は6/19、土岐講義（同④）は7/3に実施し、翌日のエクスカッションに関連する連絡事項も合わせて通達した。

美濃についても土岐についても、あまり詳しいことを話しても学生にはちんぷんかんぷんであろうから、どのような内容をどの深さまで話すのか、匙加減に苦慮した。結局のところ、翌日の行動にできるだけ引きつけた内容とし、話すポイントを2点程度に絞ってみた。また、講義ではパワーポイントを用いて学生が理解しやすい講義になるように心がけた。

まず、美濃講義（6/19）では、「美濃」という名前が「飛騨」とともに岐阜地域を指す地名であると同時に、訪問地である「美濃市」という名前も存在することを説明した。そして、美濃市の有名なものとして「美濃紙」と「うだつの上がる町並み」を紹介した。美濃紙の説明では、和紙の歴史や岐阜の地域性（京都という市場に近い）を話したが、なかなか学生の興味をひきつけるのは難しいという印象を持った。和紙を数種類準備して実際に学生に触れ

させるような工夫も考えたが、以前京都旅行の事前講義を担当した際に、「せっかくこれから行く場所の写真を、事前講義で見せられたらつまらない」という学生の反応があったことを思い出し、現地に行ってお楽しみ、ということでこの講義では示さなかった。これが良かったのか悪かったのか、また考えねばならない。うだつの上がる町並みについては、まず説明をせずにうだつの写真を見せ、どのような目的で作られたものか、学生に考えてもらった。その後、当初は防火目的だったが、後に富裕の象徴となったことを話した。

土岐講義（7/3）では、土岐の場所の確認をした後、土岐を含む美濃地域が現在でも全国の食器生産の約50%を占めていることを話した。続けて美濃が陶磁器生産の有力地になった歴史的背景を紹介したが、その際に岐阜とは切っても切れない関係の有名な織田信長に言及した。歴史が大好きな学生が1名おり、講義内容を助ける発言をしてくれたのは有難かった。翌日訪問する「織部の里公園」に関連づけて、信長と秀吉に仕えた古田織部を紹介した。武人と茶人という両面性を持った人物で、織部焼の写真を示しながら、その特異性を話した。偶然に、古田織部を主人公にしたコミック『へうげもの』を見つけ、急遽入手し学生に回覧もした。陶芸という広く深い世界を1回の講義でどう示せばよいのか非常に悩んだが、古田織部という人物に焦点を当てた試みは、まずまずではなかろうかと思う。次回は、もう少し彼の魅力を伝えられる話の持っていく方を工夫したいと思う。

両講義とも、岐阜の歴史を踏まえたものであったが、そもそも日本の歴史についての基礎知識が十分ではない学生に、どう話せばよかったのか、今も反省の種は尽きない。美濃講義の折にそのことに気づき、土岐講義では年号をキーとして、安土桃山時代まで遡って示してみたが、1回の講義では如何ともし難い。日本について専門に学ぶ学生ばかりではないからそんなに深入りしなくても良からうと思う一方、せっかく日本にまで来ているのだから歴史についても学ぶ機会を与えたいとも思う。果たして、土岐講義で出した「信長・秀吉・家康」の名前が、今現在どの程度学生の脳に残っているか、興味あるところである。記憶は薄れても、将来何かの拍子に「岐阜のどことかの話を聞いたな」とふと思い出してもらえれば講義担当冥利に尽きる。



日本事情講義③

「日本経済の最近の動向」

学長特別顧問 梅村 将夫

今までの講義においては、戦後日本経済の大きな流れを説明し、日本が現在直面する問題を話してきた。今回は趣向を変えて、今の日本が抱える問題のいくつかをトピックスとして取り上げて話した。それは日本経済の相対的停滞、グローバリゼーションと対内外国投資、格差問題、政府債務などである。昨年までは講義後に複数あった質問も無く、豊かな国からきた若い学生にとってはあまり関心のある事項ではないかもしれないと思った次第。

彼らにとっては文化とか歴史のほうがより関心があるのであろうか。再び機会を与えられるならば、経済の文化的側面、即ち、日本の企業システムとしての「人本主義」について話そうと思う。



日本事情講義⑤

「岐阜の自然・産業・生活」

留学生センター長・教授 小林 浩二

岐阜県は、日本の中央部に位置しており、きわめて多様性に富んでいます。南部は美濃平野に代表される平野が広がっています。この地域は、古くからたびたび洪水の被害を受けてきたことから、輪中と呼ばれる水防組織が発達しました。また、この地域は名古屋を中心とした中京圏に含まれており、都市化が顕著です。

一方、岐阜県北部は、飛騨山地に代表される山域であり、農村や山村が卓越しています。人口減少及び高齢化が顕著で、多くの地域が深刻な問題をかかえています。しかしながら、自然的・人的資源をうまく活用して、「持続的な発展」をはかっている地域も少なからず存在します。

本講義では、まず、こうした多様な岐阜県の地域的特色を紹介しました。つぎに、中津川市加子母を対象にして、「持続的な発展」の実態を明らかにしました。加子母には地域住民によって形成された多くの自発的な集団があります。これらの集団は、生産、文化、教育、レクリエーション、福祉と多岐にわたっており、活発な活動を行っています。こうした自発的に形成された集団の活動が、農林業ならびに建築業を中心とした産業を活発化させるとともに、「生活の質」の向上に役立っているのです。

本講義では、岐阜県の地域的特色ならびに地域の見方・捉え方を少しでも理解していただけるよう意図しました。



日本事情講義⑥

能と狂言

留学生センター・教授 太田 孝子

「能と歌舞伎はどう違うんですか？」—— 昨年度、「能」の観劇を終えた学生からこんな質問が出たという状況を鑑み、今年度は「能と狂言」の講義が設けられた。そのため、歌舞伎や文楽との違いも考慮しながら、配布資料をもとに能と狂言の歴史を解説し、ビデオを使って説明した。能の重厚な動きと狂言のコミカルな仕草や言葉など、両者の“対照的な”舞台を理解することに重点を置いたが、その点は伝わったと思う。

室町時代の犬（ビョービョービョー）や鶏（コー、コー、コキヤッコ、コキヤッコ）等々の鳴き声、狂言の中でも人気の「棒縛り」と「附子（ぶす）」の鑑賞、伝統芸能を継承するために子どもの時から厳しく芸を仕込まれる様子が一番盛り上がり、笑いや質問も出た。ただし、前日までの郡上八幡でのホームステイでかなりお疲れムードの学生や居眠りをしている学生が目立ち、「能と狂言、そして歌舞伎はどう違うんですか？」という質問が今年も出るのでは…と恐れている。せめて、カラーで作成した資料とレジュメを、後でゆっくり読んでほしいものだ。



日本事情講義⑦

相撲

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

例年、相撲観戦の前に、相撲の歴史、仕組み、ルールなどについて講義をしている。今年も「相撲を知っている人」という質問から講義を始めた。当然、というか、日本に留学しようと思う学生達なので、さすがに全員が相撲を知っていた。しかし観たことがある人（テレビなどで）は少なかったのはちょっと意外だった。例年、格闘技の流れで相撲に強い関心を抱く学生が少なからずいるのであるが、今年はそういう学生もいなかった。以前に比べると海外での相撲の人気に陰りが見え始めたのかと少し思った。そういうこともあり、講義は例年になく淡々と進んでいった。

今年の名古屋場所は、外国人力士の台頭、外国人大関の綱取り（これは講義の時点で実現しないことが判明していたが）など、注目ポイントがあったので、その点についても説明した。学生にとっては、技の紹介のために流したビデオテープでの豪快な力士の投げや土俵際での踏ん張りが興味深かったようだ。きっと相撲観戦は盛り上がったことと思う。



日本事情講義⑧

「Environmental carcinogens and natural chemopreventive agents」

岐阜大学学長 森 秀樹

本年度のサマースクール学長講義は、7月18日（金）13：30から行なわれた。前半は、学長の専門分野である腫瘍病理学の講義、後半はサマースクール参加学生の代表が、それぞれの所属校を紹介した後、学長との歓談が持たれた。



前半の講義は、専門性が高いため英語での講義となった。パワーポイント資料を用いながら、発ガン物質となりうるものは何か、どのような食物にガンを予防する力があるのか等についての話があった。講義の後、質疑応答の時間が設けられ、学生から質問が寄せられた。

後半の大学紹介からは、お茶とケーキが供されリラックスした雰囲気となった。ルンド大学、ソウル産業大学、木浦大学、ユタ州立大学、それぞれの代表がスピーチやパワーポイント資料を使いながら大学の特色や、岐阜大学との類似点・相違点について述べた。その後、学長から学生に対して質問やコメントが出され、全員で写真撮影をした後、15：00に終了した。（報告：土谷桃子）



日本事情講義⑨

「狂言の実演」

大蔵流狂言方 山口 耕道

能楽堂で狂言を見るのも一つの接し方ではあろうが、今回は、私達がどのような稽古をして、舞台上に臨むかを見ていただき、狂言に接してもらおうかと考えた。科学的なトレーニングではなく、繰り返し繰り返し、謡を謡い、舞を舞うことで、狂言師としての、声、足の運び方、立ち居、姿勢を作り上げて行くことを伝えたかった。これが連綿と続いてきた稽古法であり、また後も変わらず続いて行くであろうと思うからである。

留学生達には、常の稽古場と同じように、同僚の茂山良暢氏と二人で、謡「盃」と狂言セリフを口移して教え、最後に狂言「仏師」を見ていただいた。



エクスカーショ

美濃エクスカーショ ～伝統の美濃市を訪問

工学部・教授
大矢 豊

去る6月20日、スウェーデン・ルンド大学から岐阜大学サマースクールへ参加している15名及び日本語・日本文化研修生5名を伴って美濃市を訪問した。このエクスカーショは日本の伝統文化に直接触れることを目的としているものである。美濃市は近年、伝統文化やスポーツを通じた国際交流に力を入れており、我々の訪問を快く受け入れて頂いた。訪問の最初には市役所で太田松男副市長、森福子市議会副議長はじめ産業振興部長や観光課長らの出迎えを受け、ルンド大学の代表達に美濃市の紹介をしていただいた。

美濃市は美濃和紙とうだつの町並みでよく知られている。我々も市役所の後は『美濃和紙の里会館』を訪れた。ここでは参加者全員が手漉きで和紙を作り、世界的にも独特の品質があり時に芸術



的であるという和紙作りを体験した。会館には美濃の和紙を使ったあかりの展示もあり、訪問の後に知ったことであるが、うだつの町並みと和紙を使ったあかりアートの運動に対して、『第一回ティファニー財団賞伝統文化大賞』が贈られたそうである。

会館で昼食をとったのち、うだつの町に戻った。ここでは『うだつの町並み 着物を着て歩いてみましょう』というテーマで運動をしている『せびあ会』の方々のご協力を得て、学生全員がゆかたに着替



え、うだつの町並みを散策した。北欧の人たちは身長が高い人が多く、ゆかたが短いことと履き物が小さいということもあったが、しっとりした時間を送ることが出来たと思う。『うだつの上がない』の意味までは理解できたか分からないが。

最後は、『美濃 小倉太鼓』の皆さんと一緒に和太鼓を実際に合奏した。太鼓の先生である服部勝利さんの指導の元、和太鼓を力一杯演奏した。最初はおそろおそろであったが、一時間もたつと全員が力一杯太鼓をたたくようになった。最後には幾つかのパートに分かれて合奏まで出来るようになり、広い練習場いっぱい太鼓の音が鳴り響いた。

岐阜大学から近い美濃市で、この様に伝統的な日本を体験でき、非常に充実した時間を送ることが出来たと思う。美濃市の皆様はじめお世話になった方々にお礼申し上げます。



美濃エクスカーショ

せびあ会（美濃市）

「和紙とうだつの上がる町」美濃市に私達「せびあ会」が岐大サマースクールとして留学生の皆さんと交流出来た事をととても光栄に思っております。

美濃市は1300年の伝統を守り続ける美濃和紙（国の無形文化財）と、江戸後期から明治初期の商家のただ住まいを持つうだつの上がる町並みがあります。これらの町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区として注目されています。

私達せびあ会は岐阜大学祭に参加させていただいたご縁で、岐大サマースクールに計画から係わりを持つ事になりました。

今回、はじめて美濃へ留学生の方々に来ていただき、「着物を着てうだつの町並みを歩きましょう」を合言葉に散策計画をしました。これは、日本伝統文化の美のひとつである「着物」を着て、美濃の良さを知っていただくためにうだつの上がる町並みを散策するものです。

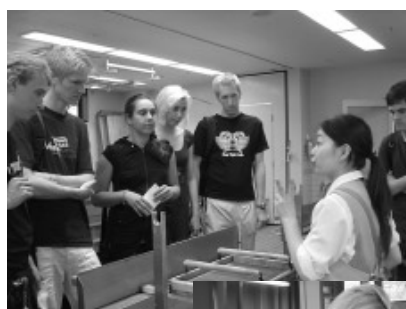
和紙の商いで栄えた城下町（うだつの上がる町並み）で浴衣を着て歩く情緒ある体験



は、下駄を履いて歩く、写真を撮る、買い物をする等と楽しい思い出づくりのお手伝いさせていただきました。又、紙漉き体験や美濃小倉太鼓の皆さんに指導と実演など、留学生の皆さんも気に入っていただけたのではと思います。特に美濃小倉太鼓の実演では留学生の皆さんのリズム感の良さに驚きました。

このサマースクールを推進して、本当に良かったと思っております。

又、関係者の方々のご指導をはじめ、行政、諸団体の方々にご協力をいただいた事に感謝をしております。



ます。

今後もこうしたサマースクールをはじめ、より多くの皆さんに美濃市へいらしていただき、私達のできるなかで「着物」を通しておもてなしやお手伝いをさせていただけたらと思っております。

美濃エクスカーショ スケジュール

8：30	バス宿舎出発
9：30～9：45	美濃市長面会
10：00～11：30	美濃和紙の里会館訪問 （紙すき・見学・買い物）
11：30～12：30	昼食（美濃和紙の里会館レストランにて）
13：00～14：00	浴衣を着ての町並み散策，旧今井邸およびあかりアート館見学
14：00～15：30	自由行動
15：45～17：00	小倉太鼓体験
17：00	バス美濃市出発

土岐エクスカージョン

応用生物科学部・准教授
岩澤 淳

7月4日、大学を午前8時半に出発して土岐の陶芸体験に向かった。この日はサマースクールの4週間コースが始まった2日後で、日本で既に1ヶ月を過ごした8週間コースの学生と1年間の日本語・日本文化研修生、引率者を合わせて総勢30名ほどが参加した。7月中旬からの酷暑の気配もまだなく、天候にも恵まれて爽やかなエクスカージョンであった。

2時間ほどで土岐の「織部の里」に到着し、国指定史跡「元屋敷窯」を見学した。桃山時代の美濃地域は日本最大の施釉陶器の産地であった由で、隣接する「美濃陶磁器歴史館」でも係員の日本語での説明を聞きながら歴代の陶磁器を見学した。「織部の里」を後に5キロほど南下し、「セラテクノ土岐」(土岐市陶磁器試験場)に向かった。同場が開発した「セラート」という特殊な陶器で鶴を折るという珍しい体験の後、隣接する「どんぶり会館」で作陶と絵付けを体験した。ロクロを使って花瓶や湯飲み作りに奮闘し、素焼きの皿やマグカップに日本語の詩、好きな漢字、キャラクターの絵、友人の似顔絵、武士の鎧姿など、思い思いに絵付けを行った。帰国までには焼き上がるとのことで、サマースクールのよい思い出になったことであろう。



土岐エクスカージョン

土岐市国際交流協会・会長
籠橋 一貴

平成20年度、岐阜大学サマースクールの日本事情講義（陶芸）が今年も土岐市で行なわれたことを、心からうれしく思います。土岐市は岐阜県の南東部に位置し、みどり豊かな自然に包まれ、古くからやきものの街として親しまれてきました。良質な粘土にも恵まれたことから周辺の街と共に、わが国、最大の産業地帯を形成しております。土岐市を中心にこの地方で生産される陶磁器を総称して美濃焼と呼び、食器類の生産では、全国シェアの60%以上を占める日本を代表するやきものの街であります。

今年のサマースクールでは、美濃国最初の登り窯と伝えられる国指定史跡である元屋敷窯跡、松坂屋の創業者である伊藤家の別荘（揚輝荘）にあった江戸時代中期頃の茶室を移築した（暮雪庵）、市内窯跡からの出土品を展示してある美濃陶磁歴史館を見学しました。また、セラテクノ土岐、どんぶり会館では、セラート紙からの折り鶴の制作、絵付け、ロクロの実演を行ないました。留学生の皆さんが実際に、土にふれ、土と格闘することで、日本の伝統文化である陶芸のおもしろさや、むつかしさを肌で感じ、先人の智慧や技術力、或いは、想像力を心で感じながら、世界に一つしかない自分だけのやきものを作ることが出来たと思います。この体験を通して少しでも陶芸に興味を持って頂ければ幸いです。来年度も日本事情講義の陶芸が土岐市で行なわれることを心より楽しみにしています。



土岐エクスカージョン スケジュール

9 : 00	バス宿舎出発
10 : 30~11 : 30	織部の里公園および美濃陶磁器 歴史館見学
11 : 45~14 : 00	昼食 (どんぶり会館レストランにて) セラート体験 (セラテクト土岐にて) ※2グループに分かれて実施
14 : 15~16 : 15	陶芸体験（轆轤および絵付け・ どんぶり会館にて）
16 : 45	バスどんぶり会館出発



郡上プログラム

留学生センター・准教授
土谷 桃子

毎年サマースクール参加生から、一番良かったと絶賛される郡上プログラムが、今年も郡上八幡国際友好協会と郡上市役所のご協力によって実施された。郡上踊りが始まる週末に合わせて、7月11日（金）に、サマースクール参加生全員24名と、引率3名（留学生センター長、留学生センター教員1名、事務職員1名）が郡上に向かった。7月11日から14日までのプログラムは、後掲のとおりだが、全て郡上の皆様がセッティングしてくださったものである。引率3名は、初日の歓迎交流会の途中まで同行させていただいた。よって本稿では、初日のプログラム内容と学生の様子について報告する。

連日の暑さと勉強の忙しさ(?)により寝不足気味の学生たちは、行きの車中ではしっかり睡眠を取り、いざ郡上へ乗り込んだ。オリエンテーションでこれからお世話になる方々から言葉をもらい、書道体験講座へと移った。講座では、事前に連絡した自分が書きたい漢字一字を、一人一人が先生の指導を受けながら書いた。先生の筆使いを凝視し、あるいは手持ちのカメラでビデオ撮影するなど、学生は真剣そのものであった。各自色紙を書き上げ、先生から団扇ももらって大いに書道を楽しんだ。昼食後は、昨年度同様八幡小学校を訪問し、5、6年生と交流した。熱烈的な歓迎を受けた後、校内を案内してもらい、それから体育館に集合して郡上踊りの「春駒」を教してもらった。汗をかきながらの春駒であったが、最終的に全員で大きな輪になって踊った様子は圧巻であった。次は、遊童館での紙細工体験である。館長水野政雄先生が楽しそうににこにこしながら紙とシールと鋏を操り、指先からあれよあれよと





言う間に怪物や虫や骸骨を湧き出すように作り上げるのを、学生は呆気にとられながら見つめていた。

朝方は曇っていた空が、時間が経つにつれて晴れ上がり、町内散策のころには眩しいほどの天気となった。郡上の山と川が織り成す美しい景色に感嘆しあちらこちらで立ち止まって写真を撮影する学生、水路を泳ぐ鯉に興奮して捕まえようと身を乗り出す学生、町を歩く学生の列の先頭と最後尾が恐ろしく離れてしまうという、引率にとっては恐ろしい状況になりつつも、町歩きを満喫した。夕食を取った後少し休憩を取り、いよいよ歓迎交流会でホームステイファミリーとの対面である。学生名が一人ずつ呼ばれ、次にその学生を受け入れてくださるご家族の名前が呼ばれる。学生の、どんな方だろうという、大きな期待と少しの不安が交じった視線が、ホームステイファミリーの笑顔に出会う瞬間には、なんとも言えない感慨を得た。これから3日間、どうか楽しく（しかしくれぐれも迷惑をかけずに）過ごしてほしいと願いながら、引率3名は郡上を後にした。

（尚、14日に迎えにいった担当者によると、学生たちはホームステイファミリーとすっかり馴染み、名残の尽きない様子でようやくのことで帰りのバスを発車させたということであった。行きのバスでは熟睡していた学生たちが、帰りは興奮冷めやらぬ様子で眠るどころではなく、すっかりハイな状態で宿舎まで帰ってきたそうである。）

末筆になりますが、1996年度以来、毎年郡上プログラムの実施にお力を尽して下さる郡上八幡国際友好協会、郡上市役所、そして郡上の皆様に、心よりお礼を申し上げます。今後も変わらぬご協力・ご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。どうもありがとうございました。

郡上プログラム スケジュール

7月11日（金）	
8：30	バス宿舎出発
10：00～10：40	郡上市着・オリエンテーション
10：45～12：00	日本文化体験講座（書道）
12：15～13：00	昼食
13：15～14：35	八幡小学校交流会・郡上おどり
14：45～16：00	日本文化体験講座（紙細工）
16：00～17：15	町内散策
17：15～18：45	夕食・自由時間
19：00～20：30	歓迎交流会 （のち各ホームステイ宅へ）
7月12日（土）	
9：20～10：00	日本文化体験講座（座禅）
10：20～11：30	日本文化体験講座（茶道）
11：30～13：00	昼食・意見交換・休憩 （のち各ホームステイ宅へ）
7月13日（日）	
終日	ホームステイ宅にて過ごす
7月14日（月）	
9：30～10：30	反省会・記念撮影
10：30	バス郡上市発



大相撲名古屋場所観戦

教育学部・准教授
柳沼 良太

2008年7月17日（木）の晴れた暑い日にサマースクールの一環として留学生たちと大相撲の名古屋場所を観戦しに行った。岐阜大学からバスに乗って一時間くらいで愛知県体育館に着いた。学生たちは相撲を知ってはいるものの、実際に会場で見るとは初めてらしく、会場前の横断幕や色鮮やかな旗を見ては驚き、写真を撮って盛り上がっていた。

入場したのは3時過ぎくらいで十両の取り組みだったが、迫力ある関取の相撲に留学生たちはすぐに魅了されていた。観戦する席は後ろの方だったが、力士のぶつかる音や張り手や足捌きの音ははっきり聞こえてきた。その後、十両の土俵入りとなり、色とりどりの化粧回しを見て喜んでいった。留学生たちは、特に外国人力士に際際歓声を高くし、琴欧州や把瑠都、白鵬、朝青竜には盛んに拍手を送っていた。ただルールとは関係なく、ひいきの力士が勝とうと負けようと大いに喜んでいたようだ。また、相撲会場では様々なお土産物やお菓子が売られていたので、いろんなグッズを買って楽しむ留学生たちもいた。

当日の結びの一番では横綱・朝青龍が栃乃洋に敗れる波乱があり、会場中に飛び交う座布団で大いに沸いた。帰りのバスの中では、大相撲にちなんだ豪華なお弁当とお茶をいただき、留学生たちは大相撲の醍醐味を語り合いながら帰途に着いた。



鵜飼観覧

教育学部・准教授
柳沼 良太

2008年7月25日（金）にサマースクールに参加する留学生たちと一緒に長良川の鵜飼を観覧しに行ってきた。



岐阜大学を午後5時頃にバスで出発し、30分ほどで鵜飼観覧船乗り場まで辿り着いた。現地では、まず鵜匠の方から鵜飼の歴史や衣装や漁の方法について説明があった。伝統的な装束を身にまとった鵜匠の話は、面白くてためになり、留学生たちも熱心に聞き入っていた。

その後、6時頃に観覧船を貸しきって出かけることになった。船内ではすぐにお弁当の時間となり、鮎料理や刺身など伝統的な日本料理のお弁当をいただいた。留学生には珍しい料理ばかりだったかもしれないが、みんな美味しそうに食べていた。その後、船で少し上流に昇って小一時間ほど岸辺で休憩をし、辺りが暗闇に覆われた7時40分頃から鵜飼が始まった。



留学生たちは鵜飼の方法に関心を寄せ、鵜が水に潜ったり出てきたりするのを興味深く眺め、いろんな角度から

写真を撮っては歓声を上げていた。さらに、8時頃には花火がたくさん打ち上げられ、留学生たちは川面に映る花火と篝火を共に観て楽しんだ。最後の総がらみで漁をするあたりは、留学生たちも圧巻だったようで凝視していた。

鵜飼は1300年もの歴史をもつ伝統文化であるため、留学生たちも岐阜の地で日本文化を体験的に楽しみつづけたのではないかと思います。

鵜飼観覧

留学生センター・准教授

吉成 祐子

7月25日金曜日夕方、日研生5名、サマースクール生24名、引率者5名の総勢34名で鵜飼い見学にむかった。この日も暑く、アイスクリームやジュース片手にバスに乗り込む学生がほとんどだった。長良川までの車中では「只今の気温37度」という電光掲示板の表示を見つけ、皆ぐったりしていた。

川に着くと、まず鵜匠から鵜飼いについての説明があった。その後、岐阜大学サマースクール専用の船「芙蓉丸」に乗り込み、上流へ向かった。おなかogaすいていたのか、学生たちは船が岸を離れる前からお弁当を食べはじめ、上流に着くころにはすっかり食べ終わっていた。その後、河原に降りる人、船の上でおしゃべりする人など、鵜飼いまでの小一時間をめいめいに楽しんでいた。日が暮れるまでのこの時間、私はいろいろな学生と会話を楽しんだのだが、彼らの日本語の上達を実感した。

暗くなり、かがり火がたかれ、鵜飼いがはじまった。学生たちは、間近で鵜が泳ぎ、魚を捕らえる姿を熱心にカメラにおさめていた。しかし、間近で見ることのできる時間はほんの15分ほどだった。結果としてほとんどが待ち時間となり、涼しければそれもよかったのだが、風も吹かず、温度も下がらずで、船で横になって寝る人や、のどの渴きをうったえる人など、疲れているようだった。しかし、長い待ち時間の間に話をしてきた分、学生同士の交流は深まったように思う。

文化の面でも気候の面でも、岐阜の夏を体験できるイベントとなったのではないだろうか。



工学部との交流授業

サマースクール参加生・数理デザイン工学科交流会

工学部数理デザイン工学科・助教 新田 高洋

7月2日にルンド大学からのサマースクール参加生と工学部数理デザイン工学科1年生との交流会が行われました。この交流会は、本学科のフレッシューズセミナーにおけるグローバルメールプロジェクトの一環として行われました。このグローバルメールプロジェクトとは、学生の国際性涵養を目的に海外の大学生とのメール交換を通して国際交流するというものです。今年度からはメール交換に加えて交流会を行うことにより、より生の国際交流を体験することを目指しました。

交流会では、ルンド学生の自己紹介から始まり、本学科学生の発案による日本文化の紹介が行われま

した。その後、ルンド学生とのフリートークを行いました。このフリートークを通して、数理学生はルンド学生の向学心、語学力、積極性に大きな刺激を受けたようでした。これに伴って、数理学生からは「英語学習に対する意欲が向上した」、「異文化への関心が強まった」などの感想がありました。このように、グローバルメールプロジェクトに交流会を組み入れたことは大変有益だったと思います。

最後に、本交流会の趣旨にご賛同いただき、ご協力くださった土谷先生をはじめ、留学生センターのスタッフの皆様に感謝いたします。



岐大生との交流授業

留学生センター・准教授 吉成 祐子

7月2日木曜日の午後、岐阜大学工学部数理デザイン工学科主催によるルンド大学学生との交流会が行われた。留学生の自己紹介から始まり、工学部の日本人学生による日本文化紹介の発表、そしてグループに分かれての談話の時間が設けられた。

工学部のピロティが会場となっており、発表用のプロジェクター、テーブルや椅子が準備されていた。人通りもあり、マイクもなかったため、全体を前にした発表では声が聞こえづらかったが、開放的な雰囲気がよかった。ただ、留学生のテーブル、日本人学生のテーブルに分かれて着席してしまったため、交流する機会を減らしてしまったように思う。

折り紙の作成やカルタ取りの実践、写真を用いた岐阜の紹介や日本の食べ物の試食など、楽しい企画が多かっただけに、一緒に楽しみ、それを話題に語り合うという場にならなかったことが残念であった。

最後に行われたグループごとの談話時間では、話し声が途切れることなく、楽しそうに会話している姿が見られた。サマースクール生は学外研チューター以外の日本人学生と話をすることがあまりないので、よい経験になったのではないだろうか。このような点からも交流会は意義深く、今後も続けていただけたらと願っている。



4週間コース歓迎会

「友達」という宝物

地域科学部2年 瓜野 早紀

スウェーデンからのサマスク生15人が来日して1か月、新しく韓国から8人、アメリカから1人サマスク生がやってきました。ウェルカムパーティまでの数日間はお互い緊張していたのか異国間の交流は見られませんでした。なのでこのパーティの目標はサマスク生が国境を越えて仲良くなることです。

主催者であるチューター達はサマスク生たちが喜んでくれるような料理を作り、みんなが仲良くなれて楽しめるようなゲームを企画しました。話し合いの結果決まった料理はたこ焼き、手巻き寿司、豚の角煮、天ぷらや雑炊などの伝統的かつ人気の日本食です。サマスク生は美味しいと言ってたくさん食べてくれたのでとても嬉しかったです。みんなで日本

食を囲み、わいわい食べました。そして交友を深めるためのゲームは「絵心」と「ジェスチャーゲーム」でした。絵心ではとても絵がうまい子がいて新しい一面を発見し、ジェスチャーゲームではみんな恥を捨ててジェスチャーをしました。みんなが笑顔になりとても楽しんでいました。そして最初は同じ国の友達と話していたサマスク生たちもいつの間にか国境を越えて仲良くなり、夜遅くまで話し込んでいました。

このウェルカムパーティをきっかけにスウェーデン、韓国、アメリカのサマスク生とチューター達全員が友達になれたことはいうまでもありません。みんなの笑顔があふれていたパーティは最高の思い出です。



ウェルカムパーティー

教育学部1年 松野 綾野

7月5日、4週間コースの参加者たちのウェルカムパーティーが行われました。このパーティーで、約1ヵ月前から日本にいるスウェーデンズ&チューターズで、韓国とアメリカからの参加者を歓迎しました。

主催はチューターズで、角煮・手巻き寿司・雑煮・天ぷら・たこ焼き・かき氷などの日本食を作りました。ちょうどこの時期、チューターの中で体調不良の人が続出し、準備をするチューターは10人も集まらず、とにかく料理を作って盛りつけるのは大変でした。また、ホールには少し前から作っておいた輪飾りや、サマスク生が作った折り紙などで飾りつけをしました。このときスウェーデンのサマスク生が飾りつけを手伝ってくれ、とても助かったのを覚えています。いろいろとハプニングはあったものの、無事に料理も飾りつけも完成し、パーティーを楽しく始めることが出来たときは本当に嬉しかったです。

料理は、スウェーデンの子も初めて食べるものもあったようで、韓国やアメリカの子たちと混ざって、みんな喜んで食べていました。特に、角煮とたこ焼き・天ぷらに人気が集まりました。頑張って作った分、皿が少しずつ空になっていくのを見るの

は、なんともいえない嬉しさがありました。

食事の後は、みんなでゲームをし、交流を深めることが出来ました。このときの絵心というゲームで描いた絵は、サマスクの中の濃い思い出の一つです。この日は夜遅くまで日本のことを話したり、日本のゲームをやったりしてとても盛り上がりました。初めはぎこちなかった韓国やアメリカの子も、パーティーを通してスウェーデンの子やチューターと打ち解けていくことが出来ました。

ウェルカムパーティーの準備は大変だったけど、サマスク生たちの喜ぶ顔がたくさんの場面で見られ、本当に充実感でいっぱいでした。また、サマスク生とチューターが仲良くなれたのはもちろんのこと、チューター同士もさらに仲良くなる事が出来ました。サマスクを通して、思い出すと何時間も話し続けられるような思い出が自分の中でたくさん出来ましたが、このパーティーがその中の一つ、しかも上位にランクインしていることは間違いありません。スウェーデンズとチューターズ全員で4週間の子たちをウェルカムできたこと、ウェルカムする側にもされる側にも、とても良い思い出になって良かったです。



夏期短期留学参加者名簿

No.	氏名	性別	大学
1	ベネウス カッレ セバステイアン Beneus, Kalle, Sebastian	男	ルンド大学
2	エーウダール エリーン ジョハンナ Ekdahl, Elin, Johanna	女	ルンド大学
3	ヘイスカ ヤコブ セン イーヴァンヴィルメル Heiska, Jacobsen, Ivan, Vilmer	男	ルンド大学
4	ヨハンソン ステファン ルスタンティミー Johansson, Stefan, Rustan Timmy	男	ルンド大学
5	カアマン アルベルト エリク Kaaman, Albert, Erik	男	ルンド大学
6	クヌートソン カール アクセル マンフレッドニクラス Knutson, Karl-Axel Manfredniklas	男	ルンド大学
7	クタス ガブリエラ ペトラ Kutas, Gabriella, Petra	女	ルンド大学
8	クヴィント グンナルソン ヨハン アルネ Kvint, Gunnarsson, Johan, Arne	男	ルンド大学
9	ラーソン マルティン ロベルト ヨアキム Larsson, Martin, Robert, Joakim	男	ルンド大学
10	ロヴェーン デニス エミル イングマル Lovén, Dennis, Emil, Ingemar	男	ルンド大学
11	ルンダール ヨハン イングヴァル アンデス Lundahl, Johan, Ingvar, Anders	男	ルンド大学
12	レンディン パトリック ニルス Ländin, Patrik, Nils	男	ルンド大学

No.	氏名	性別	大学
13	ニルソン ヨーエル カール アルビン Nilsson, Joel, Karl, Albin	男	ルンド大学
14	スヴァンストロム ヤコブ Svanström, Jakob	男	ルンド大学
15	ソデルストランド ダヴィド ヨーエル Söderstrand, David, Joel	男	ルンド大学
16	ソン ス キム SungSoo, Kim	男	ソウル産業大学
17	ジ ヨ ソン Ji, Yeo Sun	女	ソウル産業大学
18	キム チャヨン Kim, Ja-Yeong	女	ソウル産業大学
19	カン ソックヨン Kang, Seok-Hyon	男	ソウル産業大学
20	カン ヒョング Kang, Hyun Goo	男	ソウル産業大学
21	ソン チュヘ Son Juhee	女	木浦大学
22	チェ ユリ Choi Yuri	女	木浦大学
23	パークドゥハン Park Doohwan	男	木浦大学
24	ロングハスト チェルシ フェ Longhurst, Chelsea, Fae	女	ユタ州立大学

ホームステイファミリー ～郡上から～

7月11日（金）から14日（月）まで、郡上市でエクスカージョンとホームステイを行いました（p. 15参照）。現地でお世話になったホストファミリーの皆様が感想文を送って下さいました。

ホームステイを受入れて（猪島榮三さん）

私の家族は、私達夫婦、長男夫婦と五歳と一歳半の子供の六人です。今回ホストファミリーのお話があった時、最近韓国ドラマをよく見るようになり、韓国の歴史や文化、料理に興味を持っていましたので、韓国の女子学生を希望しました。

対面式で会った彼女は、ひかえ目でおとなしい印象を受けました。家に着くまでの車中で、ご家族のことや、地域の事などを聞きました。家に着いてから、トイレやお風呂の使い方を説明し、時間も少し遅くなっていましたが、行ってみたい所はないかとか希望などを聞いてみました。世界遺産という言葉が理解出来なかったようで、電子辞書を出して調べていました。

私の家族も、少しでも日本らしい所を目で見て感じてもらいたいと思い、二日目の午後は、地元の阿弥陀ヶ滝と白山博物館を案内し、夜は、ゆかたを着て郡上踊りに行きました。三日目は、同じ町内で、彼女と同じ大学の女性を受入れてみえる家族の人達と、白川郷と高山に行きました。その時は、彼女も友達と一緒になので会話も弾みリラックスしている様子でした。

ホームステイの三泊四日の期間は、丁度気心も知れてこれからお互いに打ち解けて話も出来るときに別れが来るような気がします。最初の印象通りずっと静かでおとなしい子だったので、楽しんでくれているだろうかと不安になることもありました。しかし、何をやるにもノーと言わず、何でも一緒にやってくれました。

お別れの日、主人が仕事で見送りに参加出来ないで、朝食の時、「あなたがお父さん、お母さんの子として産まれたように、あなたが私の家に来てくれたのも、私たちとご縁があったから」と言ったことに深くうなずいてくれました。彼女が反省会で、「子供達もかわいかったし、楽しかったです」と言ってくれた時、初めて彼女の気持ちを聞き、ホストファミリーをして良かったと思いました。

ヨーエルと過ごした日々（杉下浩子さん）

スウェーデンといえば、スカンジナビア半島にある国でブルーベリーと木工製品が有名ということぐらいの知識しか無い私の家に、スウェーデンの Lund 大学で日本語を学んでいる男の子が来てくれました。

まだ一年ほどしか日本語を勉強していないのに、日常会話はほとんど問題なく、敬語が難しいと話す彼に、何とか役に立ちたくて、敬語で話す練習をしました。彼のユーモアとインテリジェンスの高さと、ゆっくり落ち着いた生活ぶりに日頃バタバタと忙しく、心もイラ立ちがちな私は、学ぶことの多い日々でした。

ヨーエルは日本のまんがを五年ほど前から読んでいて、男の子らしく戦いの多い物語で、言葉遣いは武士の様な昔の言葉遣いでした。少し私達家族に慣れると、彼は私や主人のことを、母上、父上と冗談ぽく呼んでくれました。私達も悪のりし、武家の言葉を話そうとするのですが、テレビの時代劇からしか武士の言葉の知識がなく、変な言葉になって皆で笑ってしまいました。

ヨーエルは魚が嫌いだと話し、寿司はあまり食べたことが無いと聞いた主人が、「日本の美味しい寿司を食べて好きになってほしい。」と話し、主人お勧めの寿司店に皆で行きました。トロやウニ、カズノコ、ヒラメ、タコ、イカ、マグロ、赤貝、アナゴなどいっぱい挑戦して、ほとんど食べることができました。無理やり美味しいと言わせたのかもしれませんが。

何より私達がお寿司屋さんでヨーエルに驚いたのは、頑張ってお寿司を食べてくれたこと以上に、日本語のみならず英語やドイツ語も話せることでした。そんな彼と共に過ごし、もう三十歳若ければ、私も世界に飛び出したいと思ったのですが…。ヨーエルを通して、スウェーデンのことが少し身近になりました。

ヨーエルさん、私達の家に来て下さって本当に有難うございました。国際友好協会の皆様にもこの機会を与えて下さったことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ホストファミリー体験記（細川清光さん）

3回目のホストファミリー体験でした。

ここ数年来、韓国に関心がある私には、この岐阜大学サマースクールの郡上で3泊4日のエクスカージョンは、待ち遠しい年行事のひとつになっています。

今年も、韓国の学生さんを迎えました。チャヨンという女の子でした。彼女の日本語力は相当なもので、また礼儀正しく、性格の良い子でした。

日本に関心がある学生ですから、それに答えるためにも、ありのままの日本を見せるのが良いと思います、特別なことは何もしません。「郡上踊り」「白川郷」「すし」の三点と、あとは花火、散歩、買い物などを時に応じてした程度です。

韓国のこと、日本のことなど、私たちはまるで父と娘のような感じでいろいろな話をしました。

楽しい4日間でした。今後もこの関係を続ける約束で、再会する時までしばらくのお別れです。1回目、2回目に我が家に来てくれた学生たちとも現在も連絡を取り合っていて、私には韓国に三人子どもがいるような気持ちです。

今まで苦手だったパソコンも必要なものになり「五十の手習い」よろしく、楽しんでいます。関係者の皆さんに感謝しています。そして韓国の子どもたちにも。

宿舎チューター

「交流の輪」

応用生物科学部 4年 太田 沙織

今年で3回目のチューターをやらせて頂きました。今迄に、たくさんの愉快で楽しい留学生やチューターの仲間と出会いました。今年のサマースクールでは、去年以上ににぎやかで行動的なスウェーデン人、いつもゲームやご飯に誘ってくれる優しい韓国人、言葉の壁があってもジェスチャーで頑張って交流したアメリカ人との出会いがありました。自分が担当チューターの日が楽しみで、夜は寝るのが惜しいくらい語らいをし、笑い合った日々が昨日のように思い出されます。

最も印象に残っているのは歓送会です。チューターは浴衣に着替え、歌を発表します。留学生は上手になった日本語でスピーチをし、留学プログラムの修了証を誇らしげに見せてくれます。国も年代も違う人々が笑顔で会話をし、写真を撮る、そんな、温かい雰囲気に包まれた歓送会に参加すると、私はすごく幸せな気持ちになります。3年間歓送会に参加する度に、こうして毎年毎年、サマースクールは続き、交流の輪がどんどん広がってっていくことはとても素晴らしいことであると実感します。

サマースクールの留学生やチューターと再会するのが今の楽しみです。

今年、ソウル産業大学へ留学に行った際に、多くの留学生が歓迎してくれました。年月がたっても、

日本語と私達チューターのことをずっと覚えていてくれて、サマースクールの日々を昨日のことに語りあうことができ、本当にチューターをやっていたよかったなあ、と思いました。お互いの強い思いがあれば、交流は必ず続くと思います。サマースクールでの出会いを大切に、メールや手紙等で交流を続け、お互いが社会人になっても「また会えたね!」と言える関係をずっと維持していきたいです。

最後に、3年間サマースクールで出会った全ての方々から感謝しています。ありがとうございました。



一瞬の出会い 一生の絆

応用生物科学部 4年 加藤 友崇

「お会いできて本当に嬉しいと思う。正直に言って、また会えるかはわからないけど、また会うその日、恥ずかしくならないように二人とも頑張ろう

ぜ。」

心の底から一生を誓った大切な親友からのメッセージ。お互いをつなぐ二人の言葉。

“一瞬の出会い 一生の絆” 3年目で最後となった今年のサマースクールを終え、今までを振り返ると思ひ浮かぶ言葉です。

サマースクールは今まで暮らしてきた場所や過ごしてきた時間に関係なく、人生の中で一瞬の出会いさえあればどんな人とも必ず分かり合えること、大切な友達になれることを教えてくれました。毎年やってくるひと夏のちいさなイベントは僕たちチューターにとって、とっておきのひと時を過ごすための特別な時間なのです。

・08チューターズへ

みんなにとって今年のサマースクールはどうでしたか？俺は今年みんながチューターをしてくれて、最後のサマスクがこのメンバーで本当に良かったよ！！

“人を好きになることは、自分を好きになってもらうこと”

自分を好きになってくれて、ありのままを見せてくれる人を嫌いにならないように、自分が好きになった人にはありのままの自分を見せることが出来て、そしたら相手も好きになってくれる。みんなは俺のことを「トモさんは変態」だの「トモさん気持ち悪い」だの「ありえん」だの数々の褒め言葉を投げかけてくれたけど、それでも何だかんだ俺と一緒に居た時間を楽しんでくれたってと信じてるよ！俺はみんなが大好きで、みんなと居るのがひたすら楽しかったから。

今年のサマースクールが始まる前は「これが最後のサマスクだ」って考えてしまって少し寂しい気持ちになってたけど、終わってみると楽しかったことはもちろん、苦労したことや泣いたこともひっくり

めて、みんなとの思い出のおかげでお腹がいっぱいになってました。俺もみんなの中に、何か一つでも、先輩として残せたモノがあればいいな。

来年はみんなが先輩としてサマスク生の上に立って、子供のようにしゃいで、馬鹿みたいに笑って、サマスクに参加する全てのヒトを好きになって下さい。

・これからチューターになる人へ

サマースクールのイメージは留学生と異文化交流ができる場所って感じる人が多いと思うし、実際にそうだと思います。でも僕らチューターから見たサマースクールっていうのはそんな他人行儀な付き合いじゃなくて、ただ純粋に友達として心の絆をつなぐ場所だと思っています。

みんなと一緒に歩いていると自然と注目を受けるし、留学生と歩いている自分を見た友達に「お前変わってるよね」って言われることだってあるかもしれない。でもそれは僕らを外から見ているからで、チューターとしてサマースクールの輪の中に入ると、そこに居るのはなんら変わらないただの友達で、一緒にご飯を食べたり、お酒を飲んだり、星を観たり、恋を話したり、本気で夢を語ったり、時にはシャワールームで裸のままふざけ合ったりなんかもある“大切な友達”。

少しでも興味があるならどんどん僕らの輪の中に入ってきて下さい。不安があっても勇気を出して一歩を踏み出して下さい。陽気なチューターズと賑やかなスウェーデンズ、優しいコリアンとおおらかなアメリカンが必ず不安なんか吹き飛ばしてくれるからさ！！ねっ！

コミヤン！コミヤン！！！！



「ありがとう」

応用生物科学部 4年 田中 亜依

今年は、私にとって特別な意味のサマースクールでした。チューターとして、サマースクール生の助けとなるための役割はもちろんでしたが、「後輩を育てよう。」これは今回の先輩チューターの心意気です。チューター4年目として、後輩へ伝えられることをありがたげに伝え、思いっきりサマースクールを楽しむというのが今年の、最後の私のチューターとしての意気込みでした。

今年のサマースクール生は、短い時間の中を思いっきり楽しんで学んでやる！という気持ちがとてもよく表れている行動派ばかりでした。日本での旅行を計画したり、名古屋観光、カラオケ、焼肉、100円ショップ、水戦争、トイレ遊び（みんな！あれはお風呂遊びだよ！）、蛍、ジブリ、星を観る会、花火、そして恒例のパーティー！パーティー！パーティー！かと思えば、みんなで机に宿題を並べて頭をかかえて勉強している姿も見ました。私も、彼らに便乗し遊びに遊んで、勉強をお隣でやらせていただきました。また、将来について語ったり、恋話をしたり、それぞれのお国事情を話したり、国は違っても学生の悩みは皆同じなんだなと思ったりします。そんな愉快で、頼もしくて、ステキで、ちょっぴり涙もろいみんなのことが大好きです。楽しい時間をありがとう。みんな！会いに行くからね！スウェーデンも韓国もアメリカも！

チューターは意外に難しい仕事なんだなと、今年は改めて思いました。それは決してチューターの仕事を軽く考えていたわけではありません。今年の後

輩チューターがしっかり者で、彼らが新しく話し合いの場を設けたり、少しでも皆にとってステキなサマースクールになるように動いていたからです。そのために、いろいろ意見のぶつかり合いもありましたが、私が気合を入れていた以上に彼らが気合を入れていて、とても頼もしかったです。そんな彼らとチューターができて、とても心強く、楽しかったです。一緒にいてくれてありがとう。また来年も頑張ってください。

チューターで私の憧れの先輩が、『サマースクール生にとってこの夏は忘れられない一生の夏になっている。彼らの日本の思い出はこのサマースクールなんだよ。』と言っていたことがあります。私はこの言葉が胸に今でも響いています。私にとってもサマースクールは、大学生活であり、いつも一番輝いている時です。皆と過ごす時間は、二度と来ない夢のような時間です。でも、何よりも嬉しかったことは、そのサマースクールをサマースクール生が楽しい時間だったと言ってくれたことです。そして、そんな大好きな彼らの時間に関われたことです。今年は4年生だということにも関わらず、チューターとして参加させてくださってありがとうございました。今まで、私の大学生活に、これほどにないくらい楽しくて、幸せな、かけがえのない時間をくださったことを、サマースクールに関わる全ての方に心からお礼を言いたいです。ありがとうございました。これからも、このような素晴らしい時間が続くことを願っています。



サマースクールチューター感想

工学部2年 原田 剛志

チューターになって外国の方と触れ合い、交流して多くのことを学びました。

得たものもたくさんあります。得たものは「視野」、「積極性」、「勇気」、「絆」です。

チューターになって、以前よりも広い視野を手に入れました。スウェーデンの生活様式や民衆娯楽などについて話を聞いて見聞を広め、スウェーデン語と英語の共通点・相違点の話を聞き、日本語との違いを意識しました。スウェーデン語の慣用表現を日本語に直訳すると意味のわかりにくい言葉を教えてもらえました。例えば、「とてもおいしい」と言うとき、スウェーデン語では「ひどくおいしい」「死んでいる動物のようにおいしい」などというようです。日本語より広義の意味があるのではないかと思います。日本と外国の違いを意識して、物事を広く捉えられるようになったと思います。

初めて外国の方に、自分から声をかけました。最初はとても勇気が要りました。しかし、「このままではいけない。何のためにチューターになったのだ」と思い、初心を思い出し積極的に話しかけました。相手の日本語が上手ということもありますが、しっかりとコミュニケーションが取れ、自分に自信が持てました。これから、この経験を活かし積極的に会話ができると思います。私は、人との会話が消極的なので、この経験は大きいと思います。

チューターとして過ごした2か月を通して、人との「絆」を意識しました。留学生との絆、チューターとの絆、サークルの友達との絆です。生活を共にし、パーティを重ねるごとに親密になっていきました。一緒に語り、笑うという何気ないひと時が一生の宝ものだと思います。何年たっても、忘れたくない思い出です。

同じ日本人のチューターとの絆も深まりました。支えあって協力して、一人では到底できないチューターの役割を達成できたと思います。

チューターをやって感じたことも数多くあります。「世界は意外と近い」、「外国人と言っても同じ『人』」、「楽しい」、「難しい」と感じました。

私は、外国人はとても遠い存在だと思っています

た。もしかしたら関わることはないかもしれないとまで思っていました。しかし、チューターをやり、スウェーデン人や韓国人、アメリカ人の方と話をし、自分と同じなのだということを認識しました。考え方は違っても物事の感じ方は同じでした。自分が面白いと思ったことを、外国の方も面白いと感じます。当たり前のことを強く認識できた2か月でした。

カラオケや卓球、トランプ、チェス、花札など留学生とたくさん遊びました。洋楽を歌う人、日本語の歌詞を歌う人がいて、みんな違うなと思いました。卓球では大人数で台の周りを回り、ラリーを続けるというゲームをしました。新しい遊びを知って新鮮でした。外国のトランプゲームを知り、韓国の若い人の間でとても流行っているという花札を知りました。花札は日本のゲームですが、今では韓国の方が多く遊ばれているようです。



今回、自分の中で課題が浮き彫りになりました。全員と話そうと心掛けていましたが、特定の人と話すことが多かったことがすこし心残りです。文化について深い会話ができたといい反面、全員と同じレベルで交流することはできませんでした。最後まであまり話せなかった人もいます。もし次の機会があるならば、この失敗を活かして全員と交流したいと思います。

チューターとして過ごした2か月は、私のこれからの考え方、行動に影響を与えるはずでした。得たこと、感じたことを糧にして、成長できたと思っています。他者からみれば小さい成長かもしれませんが、しかし、自分にとっては大きな一歩です。この経験を活かしてこれからの進んでいきたいと思っています。



サマースクールチューター

地域科学部2年 牧田 真奈

昨年は、サマースクールの派遣に参加し、今年を受入のサマースクールを体験しました。チューターは夏休みに入るまでの2ヶ月間、日本に来たスウェーデン、韓国、アメリカの人たちと共に生活をし、日本での生活をより良く、楽しい毎日を送ってもらうお手伝いをします。やらなければならないこともたくさんあり、どうなるのかという不安や、下宿しているわけでもない自分が、留学生に日本の生活をサポートなどできるのかと心配でしたが、昨年残すことのできた素敵な思い出を、すこしでも岐阜に来る留学生にも感じてもらいたいという思いで参加しました。

しかし実際には、留学生から教えてもらうことも少なくなく、楽しい思い出をもらうばかりでした。昨年の派遣のサマースクールと違って、ホームステイではないため、同世代の留学生と深く交流ができました。どちらも良い経験となりますが、今回は、大勢の人と楽しく過ごす時間が多くありました。みんなでパーティーをしたり、夜遅くまで談話した

り、花火をしたり…。ホテルの淡い光に感動を覚えたことや、寮の屋上から一面の星空を眺めた日々は、学校や仕事だけではわからない大切な時間です。ほかにも、毎日の晩御飯は楽しみの一つでした。チューターのみんなと話し合っご飯を買いに行き、教えてもらいながら料理したり、留学生の作る少し変わった料理などをちょっともったり、みんなでかき氷を食べたりしました。出されるもの、あるものを食べるだけだったこともあり、大勢で作って食べるというのはとても楽しい時間でした。たった2ヶ月というほんのわずかではありましたが、毎日が充実した時間となりました。

文化が違うからといって生活する人が全く違うわけもなく、国境なんて関係なく、人と人のつながりをとめるものは何もないのだと改めて思いました。こうして出会い、楽しい思い出が作れたことを幸せに思い、留学生のみんな、チューターやチューターのOB、先生方に感謝します。



「ありがとう」

教育学部2年 依田 芽生

昨年に引き続き、2度目のサマースクールのチューター。昨年とは違い、ただサマスクを楽しむだけでなく、他のチューターを引っ張り、サマスク

生とも面と向き合っていかなければならない立場での参加。「2ヶ月間、サマスク生に楽しい思い出を作ってあげることができるだろうか」「今年はどう

な人と出会えるんだろう」。少しの不安と、たくさんの期待を持ってサマースクール初日を迎えました。Welcome Party に始まり、ホテルを見に行ったこと、ミッドサマーでスウェーデンの文化に触れたこと、みんなで映画を観たこと、カラオケに行ったこと、20人以上の大人数で回転寿司に行ったこと、2ヶ月間の思い出は数え切れないほどあります。

2度目のチューターということもあり、初日から臆することなく話しかけることも出来、さらにスウェーデン・韓国・アメリカと国を問わず、サマスク生はみんなフレンドリーだったため、すぐに仲良くなることができました。チューターズも昨年に引き続き、個性豊かなメンバーが揃い、サマスク生の生活のサポートをするため、多くの思い出を作るため、精一杯頑張ってくれました。サマースクールでは、パーティなどを通して様々な人と親交を深められる他、異文化等について学ぶことも本当に多く、日頃、ただ淡々と大学生活を送っている私にとって、この2ヶ月間は1年の中で最も楽しく、刺激的



な時間といっても過言ではありません。スウェーデン語や韓国語、英語等、それぞれが知る言語を教え合ったり、文化の違いに驚いたり、それぞれの国の料理を披露したりと、チューターとして過ごす日々は毎日が新しい発見と楽しさで溢れていました。

2ヶ月間、辛いこともたくさんあり、考えることも多くありましたが、それ以上に、楽しいこと、学ぶこと、自分に返ってくるものは多かったです。今年もサマースクールのチューターに参加させて頂いたこと、本当に感謝しています。そして、チューターズ。経験者として至らない点も多く、迷惑をかけることもあったと思うけど、チューターズのみんながいたからこそ、最後までサマスクを楽しみ、サマスク生にたくさんの思い出を作るため、一生懸命やってくることができたと思います。本当にありがとう。

最後に…。このサマースクールを通して出会ったすべての人々に感謝します。最高の2ヶ月を本当にありがとうございました。



出会い

工学部1年 鈴木 美香

私は友人に紹介されて初めてチューターを経験しました。スウェーデンから来たサマスク生と初めて対面した日は、私とあまり歳が変わらないのにかなり年上に見える面立ちと高い身長に非常に驚いたとともに、これから2か月間仲良くやっていけるのか不安な気持ちになりました。ところが仲良くなるまで時間はかかりませんでした。これは4週間コースで日本に来た韓国とアメリカのサマスク生も同じで

した。みんなでどこかに遊びに行ったり、食事をしたりと毎日楽しい日々ばかりでした。また彼らと共に過ごす生活の中で、チューターはサマスク生に教える立場であるとばかり思っていたのですが、私は彼らから多くのことを学ばせてもらいました。その中でもチューターとサマスク生の何人かで反省会を開いたときに韓国の男の子が言った「自分が努力しなければいけないんだ。」という言葉が今でも私の中

で強く残っています。友達を作るにしても、勉強するにしても結局自分の努力次第なんだと。。

このチューターをやって良かったと思うことは異国の人とふれあえるということはもちろんですが、もうひとつ、様々な人たちとの出会いはとても大きかったです。このサマースクールで12人のチュー

ターたちと24人のサマースク生と友達になりました。また留学生センターの方たちには大変お世話になりました。貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。最後に英語が苦手な私でしたが、外国語に興味を持つ良い経験になりました。次は私がスウェーデン及び韓国、アメリカに行く番です！！



宿舎チューター名簿

（学年順・50音順）

No.	氏名	所属学部
1	太田 沙織	応用生物科学部食品生命科学課程 4年
2	加藤 友崇	応用生物科学部生産環境科学課程 4年
3	田中 亜依	応用生物科学部生産環境科学課程 4年
4	瓜野 早紀	地域科学部 2年
5	大橋 未園	教育学部生涯教育講座 2年
6	神田 優基	応用生物科学部生産環境科学課程 2年
7	原田 剛志	工学部社会基盤工学科 2年

No.	氏名	所属学部
8	牧田 真奈	地域科学部 2年
9	依田 芽生	教育学部生涯教育講座 2年
10	織田 悠子	医学部看護学科 1年
11	鈴木 美香	工学部応用情報学科 1年
12	松野 綾野	教育学部理科教育講座 1年
13	箕浦 みさき	地域科学部 1年

サマースクール感想文

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。サマースクールで感じたこと、日ごろ考えていることなど自由に書いてもらいました。一人ひとりの個性あふれる作文をお楽しみください。



カッレ・ベネウス

日本に来ている間楽しいことは多かった。皆と話しても、気持ちは同じだ：「スウェーデンに帰りたくない」。特に日本の料理は面白い経験だった。スウェーデンで私は色々食べ物を食べるのが苦手だからちょっと心配した。しかし日本の料理は大体おいしい。スウェーデンですしがおいしくないと思ったが、日本のはおいしいからちょっと驚いた。

それに、チューターはよくパーティーで料理をおごってくれたし、よくレストランで食べた。たくさんのおいしいの食事を食べられた。大阪は面白いと思う。大阪は焼いた食べ物だけあるらしい。例えばお好み焼や焼きそばや焼き鳥がどこにでもあった。行った時大阪はすごく暑かったのに、いつもそんな暑い所で食べた。

他に驚いた事は、店の中以外にごみ箱がないことだ。スウェーデンで同じ状況があったら、多分皆は道にごみを捨てると思うが、日本人は真面目だから大丈夫だ。しかし大阪で時々道のそばでもごみ箱を見つけた。確かにチューターが言ったとおり大阪人は日本人じゃない。

私は歌うのが大好きだ。スウェーデンで歌うきかいが少ないから、日本のカラオケは夢のようだ。まず英語の曲だけを歌ったが、日本語の曲も覚えなかった。だから今 BUMP OF CHICKEN というバンドの曲をできるだけ覚えてみようと思う。チューターと一緒に日本語で歌ったら皆がびっくりするから楽しい。私とヨーエルさんはいつもカラオケに行きたいが、皆は同じ意見がないようだ。それにチューターはいつも忙しいので、時々ヨーエルさんと私だけカラオケに行く。皆がそれを褒めだと思っているが

どうしてか分からない。

今から帰る時まで三週間しか残っていない。本当に帰りたくないが、スウェーデンは利点がある：涼しい。日本の一番悪い事は暑さにちがいない。特に学外研の四階での暑さは時々苦しい。ふだん寝るのは大丈夫だが起きる時は気持ち悪い。スウェーデンなら窓を開けたらいつも大丈夫だ。でもここで外の気温と家の中の気温は同じぐらいだし、外にはむかでのが多いので、窓を開けるのはよくないと思う。しかし、それなのに、日本はすてきな国だと思う。きっと来年も日本に来る。でもやっぱり今度は春に来る。桜の季節中に。



「日本で一番いんしょうに残っていること」

エーリン・エークダール

岐阜大学のサマースクールで色々な思い出ができました。楽しいことがあり、面白いこともあり、大変なこともありましたが、だんだん日本の文化や習慣を分かるようになりました。一番いい思い出を選ぶのは難しいですけど、とても感動したことはぐじょうはちまんのホームステイの時のぼんおどりです。

ぐじょうはちまんとても親切な家族の世話になっていました。楽しくて面白い場所を見せていただいたり、色々なことを教えていただきました。毎夏、ぐじょうのひとはよくぼんおどりというおどりをします。サマースクールの学生はぐじょうの小学生にこのおどりを教えてもらい、次の日ぼんおどりの祭りに行きました。私はホストファミリーにゆかたを貸していただき、一緒にぐじょうのある広場に行きました。そこはすごくこんでいて、とてもにぎやかでした。とてもいいふんいきでした。みんなは

ゆかたやじんべいを着ていて、楽しそうにおどって、楽しみました。祭りの場所の近くで長良川が流れていました。川はろうそくに取かこまれていて、本当にきれいでした。ホストファミリーとクラスメートと一緒におどったり、けしきを見たりして、深く感動しました。その経験を絶対に忘れません。



イーヴァン・ヤコブセン

子供の頃からずっと日本に行きたかったので、このサマースクールをとっても楽しみにしていた。それで、本当に全部、すごく面白くて、この夏は今まで的人生の中で一番楽しい時だった。日本にいる間に色々な事を経験した。例えば、郡上のホームステイや歌舞伎、能、相撲などだ。特に、歌舞伎と相撲はすごく面白かった。私はよく日本映画を見るので、だんだん能や歌舞伎のような物に興味が出てきた。例を挙げると、北野武の「ドールズ」という映画を見てから、文楽を見たいけど、まだ見る機会がない。

私のホームステイは、他の人のホームステイに比べて、かなり静かだった。主に家でゆっくり過ごして、家族と話したりゲームをしたりテレビを見たりした。剣道着をきてみて、剣道を少し教えてもらった。ずっと前から剣道をやってみたかったから、嬉しかった。

暇な時間もとても面白かった。チューターと話したり、日本人と韓国人の友達を作ったり名古屋や大阪に行ったりした。

皆と別れるのは寂しいけど、これからも日本で楽しい事をするつもりだ。コースが終わった後、三週間日本にいる。その時はまず、一週間 JR パスで京都や広島や色々な町に行く。その後、東京に行って、富士山に登ったり、ジブリ美術館に行ったりするつもりだ。東京から北海道へも行く。北海道で、札幌の近くにある音楽フェスティバルに椎名林檎を見に行く。すごく楽しみにしている。



「花火と ホームステイ」

ヨハンソン・ステファン

日本に留学するのはすごく楽しいです。

ホームステイした時はとてもしあわせな経験でした。たくさん話したり滝やどうくつや温泉に行ったりしました。ゆきさんとわかこさんは親切な人です。ぐじょうはちまんは山の中にあるから素晴らしい景色があります。ぐじょうはちまんは高い緑の山にかこまれています。ぐじょうはちまん町には美しい川が流れています。それでぐじょうに大きくて有名なぼんおどりががあります。ゆきさんに着物を借りておどりに行きました。町の四角い場所に建てものがありました。その建てものの中には歌っている人がいました。みんなは六時から十一時まで建てものまわりでおどりを続けました。

七月二十六日、みんなは花火を見に行きました。長良川に行って川原に座りました。見わたすかざり人がいました。そこに食べ物とおかしとおもちゃを売った夜店がたくさんありました。花火が始まったら空にたくさん美しくてすごい光が爆発しました。一時間続きました。僕が見た花火の中で一番きれいな花火でした。

日本でたくさん面白い経験をしました。相撲を見たり、城に行ったり刀を見たり楽しい人々と遊んだり、きれいな景色を見たりしました。日本に来てとてもしあわせでした。



アルベルト・カアマン

日本に来てからいろいろな楽しい思い出ができました。食べ物を食べたり、買い物をしたり、エクスカッションに行ったり、ホームステイをしたり、チューターといっしょにあそんだりしました。

ホームステイはたぶん一番面白くて楽しい経験でした。家族は優しくてほんとうに話しやすかった

です。家族といっしょに郡上城に見に行ったり、温泉でお風呂に入ったり、鮎をつったり、柔道を見に行ったりしました。そしてもちろん盆踊りをしました。

それから授業のあとで毎日いろいろなことをしました。ある日友達といっしょに名古屋城に行って相撲レーブを見ました。レーブの時DJは相撲のあいだにテクノやダンスの音楽をながした。ちょっと変な経験ですが、ほんとうに面白かった。ある週末は、大阪に行って、一日中ユニバーサル・スタジオでジェットコースターやアトラクションの乗り物に乗りました。金曜日と土曜日のよるは、ナイトクラブで踊りました。

サマーコースの時はとても楽しくすごしました。たくさんいい思い出ができました。クラスメートとなかよくなりました。また日本に行きたいです。日本でできた思い出をぜったいわすれません。



「日本のお寺」

クヌートソン・カール・アクセル

私は日本からたくさんおもしろい思い出出すことをスウェーデンまで持って帰ります。

一番おもしろかったことは、日本でいろいろなしんとうの神社とおぶきょうの御寺に行きました。神社と御寺の所によって感じがすごい違います。田舎ではきれいな神社と御寺がありますけど、おしょうや僧侶とかがあまりいませんのでうつくしい景観がある寺へ行ったほうがいいと思います。しかし、都会では、交通量が多かったらしづかな御寺を見付けるのはめずらしいです。そんな時、御寺に行くのはひょっとしたら少し不便かもしれません。それでも、しづかさがあまりないのに、都会の御寺は、御寺の中に儀式があったら面白いです。

五人のクラスの仲間といっしょに京都へ行った時、私たちがたくさん色々な御寺や神社やお城など見に行きました。昔、江戸時代の前に、京都は日本帝国の都でしたので、東京に比べて、たくさんもっと古くて、歴史的な建物があります。その古い建物の中で、二つすごく大きくて、古いお寺を見付けました。

その二つの御寺は東本願寺と西本願寺という御寺です。東本願寺と西本願寺は京都駅の北にあります。二つの寺は同じ建て方で建てられていて、同じ仏道の分派にさんかしているのに、あの二つの御寺は戦国時代の間、僧兵はあの両寺の間にある街路で戦いました。とにかく、ももやま時代に、昔の「おわり県」の大名、信長が京都をせんりょうした後で東本願寺と西本願寺は戦い終わりました。

現在、京都駅の北にある寺へ行って、昼間、両寺の儀式に参会することができました。その二つの儀式で、僧侶の詠唱を聞いて、寺の香の芳香をかいた時、私はかんどうしました。



ガブリエラ・クタス

今年の夏はいろいろな事をしました。

ホームステイは面白かったです。ホストファミリーと一緒に面白いことをしました。鍾乳石の洞窟へ行ったり、バーベキューをしたり、名古屋へ行ったり、盆踊りをしたりしました。古い家が綺麗でした。部屋は畳が入っていました。家は町から少し入った場所がありました。しかし、山河はびっくりするほど美しい所でした。庭の中でトマトやたまねぎを栽培しました。

チューターみんなはやさしい人でした。りょうでたくさん楽しい思い出をしました。例えば、水の戦争をしたり、ミッドサマーパーティーをしたり、浴衣パーティーをしたり、毎晩夜更かししたり、たくさんお喋りしたりしました。毎日楽しかったです。りょうのそとでもたくさん思い出ができました。例えば、カラオケに行ったり、銭湯に行ったり、ボーリングへ行ったり、花火にみに行ったりしました。日本語がもっと上手になりたいので毎日チューターと一緒にたくさん話しました。

日本に来てたくさん楽しい思い出をしました。たくさんの方が印象にのこりました。日本人はいつも真面目だと思いました。いつも勉強や仕事をするから時間がないので、あまり楽しい人ではないと思いました。でも、それは勘違いでした。困った時日本人はいつも気さくに助けてくれます。みんなはやさ

しくて元気です。日本に来てから、たくさんすごくいい人に会いました。

みなさん、本当にありがとうございました。



「日本で印象に残っていること」

ヨハン・クヴィント

ある金曜日私たちは郡上市の小学校に行きました。小学生に会って盆踊りを教えてもらいました。その夜、パーティーがありました。みんなは自己紹介をしてホストファミリーに会いました。私のホストファミリーの姓は山田です。ホストファミリーは郡上市に住んでいます。ホストファミリーには、お母さんとお父さんと二人の娘とお姉さんの赤ちゃんがいました。土曜日の朝は神社に行ってぎぜんをやってみました。それは少しきびしかったけれども面白かったです。昼はお父さんと一緒におんせんに行ってお風呂に入りました。初めて入ったので本当に気持ちよかったです。夜はお父さんのゆかたを借りて着て、サマーコース生のみなどと盆踊りを踊りました。日曜日はホストファミリーと一緒にとやまに行っかんこうしました。とやまの海に近いレストランで今までで一番おいしいすしを食べました。日曜日の夜、私はミートボールを作ってみんなにごちそうしました。みんなはおいしそうに食べてよかったです。みんなの写真をとってすぐ寝ました。次の日はりょうに帰りました。



「日本で一番楽しい思い出」

マルティン・ラーソン

日本でいっぱい楽しくておもしろいことを経験しました。その中でも選ぶにくいけど、一番楽しいのはたぶん郡上でホームステイをしたことです。その時、私とパトリックは郡上の明宝にある山下さんの家に泊まらせてもらいました。お母さんの名前は良恵（よしえ）で子供が3人いました。その子供の名

前は優輝（ゆうき）と綺良々（きらら）と麗々亜（りりあ）でした。おじさんもいたけど、ざんねんながらあまり会わなかったから、名前は覚えていません。

このホームステイのあいだに子供といっしょにいっぱい遊んだり話したりしました。家族は色々な場所へあんないしてくれました。たとえばしょうにゆうどうを見に行きました。それはとてもおもしろくてきれいでした。

ホームステイの最後の日はお母さんが入っているスキークラブのメンバーといっしょにパーティーをしました。そのパーティーでたくさん特別な日本の料理を食べました。たとえば、ながしそうめんとかウインナーを食べました。でも一番おいしかったのは、たぶんチキンを全部使った料理で、らんそうとかしんぞうとかかんぞうを野菜といっしょにやきます。はじめはおいしくなさそうだから食べたくなかったですが、食べてみたら信じられないくらいおいしかったです。色々な食べ物を食べながらお酒を飲んだり、みんなと話したりしました。

次の日は別れなくてはならなかったのですがくさびしかったです。もう一回山下さんの家族に会いたいです。



「お酒、煙草と人間」

デニス・ロヴェーン

日本は本当に珍しい国だと思います。

人間は優しくて恥ずかしがり屋です。煙草は安い、それでたくさんの人は煙草を吸っている。けれど若い人はいつも「体に悪い」と言っていました。その事は本当でもそれを聞くのは面倒臭いです。（はい、私は煙草をすっている人ですよ。）

お酒も安い。しかしスウェーデンと日本のお酒の文化が違います。そんな事をよく習いました。

アルコールについて、日本人は弱いと思います。酔っ払いやすいからお酒を飲むとすぐ寝ます。年上の人は食べる時、ときどきビールを飲みますが、若い人はパーティーに行く時ビールを飲みます。スウェーデン人の飲む理由は酔っばらう事です。それ

でたとえば女の子をなんばする時に勇気づけるために使われます。

初めの日に日本人といっしょにお酒を飲むと、日本人がかならず相手のコップにお酒を注ぐのに気がつきました。スウェーデンは反対です。自分のコップに注ぎます。ほかの違う事はスウェーデン人は日本人よりもっと若いときからお酒のみをはじめます。たぶんだからスウェーデン人はお酒が強いです。

煙草について体に悪いのに私は好きです。だからレストランやナイトクラブが禁煙じゃないのはいいです。スウェーデンでそんな事は違法です。日本でレストランとかは煙草をすってもいいのに禁煙の道があります。それはスウェーデン人には少しおかしいです。スウェーデンでは外ならどこでも煙草がすえます。

これは日本に来てから習った事の一つです。文化の違いにもかかわらず日本と日本人が好きです。絶対に日本に戻って来ます。



「すごく込んでいる 日本」

ヨハン・ルンダール

私は21歳の時まで田舎に住んでいた。本当に込んでいる場所はあまり見たことがなかった。だから日本に来て、ショックを受けた。特に東京はいつも込んでいる。ショックだったのに、込んでいる場所は面白いと思う。渋谷の人の海の中であまり動けないけど、一分に顔が千こ以上見える。珍しい経験だった。渋谷の一番大きい交差点の赤信号に人が何百人も集まって、青信号を待つ。人は色々な方向から渡って来る。初めて見た時、絶対に渡れないと思ったが、無事に渡れて、よかった。

それに、東京の地下鉄は、ラッシュアワーに、人が狂気のように仕事場に行っている。ラッシュアワーには満員の電車ばかりなので、できれば避けた方がいいけど、乗ったことがなかったら、乗ってみて下さい。私は背が高いので、上半身を動かして、呼吸できる。でも背が低かったら、問題があるかも知れない。



「相撲の日」

パトリック・レンディン

このサマースクールはすごく面白いので一番いい経験を選ぶのは難しいです。日本の文化にはたくさんすてきなことがあります。歌ぶきも能も楽しみました。しかしやはり相撲にはもっと感動しました。

相撲はサマースクールのエクスカージョンで見に行きました。相撲の前日は橋本先生にルールを教えてくださいました。ルールは簡単なので相撲を楽しむことができました。

相撲の大会は名古屋で行われて、みんなと一緒にバスでそこへ行きました。試合の結果はだいたい分りましたが、分からないこともありました。力士の名前は漢字で書いてあったので読めませんでした。一方、ときどき観客の応援で名前を聞くことができました。

私たちは後ろの席に座っていました。それにしてもよく見えました。残念なのは前の人は座ぶとんに座っていましたが、私達はいすに座っていたことです。なぜなら、一番最後の試合が終わったとき、座ぶとんに座っていた人はみんなその座ぶとんを前に投げました。私はこれにすごくびっくりしました。最後の試合でどちらが勝ったか、見えにくかったので、もしかしたら観客は審判の決定に満足しなくて、怒って座ぶとんをなげたようにも思いました。でも後でそれは相撲の習慣ということを教えてもらいました。

とにかく相撲の日はすごく面白かったです。試合が終わったら、おいしいお弁当をもらって、満足しました。



「七月十八日(金)」

ヨーエル・ニルソン

今日はサマースクールに参加している八人がマーサ21に行った。そこでみんなはボウリングをした。

スウェーデン人は俺とカッレとイーヴァンだった。韓国人はソンスさんとヨソンちゃんとカンちゃん（一番かっこいい人だよ！）とくるくるさん、そしてアメリカ人のチェルシーだった。二つのチームに分かれた。そして四人でゲームをした。二つのゲームの途中に、もう一人の韓国人、トカンさんが来た。その二つの最初のゲームでは、カッレが勝ったが、俺は三番目や最後になっちゃった。でもね、その三番目のゲームは俺が二番目になった！やっぱり、俺は力があるのだよね。

ボウリングの後、俺たちはラーメン屋さんに行った。そこで俺が「旨来ラーメン」を食べていた。日本のラーメンはすごく美味しいと思ってる。美味しかったけど時間が早くなくなったから、少しストレスがあった。だって、食べ始めたのは六時半だったが、七時にはダヴィドとみかりんとの約束をしていた、カラオケで会うって。みかりんは今年のサマースタールのチューターの一人だ。俺とカッレが少し遅くなったが、問題がなかった。それで、カラオケでたくさん歌った。ダヴィドが英語の曲を歌ったが、俺とカッレの選んだ日本語の曲も一緒に歌った。俺とカッレがだいたい全部日本語で歌った。もちろん、みかりんは日本の歌ばかり歌った。俺たち四人は二時間歌っただけだったが、ちょう面白かった。曲は例えば、「チェリー」とか「arrows」とか「Alones」だった。本当にすごく楽しかった、あれは・・・。

そして、忘れないように、カンちゃんは一番かっこいい人だ！



「日本の自然」

ヤコブ・スヴァンストロム

日本で忘れられないことは自然です。

エクスカーションに行く時、いつもバスから綺麗な自然が見えます。例えば大きい山や透明な川などです。日本の山は大変威厳があると思います。日本ではどこに居てもその山が見えます。スウェーデンは日本の様な山がありません。スウェーデンの山は木がありません。そして、スウェーデンの山は日本の山ほど大きくなくて多くありません。だから、私

は日本の山が珍しいと思います。

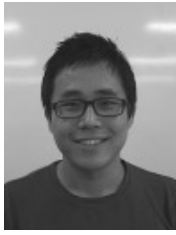
きんか山を登った時は大変くたくたの経験でした。登った日は暑いから皆汗がどっと出ました。馬ノ背と言う道を歩くのはほとんど不可能でした。しかし、きんか山の頂上に着いてからは岐阜城を観光しました。岐阜城から見える風景は凄く美しく、全部の岐阜が見えました。建物の海の中で山の島が増してきました。戻った時はゆっくり歩いて景色を観察しました。

本当に、日本の山は国の魂を持っています。私はいつまでもその自然を忘れません。



ダヴィド・ソデルストランド

ある夜、部屋で本を読んでいる時に、突然変な音が聞こえました。初めは「あれは風か友達が廊下で遊んでいる」と思いました。けれどもすぐ「あの音はバルコニーから」と分りました。暗かったから窓のそとが見えませんでした。だから、常夜灯で窓の外を照らしました。窓のそばに変な大きな虫が部屋に入ろうとしていることを目撃しました。混乱して少しおびえて、カメラを持ってきました。私はゆっくりバルコニーのドアを開けました。そしてその変な虫をよく見ました。その虫は濃い茶色で額に大きな触角がありました。私は写真をたくさん撮りました。あとで友達に見せるためです。スウェーデン人の学生は寝ていましたが、廊下で三人のチューターに会いました。その人たちに見せてあげた時、突然興奮しました。「それはカブト虫」とチューターは教えてくれました。「それは運をくれます。」私たちはカブトを持って部屋に帰りました。チューターたちはカブトに虫を入れるかごと食べ物を買ってあげました。私はカブトにフレッドという名前をつけました。その日から、フレッドは私たちといっしょに住んでいました。毎日私とフレッドは遊んでいました。



「忘れられない事」

キム・ソンス

大阪に行った時の出来事です。ある店に入っているいろいろ見回している途中で、なんと、すごく気に入ったリュックを見つけました。それに、値段は5割引き。それで、迷わずに買って使いはじめました。

次の日、大阪を去って鳥羽に着き、平和な時間を過ごしていました。（大阪から鳥羽までは特急列車で2時間くらいかかりました。）そういう中、ちょっと休もうと思っていすに座って買ったリュックをじっくり見ました。リュックを見ながら「買ってよかったなー」と自分なりに満足していましたが…なんと、リュックの背負う紐がやぶれているじゃないですか。その瞬間、頭の中はめちゃくちゃになって、これをどうするか迷いはじめました。「このままだったらあまり使えなく捨てることになるかもしれないけれど、また大阪まで行くのも大変だし…どうするか…」

結局、大阪に行くことにしました。皆と離れて鳥羽から大阪まで、また行きました。約2時間ぐらいかかって、大阪に着きリュックを買った店に行き、事情を説明しはじめました。そしたら、店員が新品に替えてくれると言ったんだけど、僕は「いいえ、払い戻してください。またこんな事が起きるかもしれないし…」と言ったら店員の顔がちょっと変わりました。やむをえず払い戻してくれましたが、一言言われました。「新品でも荷物が重いとやぶれるかもしれません」と。

でもね…

「一日でやぶれるなんて、ちょっとひどいじゃん」と言いたかったのですが、がまんしました…。

すごく気に入ったリュックだったのに…
残念な大阪での思い出。

そして、また2時間ぐらいかかって名古屋へ…。



「ホームステイ」

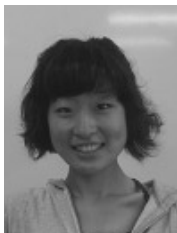
ジ・ヨソン

まずこのサマースクールに来られた事が一番よかったですと思います。日本語の勉強だけではなく、いろいろな体験をして、友達もたくさんできてうれしいです。土岐に行って土器を作ったり、相撲を見たり、歌舞伎を見たりしました。その中で一番印象に残っていることは郡上八幡でのホームステイです。韓国で郡上の情報を見て一度行ってみたいと思っていた所でホームステイできるなんて！郡上は思った通りきれいな所でした。本当にそこで住みたいくらいです。私のホストファミリーはお父さん、お母さん、おばあさん、息子二人でとても親切な家族でした。家は白鳥にありましたのでいつもおばあさんが八幡まで車で送ってくださいました。いつも感謝していましたが、あまり感謝の気持ちを表現しなかった気がして、いまでもちょっと心残りです。

家族と牧歌の里とか世界遺産である白川郷に行きました。初めの日の夜は郡上踊りに参加しました。初めて浴衣を着て本当にドキドキして新しい気持ちでした。韓国は伝統的な服をあまり着ないから、こういうのがちょっと羨ましかったです。八幡でサマースクールのみんなど会って写真をとってみんなで踊りました。踊りは二つ教えてもらいましたがちょっと忘れてしまっとうまくはできなかったけどその所の雰囲気に浸って楽しかったです。

3泊4日の短いホームステイが終わって帰る時はさびしかったです。住所と電話番号を書いてもらって戻ってきました。韓国へ戻っていっしょにとった写真を送るつもりです。あとでまた日本に来て会う機会があったら本当にいいと思います。

今年の夏は最高でした！



「愛してる，日本」

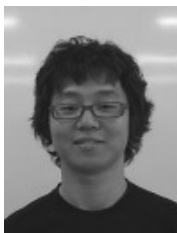
キム・チャヨン

もう日本に来て1ヶ月ぐらいになりました。私にとっては2回目の日本ですが、前には考えられなかったような素晴らしいことをサマースクールでたくさん経験しました。

まず、日本語だけじゃなくて、日本の文化に興味がある学生にとって、とてもありがたいです。いろんな先生と勉強した授業や、目の前で伝統的なことを見られたエクスカッションや、いつもやさしいチューターたちなどもよかったです。その中でも私にはやはりホームステイが一番つよく印象に残っています。

特にホームステイのお父さんが私の国に関心があって、韓国語やドラマやいろんな文化について毎日話しました。私は日本が、お父さんは韓国が好きで、ちがう国の2人だったけど同じことから共感できたのがとてもよかったです。

このいいかきを大事にして、ずっとホームステイの家族と連絡しながら、日本と韓国のいろんなことをしりたくなってきました。



カン・ソッキョン

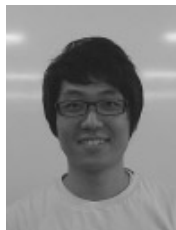
岐阜のサマースクールでいろいろな事をしました。その中で最も強い印象を受けたのは郡上おどりで、ぼくはこのまつりに初めて参加しました。韓国のテレビで、ときどき日本のまつりについて見た事があります。それを見ながら、ぼくも参加したいとおもいました。それでぼくの胸がわくわくしました。郡上まつりの中でいちばんおもしろかった事は郡上おどりで、八幡小学校の小学生に郡上おどりを教わりました。最初は難しいと思いました。だけどだんだんおもしろくなりました。おどりつづけているうちに何か郡上おどりの魅力を感じるようにな

りました。

郡上おどりの日、かんちゃんとはよくはゆかたを着ておどりに行きました。おどりの場は人でいっぱいでした。そこで韓国とスウェーデンのともだちと出会って本当にうれしかったです。いっしょに写真を撮った後に歌いながらおどりを踊りました。郡上おどりは参加するみんながおどってもいいからもっと楽しいと思いました。ホームステイのうちに帰る時間まで時間が短かったです。おもしろかったです。踊りをやめて帰るのが惜しかったです。

今もその時のまつりを思い出します。ときおりかんちゃんとはよく、ほかんとしている時無意識に郡上おどりの歌の中で好きな小節を歌っているのに気がきます。かんちゃんは“郡上のなあ〜”，ぼくは“あそんれんせ〜”。残念ながらこの小節しかわかりません。

またいつか訪れる時にはてつやで踊りたいです。



「かわいい失言。
皆ありがとう〜」

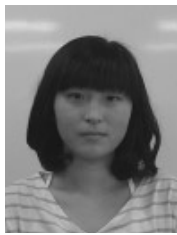
カン・ヒョングク

岐阜大学のサマースクールは外国の学生たちが日本語を勉強するために来た人だからいろいろな失敗に関するエピソードがたくさんありました。まず話をする前にこの文章は悪意なしで書いているのを知ってください。

一番有名なエピソードはデニスの“こんばんさんみんなは”事件。郡上のホストファミリーの前で自己紹介をした時、緊張のせいのか“こんばんさんみんなは”が出てしまいました。その時のデニスの気分を考えるととってもおもしろくなります。またジェイちゃんは学長の前で“私はソウルさんきよく大学のキム・ザヨンです”と言いました。きっと産業大学だった我が校がその瞬間、三極大学になりました。そのあとトカンは“私はバク・トカンと申します”と言ってしまって笑いをこらえられませんでした。また日常生活でいろいろな失敗もありました。ユリはキッチンペーパーを見て“チキンペーパー”と言いました。とってもおなかが空いたからでしょう。カメちゃんは水を飲むを“のむをみす”と言い、アクセル先生は“お手洗いはどこですか”

を“お寺はどこですか”で、くるくるちゃんは地下鉄で広告写真を見て“あのピアグラ（韓国でピアグラはピアグラです）モデル、きれいだね〜”と私に言いました。もちろん私も日本語が上手ではないからたくさんの失敗をしたけれどもこの人たちの失敗でサマースクールの参加者たちはとっても楽しかったと思います。

最後に、私の感謝の気持ちを伝えたいです。皆ありがとうございます〜。



「日本で一番印象に残っていること」

ソン・チュヒ

今度のサマースクールで一番印象に残っていることは郡上八幡のことです。そこは道と水がとてもきれいな所でした。そこで書道と紙細工、茶道などいろいろなことを習いました。その中で特に小学校で小学生たちに踊を習うこととホームステイが印象に残っています。小学校の学生たちと話す時、英語で話してすこし面くらいましたが、おもしろかったです。また、郡上踊りを教えてあげる小学生たちが本当にかわいかったです。

そして何よりホストファミリーと一緒にしたことが忘れられないです。ホームステイの家は白鳥にある二階建ての家ですが、一階では老夫婦が住んで二階では若い夫婦が住んでいます。韓国には普通一緒に住めば大部分の生活を一緒にするのでとても興味深かったです。郡上にいる期間と一緒に生活をしながらいろいろな所に行き見たりおいしい食べ物を食べたりして本当に良かったです。その中で阿弥陀ヶ滝と白川郷、そして高山のまつりの森がとてもよかったです。阿弥陀ヶ滝はとても涼しいですから暑い日に行くには良い所でした。そこは流しそうめんが有名です。私たちは人が多いですから食べられました。そして三日目の日にユリさんとユリさんのホストファミリーと一緒にいった白川郷はとてもすばらしかったです。白川郷は世界文化遺産として有名でした。また、その日に行った高山まつりミュージアムはきれいな装飾がとてもきれいでした。人形が太鼓を打つことがすばらしかったです。他にもゆかたを着て郡上踊りをし

て楽しかったです。短い期間ですが、郡上のホームステイで良い人たちに会ってとてもうれしくて、八幡でいろいろなことをしてたくさんのおもてなしを感じられて本当にありがとうございました。また日本に来るチャンスがあればぜひ郡上に行きたいです。



「始めと終」

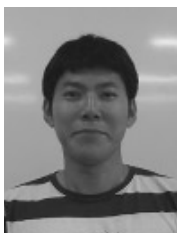
チェ・ユリ

思いがけない決定で日本に来ることになった私は、何日かが過ぎるまで、なにをすることにも興味を抱けないでひどいホームシックになった。食べ物も天気も環境も不慣れで、その上非常に暑さに弱い私には大変な時間だった。しかし規則的な生活、面白い授業、行事によって私の体と心がだんだん適応できるようになった。初めて学校じゃなくて体験学習に行った時には直接土器も作ったり、絵も描いたり、おいしい食事を作ったりして楽しかった。

そして楽しい余韻がまだ取れないうちに、留学生のためのパーティーが催された。すし、たこ焼き、てんぷらなど、いろんな食べ物があったし、直接作って食べられる機会もあったので上手じゃなくてもおいしく作って友達と一緒に食べながら親睦を図れた。短い期間中に外国の人達と寮でいっしょに生活してみんな家族のような友愛ができた。

また、ホームステイをしながら日本の家庭を体験して文化を感じられて有益な時間だった。ホームステイが終わったら、今まで進むのが遅かった時間がとても早く過ぎて行った。かぶきを見て、浴衣を着て花火もした。日本は規模が大きい花火が有名だが、運よく実際に見られた。長良川の川辺に浴衣を着て集まって来た人々はとても多かった。花火もやはりすてきだった。

日本に来ていい思い出を作って、やさしい友達と付き合うことができて、私には価値のある時間だった。これからもっと努力して勉強したら、いつかはこのいい思い出と優しい友達にまためぐりあえるのではないかと気分いい想像をしている。



「終わりたくない サマースクール」

パク・ドウハン

え〜と…今度岐阜大学のサマースクールに来て本当にいろいろなことを経験しました。初めて来た日本なので期待と心配が全部大きかったけれど皆がいい人たちなので幸いでした。

歓迎パーティーを忘れません。日本のチューターとスウェーデンの友達、そしてソウル産業大学とわたしたち木浦大学の学生たちの初めての出会いだったからそうじゃないかなと思います。スウェーデンの友達が多いから日本じゃなくてヨーロッパに来たような気がしましたがホームステイをしながら、「あ、日本だな…」と思い始めました。たぶんいちばん楽しかった時はホームステイの期間でした。日本の一般的な家庭での家族とのいろいろな対話、生活の中の習慣が深い印象を残してくれました。

実は日本を嫌いだったけど今回のサマースクールを通じて日本についてもっていた考えが変わりました。まだ日本語も上手じゃないし日本について全部分からないけど、サマースクールをきっかけに漠然と嫌いだった僕の考えが変わったことが素晴らしいと思います。次に機会があるならまた来たいです！

あ、日本の人は親切だと思えるようにしてくれたふじさわさん、チューターのあいさん！ありがとうございます。

す。とてもながいれきしがあるということが一ばんいんしょうにのこっていることです。

信じられないことはたくさんくものすと、日本のトイレです。わすれられないことは、とてもしんせつな人。たのしかったことは、ホームステイでもよかったです。おもしろかったことは、70%の日本じんがぶつきょうとで、70%の日本じんがしんとうということ。日本じんはたくさんしゅうきょうをうけいれています。うれしかったことは、日本にもユタにあるまつじつせいとうのイエスキリストきょうかいがあったことです。きょうかいのだけれもがともしんせつでゆうこうてきです。日本ですばらしいけいけんをしました。日本のむしはとても大きくてこわかったです。



「日本の考えかた」

チェルシ・ロングハスト

私は日本でたくさんのことをまなびました。六月二十四日にとうきょうにとうちゃくしました。日本はどこをみわたしてもみどりですからたくさんしょくぶつがあります。とうきょうときょうととぎふとひろしまと、ならとたかやまにたくさんふるいたてものがありました。とうきょうにはたくさんの人がありました。とうきょうのえきは信じられないで

まとめの会とアンケート集計結果報告

8週間コース参加者
4週間コース参加者

ルンド大学（スウェーデン）	15名
ソウル産業大学（韓国）	5名
木浦大学（韓国）	3名
ユタ州立大学（アメリカ）	1名
	計24名

今年度のサマースクール（受入、以下略）は、定員25名で募集を行い、定員を満たす25名の申込があった。直前にソウル産業大学の参加者1名がやむをえない事情で辞退したため24名の参加者を迎えたが、定員を満たしたということを楽ししく思う。また、特記すべきは、例年の参加校ルンド大学とソウル産業大学に加えて、2008年2月に学術交流協定を締結した木浦大学と、所属校のホームページで本サマースクールの情報を得たユタ州立大学から参加者があったことである。参加者の所属大学がバラエティに富むというのは、それにより新たな課題ももちろん生じるが、参加者同士の刺激という点では望ましいことである。

今年度のサマースクールでは、3つの新たな試みを行なった。それらを中心に、アンケートとまとめの会で得られた学生の声を紹介し、成果と反省を述べたいと思う。アンケート（A3版2枚）は、サマースクール日程終了直前（7/28）に配付、まとめの会（7/30）までに提出することとし、参加者24名中22名から回収した。内容は、日本語授業、日本事情講義、見学と旅行、宿舎とチューター等についてである。まとめの会は、サマースクールプログラム最終日の7月30日（水）午後を実施した。サマースクール（受入）コーディネーターの留学生センター森田晃一教授、同土谷桃子准教授が担当し、全参加者24名から意見を得ることができた。まとめの会は、昨年度同様、主にアンケートと重ならない項目について尋ね、全員の意見を満遍なく得られるよう、質問に対して筆記で回答する形式とした。

今年度のサマースクールの新たな試みとは、以下の3つである。

- ① 学生の安全重視
- ② 地域密着型への志向
- ③ 担当者の負担軽減

1点目の「学生の安全重視」というのは、昨年度 of サマースクールで怪我人・病人が頻発したことがきっかけとなった。怪我や病気というものは、学生がどこにしようとも発生するときは発生するものだから防ぎようがないといえばその通りなのだが、筆者が懸念したのは、昨年度までは唯一の通学手段であった自転車利用による怪我や体調不良の多さであった。この点の改善を試みた。2点目の「地域密着型への志向」とは、岐阜大学ならではの地域の特性を生かしたエクスカージョンをプログラムに盛り込む工夫である。3点目の「担当者の負担軽減」は、文字通りの意味であるが、サマースクール業務を担当する留学生センター・留学生課にかかる過重負担を、期間限定でサマースクール専従の非常勤職員を雇用することによって軽減させようとしたものである。これらの試みには、成功したものもあり、成功とは言いがたい結果となったものもある。いずれも今回初めての試みであるから、ただ1度の成否で短絡的に判断することなく、将来に模索を続けるべきであると考えている。以下にそれぞれを詳説する。

① 学生の安全重視

サマースクール参加生が、8週間あるいは4週間の期間中居住するのは、岐阜大学キャンパスから約8キロの距離がある学外合宿研修施設（略称学外研）である。1988年度のサマースクール開始以来、通学手段は天候に関わらず自転車に限られていた（乗り換えの労をいとわなければ路線バスも利用可能だが、本数が限られるため、活用している学生は非常に少なかった）。昨年度 of サマースクールで、自転車通学による怪我・症状（事後の通院が必要となる自動車／自転車との接触、連日の自転車こぎによる膝痛の発生）があまりにも目立ったため、今年度は通学手段の改善、すなわちスクールバスの運行を最

優先課題とした。

スクールバス運行の一番大きな障壁となったのは、資金である。参加者の経済的負担を増すことなく、こちらからの持ち出しも増やさずに済ませるにはどうしたらよいか。プログラム内容を縮小してスクールバス費用を捻出することも考えたが、幸いにも岐阜大学の平成20年度政策経費（重点施策推進経費）を申請、取得することができた。この経費は単年度経費のため、来年度以降については新たな資金源を確保しなければならないが、まず第一歩を踏み出したことは大きい。

実際の運行は、朝の宿舍発大学キャンパス行き1本、午後の大学キャンパス発宿舍行き1本とした。学生の身の安全を考えれば全員にバスに乗ってほしいところだが、帰りが1便しかないことから、授業後大学からそのまま岐阜市内に出かけたい学生は自転車で通学することが多かった。帰りの便の時間については、開始以前から懸念していたのであるが、それが的中したといったところである。

しかし、スクールバスの運行そのものは、非常に好評であった。連日利用人数調査を行なった結果からも、まとめの会で学生から得た意見からも、雨天時や体調が優れない時には使っていたこと、学生によっては暑さを嫌って期間中毎日バスを使っていたこと、自転車通学が多かった学生もバスというオプションがあることはいいと考えていることが明らかとなった。スクールバスが学生のニーズに合ったものであったという意を強くした。

問題点は、先にも述べたが帰りの便の時間である。まとめの会では、何時のバスがよいかも尋ねてみたが、12時で授業が終了する日については、希望時間が12時半～15時、15時まで日本事情の授業がある日は15時～16時半と、ばらばらな希望が出てきた。バス運行資金に限りがある中、多少の不便は学生に我慢してもらわねばならないのが現実である。

上記の問題は残されたが、スクールバスの運行は全体的に成功であったといってよい。自転車通学が原因の怪我が激減したこと（今年度は軽症1名のみ）が、何よりの証拠である。是非来年度以降も資金確保の困難を乗り越えて運行を続けたい。

本学のサマースクールでは、サマースクール参加生とともに宿舍に宿泊する岐阜大学学部生の宿舍チューター制度がある。これは毎年参加生が非常に良かったと評価している制度なのだが、このチューターは基本的にボランティアである。そのた

め、サマースクールに関わって怪我をした場合、どう保障するかという点が、今まではあやふやなままになっていた。サマースクール参加者の安全を重視することはもちろん重要だが、宿舍チューターを務める岐大生の安全も同じく重視しなければならない。そこで、今年度は宿舍チューターの入院や通院をカバーする保険に加入した。今年度は、1名のチューターが宿舍内で負傷し、それにこの保険が適用された。保険が必要となる事態が発生しないことが最善だが、万が一に備えることは重要であると考ええる。どの範囲まで適用させるか（例えば、チューターが個人的にサマースクール参加生と行動した場合はどうするか）は、今後基準を定めなければならないが、学生の安全重視を進めたのは、今年度の大きな成果であった。

② 地域密着型への志向

昨年度までのサマースクールには、1泊2日の京都旅行が組み込まれていた。この旅行は、目立って不評だったわけではないのだが、近年、事後アンケートに「短すぎる」「忙しすぎる」「京都は自分で行ける」という記述が複数見受けられるようになっていた。このようなことから、ここ数年京都旅行の意義を考えることが多くなっていったことに加えて、前項に述べたスクールバス運行費用の件が絡み、京都旅行の見直しに踏み切った。

岐阜大学のサマースクールなら、岐阜地域の文化を満喫してもらってはどうか。メジャーな観光地である京都は、情報も得やすいし各自で行けるだろう。京都旅行は1泊2日では短すぎると、自費で滞在を延長する学生も少なくないことを考えると、プログラム中で最も費用のかかる京都旅行を続ける意味が不明確になってくる。この部分の費用を節減できれば、スクールバス運行費用にも回せるのではないか。このような検討を踏まえて、京都旅行を見合わせ、岐阜地域の訪問を増加することとした。

岐阜地域に焦点を当てたプログラム内容は、毎年絶賛される郡上プログラムが筆頭に上げられるが、その他に、今年度強化した土岐の陶芸体験、新規に実施した美濃訪問と長良川鵜飼観覧があった。後掲のアンケート結果にも明らかであるが、郡上プログラム、土岐陶芸体験は、今年度も好評であった。しかしながら、新規実施の美濃訪問と鵜飼観覧は、改善の余地があるという結果が出ている。それぞれの問題点は、来年度に向けてじっくり考えなければな

らないが、事後行なった宿舎チューターとの反省会（8/4実施）で、チューターから示唆を得た。学生たちが希望しているのは、実演・体験を含むものであるというのである。美濃では和太鼓の体験があったのだが、この部分は非常に好評であった。また、アンケートにも武道や和食の作り方を習いたいという記述があり、実際に手や体を動かすものを望んでいるということがうかがわれる。来年度へのヒントとしたい。

また、京都旅行についても、学生の複雑な思いが表れた。後掲のアンケートの自由記述で、京都旅行へ行きたかったというコメントが目立っている。この点を受けて、まとめの会で京都旅行に言及した。サマースクールプログラムに組み込むとすると京都旅行は1泊2日になってしまうこと、自分で行けるからいいという昨年度までの学生の意見があったことを紹介し、それでも京都へ行ったほうがよいか、それとも岐阜地域のエクスカージョンをしたほうがよいかということ聞いてみた。結果は、京都旅行を復活してほしい11名、復活しなくてもよい13名、とほぼ二分される結果となった。この点についても、来年度までゆっくりじっくり考えを深めていきたい。

地域密着型への志向という基本スタンスは、誤りではないと現在も考えている。岐阜にはまだまだ魅力的な場所や文化が残されており、選択肢は多く与えられている。最善の道がすぐに見つかるはずはなく、今年度の経験は今後には必ずや役立つと信じている。そもそもエクスカージョンや日本事情講義は、各学生の興味のあるところが千差万別である以上、全員に100%の満足を与えることはできないものである。最大多数の最大幸福（満足）を目指して、模索を続ける所存である。

地域密着型を目指す上で、地域自治体・ボランティア団体との連携は不可欠である。幸いにも、岐阜地域には大学の活動、国際交流活動に理解を示してくださる自治体や団体が多く、今回大変お世話になった。心よりお礼申し上げますとともに、今後も変わらぬご理解とご協力をいただけることを、紙面を借りてお願い申し上げます。

③ 担当者の負担軽減

サマースクール（受入）実施に関しては、留学生センターに受入コーディネーター2名、留学生課にサマースクール担当1名が置かれるが、通常の授業

やルーティンワークをこなしながらサマースクール業務も行なうことに、過重の負担を感じていた。特に、サマースクールに関する突発的事件（怪我人の発生等）のために他の業務に支障が出ることや、サマースクール参加生の宿舎に、ボランティア学生であるチューターしかおらず学生連絡に手間取ることなどが問題であった（宿舎には管理人がいるが、サマースクール業務を直接お願いすることはできない）。そこで、今年度はサマースクール期間限定で非常勤職員を雇用することとした。

問題となるのはやはり経費であるが、実はこの非常勤職員の費用も①で述べたスクールバスと同時に政策経費を要求した。しかし、採択されなかったため、留学生センターと留学生課が折半で雇用費用を出すことにした。

サマースクール開始に先立つ5/19から、終了直後8/7まで1名を雇用した。職務内容は、学生の病気・怪我等突発的事件の際の対応（病院付き添い、病気・怪我報告書の作成）、宿舎における学生連絡、その他の業務補助であった。今年度初の試みであったスクールバスについては、利用人数の調査を依頼した。

結果的に、この非常勤職員の雇用は大成功であった。まず、大学側としては、昨年度までセンター及び課の担当者を圧迫していたサマースクール業務が軽減され、学生との連絡の取りやすさも格段に改善した。そして、参加学生からも、まとめの会で尋ねたところ、とても感謝しているというコメントが多数寄せられた。今年度本職に就いた藤澤仁美さん個人の力量とパーソナリティに負うところも多々あると思うが、来年度以降も経費の問題をなんとかクリアして雇用したいと考えている。今年度の業務内容、雇用期間、雇用時間が適切であったかの見直しを着実に進めたい。

今年度、サマースクール専従非常勤職員として関わってくださった藤澤仁美さんには、本来の職務以上に、といってもいいほどの大活躍をしていただいた。的確な書類作成、学生との適度な距離感の保持、先を見通しての機転の利いた対応、これらにどれほど助けられたことか、筆者はひしひしと感じている。初年度の試みであり、どのような方が来られるか、事前には不安を感じていたが、藤澤さんのような有能な良い方に来ていただけて、本当に感謝している。今年度のサマースクール成功に大きく貢献してくださったことに、心よりお礼申し上げたい。

以上、今年度の新たな試み3点について述べたが、最後に今後の具体的な課題を2点挙げたい。これらは、実働部隊である留学生センター及び留学生課では解決できない課題である。

まず1点目は、日本語教室確保の問題である。サマースクールは全学委員会である留学生交流委員会が掌握する全学事業でありながら（実質の運営に当たるのは留学生センター及び留学生課）、直前まで日本語授業を実施する教室が確保できないという惨状にある。そもそもの問題は、留学生センターが自前の教室を持っていないというところにあるのだが、それを言っても仕方ない。各学部・センターが有する空き教室の使用を願うのだが、毎年度ジブシーのように学部を回る羽目になる。どうか安定的に教室を確保したいというのが、悲願である。そのためには、各学部ひいては大学全体に本サマースクールの重要性を認識してもらう必要がある。留学生交流委員会を通しての全学的アピールを行なっていきたい。

全学的に認識される必要があるのは、次の1点も同様である。今年度の7月は、梅雨明けが早く連日35度を越える日が続いた。学生たちが宿泊する学外研は、個室全36室中24室はエアコン設備がない。サマースクール参加者24名は、このエアコンのない部屋24室に寝泊りする。昨年度までは、エアコンなしの部屋について、何人かからは不満が聞かれたが、今年度の暑さは今までの比ではなかったらしく、エアコン付きの空き室を雑魚寝でよいから使わせてほしいという要望が寄せられた。昨今の気温の上がり方を思えば、いつまでもエアコン設備のない宿舎をあてがってよいのだろうか。エアコン設備投資にしる、他の宿舎施設の手配にしる、莫大な費用が必要となることであるが、大学全体の認識を高めて対応策を練りたい。まずは、学外研にエアコンがないということから発信していくつもりである。

参加校が4校に増えたことを最初に述べたが、相手校との連絡や情報提供についても課題が見えてきた。事前の連絡を緻密にスムーズに行なうこと、幅広い対象を意識して英語での情報提供の必要性を考慮すべきこと等、今後の課題である。

今年度のサマースクールも学内外の多くの方々のご好意とご協力をいただいて無事全日程を終えることができました。エクスカーションでお世話になった郡上、美濃、土岐の皆様にはお礼を申し上げます

同時に、今後も変わらぬご協力をお願い申し上げたいと思います。サマースクール参加者に本物を体験させるために、実演をお願いしている能の味方團先生・田茂井廣道先生、狂言の山口耕道先生・茂山良暢先生には、今年も快くお引き受けいただきました。どうもありがとうございました。また、岐大生とサマースクール参加生との交流の可能性を探る上で貴重な体験と示唆をいただいた工学部数理デザイン工学科フレッシュヤーズセミナー担当の青木正人先生、新田高洋先生にもお礼申し上げます。

サマースクール実務では、留学生課眞野初課長・粥川美重子課長補佐をはじめ課員の皆様にお世話になりました。非常勤職員藤澤仁美さんにも深く感謝申し上げます。ありがとうございます。学外研管理人西川節子さん、留学生センター教務補佐員森瀬真理さんには、今年度も行き届いたご配慮をいただきました。そして、愉快で元気な宿舎チューターズの皆さんにも大いに感謝しています。来年度も無事サマースクールが実施できることを祈念して、稿を終えたいと思います。（文責：土谷）

【アンケート結果】

（・マークは学生の自由記述コメント。学生の書いたとおりに記載。）
全回答者数：22

I 日本語の授業（Japanese language classes）について

1. 日本語のプログラム（午前は授業・午後は自習self-study, 月曜～木曜）について

- とてもよかった 10
- よかった 12
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

2. クラスで使った教科書などのレベルについて

- 難しすぎた 0
- 少し難しかった 11
- 少し簡単だった 10
- 簡単すぎた 1

3. 日本語の教え方について

- とてもよかった 4
- よかった 18
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

4. 日本語の授業時間数について

- ちょうどよかった 20
- 少なすぎた 2
- 多すぎた 0

II 日本事情の講義（Japan-related lectures）について

1. 日本語の授業のほかに、日本事情の講義があることについて

- とてもよかった 1
- よかった 17
- 悪かった 4
- とても悪かった 0

2. 日本事情の講義を通して日本についてたくさん勉強することができましたか。

- できた 14
- あまりできなかった 8
- できなかった 0

3. 日本事情の講義の中で、どれがよかったですか。下から2つ選んでください。

- 土岐（7／3） 7
- 岐阜県の実業・産業（7／8） 1
- 能・狂言（7／15） 4
- 相撲（7／16） 17
- 学長講義・がん(cancer)（7／18） 1
- 狂言実演（7／22） 10

※ルンド大生だけ

- 能実演（6／18） 1
- 美濃（6／19） 0
- 日本の経済（economy）（6／30） 0

どうしてその講義がよかったですか。理由を書いてください。

- ・ 選んだのは一番面白いだったと思います（土岐, 能・狂言）。
- ・ もちろん, 狂言は楽しかったからです（狂言）。相撲はとても日本的なものからです（相撲）。
- ・ 先生のおかげで面白くなりました（相撲, 狂言実演）。（2名）
- ・ そのトピックに興味があるんです。また, ビデオを見たのはよかったです（相撲, 能・狂言）。
- ・ 別に, 相撲に興味があるので, その講義を選んだ（相撲）。
- ・ 事情は面白いでした（狂言実演）。
- ・ 相撲はカッコよかったです（相撲）。
- ・ その時は話を聞くだけじゃない（相撲, 能実演）。
- ・ 特に相撲を見たかったので, それが見られるようになってとてもうれしかったです（土岐, 相撲）。
- ・ 相撲を見る前に講義をして, 相撲を見るにルールが分ってもっとおもしろく見ることができました（相撲）。
- ・ 直接体験するから（土岐, 狂言実演）。
- ・ 分かりやすく説明してくれたし, いろんな資料が見られてよかったんです（相撲, 狂言実演）。
- ・ 狂言を見てよくて, 直接して見ることもおもしろかったです。能と狂言にすこし興味があるから良かったです（能・狂言, 狂言実演）。

4. 日本事情の講義で、ほかに勉強したいトピック
がありますか。あれば、書いてください。

- ・ けっこうでした。
- ・ あまりないんです。
- ・ 天皇のことについて知りたいんです。
- ・ 落語について知りたかったです。
- ・ 剣道、柔道など武道。
- ・ 日本の経済、最近のニュースについて。
- ・ まつりについて。
- ・ 日本料理のつくり方、実習。

- とてもよかった 0
- よかった 3
- 悪かった 5
- とても悪かった 6

【土岐7 / 4】

- とてもよかった 11
- よかった 10
- 悪かった 1
- とても悪かった 0

5. 日本事情の講義の回数について

- ちょうどよかった 14
- 少なすぎた 0
- 多すぎた 8

【相撲7 / 17】

- とてもよかった 13
- よかった 9
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

Ⅲ 日本人学生との交流授業（Exchange Class）
について（ルンド大生だけ）

1. 工学部数理デザイン工学科の学生との交流（7
月2日）について

- とてもよかった 0
- よかった 8
- 悪かった 6
- とても悪かった 0

【鶉飼7 / 25】

- とてもよかった 2
- よかった 11
- 悪かった 14
- とても悪かった 0

2. このような交流授業を、何回くらいしたいです
か。

- 0回（しなくてもいい） 4
- 1回 10
- 2回 0
- 3回以上（ ）回 0

書き込み：

美濃：（「とても悪かった」にマークしたが）たい
こがよかったです。

土岐：（「悪かった」にマークしたが）自分でとう
きをするのはよかったです。

3. 交流授業について感想や意見があれば書いてく
ださい。また、日本人とどんなトピックについ
て話したいか書いてください。

- ・ メールプログラムがあったのはよかったです
が、短すぎでした。交流授業はつまらなかつ
たです。共通点がありませんでした。

2. 感想や意見を書いてください。また、ほかに行
きたい所や、サマースクールでしたいことがあ
れば書いてください。

- ・ もっと自由があればよかったです。ゆっくり
面白物を見たかったです。
- ・ 京都に行きたかったです。
- ・ 去年みたいに京都に行かせばよかったです。
- ・ 高山に行きたいです。
- ・ マンガやアニメが作られる所に行きたい。
- ・ 美濃の見学があまりよくなかっても、たいこ
をたたかせられたのおかげで、あの見学が楽
しかった。
- ・ 美濃はつまらなかったです。たいこはよかつ
たと思います。
- ・ みのりは少しつまらないけど、たいこはほとん
どにたのしかったです。

Ⅳ 見学（Excursion）について

1. 見学（美濃6 / 20：ルンド大生のみ・土岐7 /
4・相撲7 / 17・鶉飼7 / 25）は、それぞれよ
かったですか。

【美濃6 / 20・ルンド大生のみ】

- ・ 美濃はすごくつまらなかったです。もっと自由だったら楽しかったかも知れません。鶺鴒はよかったです。待つ時間はちょっと長すぎで、見る時間はとても短かったです。
- ・ 土岐は韓国にもあることなんで私としてはそんなにめずらしくなかったけど、それ以外の相撲やうかいはおもしろくてたのしかったです。
- ・ 土岐は自分で土器 (= 陶器) を作るのがたのしかったです。相撲は直接行って見るのがおもしろかったです。鶺鴒は暑かったですけど、興味がありました。
- ・ 土岐に行って自分が直接作られた事が本当によかったです。昨年は京都や大阪の旅行をしたとききましたけど今年はそれがなかった事がちょっと残念。
- ・ 近くにきよと (= 京都) があるからきよとに行きたいです。
- ・ 京都。
- ・ 武道を教えてください。
- ・ とくにありません。

V 郡上でのプログラムについて

プログラム (書道 calligraphy, 郡上おどり Gujo dance, 紙細工 paper craft, 座禅 Zen meditation, 茶道 tea ceremony, ホームステイ) はどうでしたか。

- | | |
|----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 16 |
| <input type="checkbox"/> よかった | 4 |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 2 |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 |

感想や意見を書いてください。

- ・ 書道をもっとやりたいです。
- ・ 主に茶道はよかったです。
- ・ 全部はよかったです。
- ・ ぐじょはだいたい全部がよかったです。ぎぜんの時間はちょっと少なかったです。
- ・ えと～じゃ、座禅があまりきびしくなかった。さんねんですよ。
- ・ ホームステイはすごく楽しかったですが、他の事はかなりつまらなかったです。
- ・ ホームステイは本当にたのしかったですけど、ほかのものはとてもつまらないです。「悪かった」にマーク)

- ・ 紙細工や座禅や茶道はちょっとつまらなかったです。
- ・ その中で郡上おどりと茶道が私のサマースクールの中で一番つよくのこっています。とてもよかったです。
- ・ いろいろな経験をしてとてもおもしろかったです。
- ・ はじめはちょっとふべんでしたけど、時間がかかってほしいでいいでした。
- ・ 郡上は誰が行っても好きになれるようなすばらしい所だと思います。
- ・ いろいろなことを体験してみて良かったです。

VI 宿舎 (dormitory) とチューターについて

1. 宿舎の設備 equipments について

- | | |
|----------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 7 |
| <input type="checkbox"/> よかった | 9 |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 6 |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 |

宿舎にほしい設備があれば書いてください。また、問題点も書いてください。

- ・ 4階の部屋の中でエアコンのひつようがあります。
- ・ 部屋の中にエアコンがあればよかったです。
- ・ 部屋でクーラーがほしいです。
- ・ エアコンが欲しい。
- ・ エアコンが欲しかったです。インターネットも欲しかったです。
- ・ ねる部屋にエアコンが欲しいんです。四かいにねられなかったです。
- ・ ベッドがほしい。
- ・ さいてき (= 最適? 快適?) でしたよ!
- ・ エアコン。
- ・ クーラー以外の不便した事はありません。
- ・ 部屋でエアコンがないですからとても暑いです。エアコンがほしいです。りょうの外にがいとうがあればいいです。
- ・ 国際電話ができる電話。クーラーが少ないです。インターネット。
- ・ 国際公衆電話。
- ・ 部屋にクーラーがなくても私は大丈夫でした。コップやさらとかもいつも十分でべりでした。

- ・ 問題点なし。

2. チューターが宿舎にいることについて

- とてもよかった 17
- よかった 3
- 悪かった 2
- とても悪かった 0

その理由を書いてください。

- ・ 本物の生活の日本語はチューターズから学びました。
- ・ チューターと話すのは多分一番楽しい事です。
- ・ 日本人としゃべるのはいいれんしゅうだし、とても親切な人と会えました。
- ・ 楽しかったからです。
- ・ チューターは楽しくて親切です。
- ・ チューターといっしょに話したり、あそんだりは楽しかったです。
- ・ チューターは大体夜だけいるけど、チューターはいつも助けて、面白かった。
- ・ チューターはみんないい人ですから。
- ・ 話しやすくてみんなおもしろかったです。
- ・ チューターはみんなやさしくしてあげました。
- ・ みんなと仲よくできるように橋の役として頑張ってくれました。感謝しています。
- ・ いろいろなことを手伝ってくれたんです。
- ・ 日本人と対話する機会がこれだけです。
- ・ なぜチューターが宿舎にいるかとかんがえました。そんなにはなすこともないし、なまえもしらないです。
- ・ チューターがすることがあまりありませんでした。チューターは特定の人に親切でした。

- ・ 朝の授業はとても早くていつもねむかったです。もうちょっと遅くしたらいいかも知れません。
- ・ 参加者は子供じゃないから、もっと自由にしてください。
- ・ とてもよかったです。ありがとうございました。
- ・ クラスを変って授業をしたら、みんなもっとなかよしになったかもしれません。4週間、本当にありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ スウェーデンのともだちと楽しかったです。多い日本人と対話する機会がもっとあればいいと思います。

VII サマースクール全体について

1. このサマースクールの全体的な評価 evaluation について

- とてもよかった 14
- よかった 8
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

2. これからのサマースクールのために、提案 suggestion や意見があれば書いてください。

第二部 夏期短期留学（派遣）

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計11人）

日程：2008年8月29日（金）～9月26日（金）4週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	稲山 孝典	工学部社会基盤工学科	3
2	土屋 圭輔	工学部社会基盤工学科	3
3	小栗 和雄	工学部機能材料工学科	2
4	原田 剛志	工学部社会基盤工学科	2
5	野口 幸太	工学部社会基盤工学科	2
6	枝吉 佳奈	工学部生命工学科	2
7	後藤 義哲	応用生物科学部食品生命科学科	2
8	原 靖江	地域科学部	2
9	舘石 優香	地域科学部	2
10	瓜野 早紀	地域科学部	2
11	相川 清子	教育学部英語教育	1



事前研修

短期留学に行くことが決定したときは、正直期待より不安のほうが大きかったように思えます。3年生ということもあり、長らく英語という授業を受けていませんでした。それ故に英語のすべてに不安を伴っていました。そういう理由もあり、私は積極的に事前研修に出席するようにしました。週に2回の開講でしたが、バイトや授業などがあり主に週に1回のペースでしか受講できませんでした。しかしその時間は私にはとても重要な時間でした。

講師は留学生の人で、海外に行ったときにあるであろうあらゆるシチュエーションを毎回想定し、主に会話を中心とした内容の授業を行ってくれました。最初は予想通り、戸惑うばかりの自分がそこにいましたが、回数を重ねるごとに自然とその場に慣れることができ、完璧に英語が通じなくても外国人となんとかコミュニケーションがとれるようになりました。このような事前研修のおかげで、いざ留学しオーストラリアで暮らすようになったときも、積極的に外国人と話すことができました。

留学にはあらゆる要素が必要とされると思いますが、私はコミュニケーション能力が一番大事だと感じました。英語が通じなくてもジェスチャーなど、あらゆる方法で相手に自分の意思を伝えなくてはならない時が訪れます。そのようなケースに備えるため、コミュニケーション能力はできるだけ養っておいたほうが良いと思います。実際に行ってそこで初めて通じないことに困惑するのではなく、事前に困惑する状況を体験することで、現地ではそんなには困りませんでした。事前研修に参加することは私にとってとても有意義な時間となりました。

（稲山 孝典）

私たちの場合、事前研修に来ていたのは11人中3人でした。あまり来ていませんでしたが、他の国に留学する人もいて、いつも10人ぐらいで授業を行っていました。講師にはオーストラリア人のカイリ、アメリカ人のピーター、日本人の杉山真央さんがいました。授業の内容は主に発音と会話でした。発音については日本人が苦手な「R」と「L」の違いや、「th」の発音の仕方などネイティブのきれいな発音を聞くことができます。他にも読みにくい単語やイントネーションも丁寧に教えてくれます。会話は様々な場面を想定して、手紙の送り方、お店で物を買うとき、など自分がこのような場面に遭遇したら、という工夫が授業にあります。他にもゲームをしたり、映画を観たりと楽しく過ごす時間も多々あります。また、授業中もよく笑いが飛び交うような、授業というより英会話教室に近いと思います。講師の方々が外国人なので、外国人と話すことに慣れることができると思います。授業中はほぼ英語ですが、講師の方々は日本語も話すことができるので言葉が通じるかどうかという心配は全然いらなと思います。去年などはこの事前研修でみんなが仲良くなるみたいだったので、自分たちはあまり人数が集まらなかったのですが直前の説明会がほぼ初顔合わせのような感じでした。後になってから行けばよかったといっている人もいたので、みんなと仲良くなるという目的で参加するのもいいと思います。

（土屋 圭輔）

ホームステイ

私の家庭は、ファーザーの Igor さん、マザーの Janka さん、そして猫の Zorro (♂) の二人と一匹家族(息子さんは仕事で不在でした)、後半の2週間は留学生二人(スイスから来た Pirmin, フランスから来た Maxime)も加わり、にぎやかな暮らしでした。

ホストファーザーとマザーは10年以上前にスロバ

キアから移住してきた方で、訛りのない英語を話していました。でも、中身は生粋のオーギー夫婦で、性格はおおらかで、どんなトラブルのときも決まって笑顔で「No worries! (気にすることあ無い!)」な方でした。

ホストファミリーの方はこれまでに多くの日本人を受け入れていて、日本人たるものをすごく理解し

てくれていました。ただ、それゆえに日本のお土産（扇子など）のウケはいまひとつ。日本からの土産も喜んでくれていたのですが、やっぱり大切なモノより気持ちだったのです。

はじめ私がオーストラリアに来たときは、緊張きって語彙も文法もめちゃくちゃな英語しか話せませんでした。でも、みんな真剣に耳を傾けて、私が伝えたいことをつかもうとしてくれましたし、私が彼らの英語を聞き取れなかったときも、何度も繰り返したり、ゆっくり言ってくれたりと気遣ってくれました。

ホームステイファミリーから英語をよく教わりました（変なスラングも含めて…）留学生の Pirmin は私よりずっと英語が上手く、彼とファーザーの会話が速すぎて全く意味がつかめず、ライバル心が芽生えました。逆にもう一人の留学生 Maxime には英語を教えてあげたりもしました（あと箸の使い方も）。たまにファーザーと男同士の会話もしたりしました。

英語学習以外の面でもいろいろお世話になりました。私の家庭では朝昼晩ともにファーザーが作ってくれて、とくに晩御飯はオーストラリアならではの料理のほかにも、いろいろな料理を食べさせてくれました。一回カンガルーの肉も食べたことがあります。洗濯などもマザーがやってくれました。

私が困ったときは本当にいろいろと助けてくださいました。風邪を引いたとき、ファーザーが私に日本茶を入れてくれたこともありました。

オーストラリアの有名な観光地についてもいろいろ教えてくれました。最後のほうではファーザーが私と Maxime を連れて、3人で野生のカンガルーを見に大きな公園へ行ってくださいました。そこで夕暮れ時に3人そろって迷子になってしまい、ずっと公園の森や平原を彷徨ったことは今ではいい思い出です。

英語だからと怖気づく必要は全くなく、たった一つの単語が分かっただけでもコミュニケーションは成立してしまうのがすごいところ。そして多くのコミュニケーションに参加することで、いろいろ刺激を受けたのがよかったです。

自分から積極的に話すことで、確実に世界は広がると思います。自分が本気でいれば、たいていの言葉の壁は越えられると思います。もちろん、壁を越えられないことも多々ありますが、それはまた、英語をもっと知ろうというモチベーションにつながる

のです。

（後藤 義哲）

ホームステイには当たりとはずれがあります。僕は、はずれを引きました。「ホストファミリーと会話ができない」「オーストラリア人の生活を体験できない」という2つのはずれです。

会話ができない原因は向こうにありました。1階と2階が分離している2世帯住宅（玄関が1階と2階の両方にある）の2階に、ホストマザーが一人暮らしをしていました。私が1階にいたとしても降りてきてくれないのです。私が2階に行ったとしても、家の中へ入れてくれません。外での立ち話となります。夕食の時間でさえも一緒にいることができませんでした（16時頃に作られた夕食が、冷蔵庫の中に入っていて、いつもレンジで温めてから食べていました）。マザーは「私は早く寝てしまうから、一緒に食べられない」と言っていました。

オーストラリア人がどのように生活しているかを、自分の目で見たいと思いました。しかし、一緒に暮らせなかったために、見ることはできませんでした。残念です。

ホストマザーは、上記の点以外は、とても親切な方でした。昼食のサンドイッチ（食パン2枚分）と夕ごはんを作ってくれました。そして毎週、洗濯をしてもらいました。

私のホームステイで一番大きかったのは、もう一人の留学生の存在です。コロンビアから来た17歳の男の子でした。彼の第一言語はスペイン語なので、お互い不慣れな第二言語での会話をしました。辞書を使ったり、紙に書いてもらったりしながらの会話ですが、とても楽しいものでした。「今日何があったか」、「何を食べたか」、「明日何をするか」、「自分



はどう思っているか、感じているか」。このような簡単な会話を毎日していました。彼も早くに寝てしまうので長話はあまりできませんでしたが、楽しい会話ができたと思います。

（原田 剛志）

■ 僕が滞在していたホームステイ先では、ナンシーというおばあちゃんにお世話になっていました。最初のころは、ベーコンがパイケンに聞こえたり、ステーキがスタイクに聞こえたりして、もう何を言ってるのか全然わからなくて、こんなんでこれからやっていけるのかと思っていましたが、徐々に聞き取れるようになっていきました。

ナンシーはほんとにいい人で、自分の身の回りのことを何から何までやってくれました。会った初日には僕が日本人だからということで、寿司を食べさせてくれました。「日本で何を食べていたの？」と聞かれて、「ご飯と焼き魚」と答えたら、次の日に作ってくれたこともありました。本当にナンシーにはお礼の言いようがありません。

また、その滞在先ではハリーという韓国人の留学生の人も暮らしていました。僕とは違う大学に通っているようで、毎日とても忙しそうで、あまり話す機会はありませんでした。僕以外のホームステイ先でも、ほかの留学生とともに滞在するというケースはあったようです。

生活は、大体朝7時に起きて、朝食（パンやシリアル、ベーコンなど）を食べる。8時に学校へ行くためにバスに乗って、夕方6時くらいに帰宅。帰ってからテレビ見たり、新聞読んだりして（もちろん全部英語）、それから夕食。ミートパイ、チキンスープ、ステーキ、鶏肉と野菜の炒め物など。とりあえず全部おいしかったです。飲み物は、お茶なんてないので、ジンジャエールとかコーラなどでした。あと、食後には必ずアイスを食べました。

そのあとシャワーを浴びていました。オーストラリアは日本と違って、節水にとっても厳しいと聞いていたので、覚悟していましたが、僕のところではそういうことはまったく気にしていない感じでした。でも、ほかの滞在先ではシャワーの時間が5分とか決められていたところもあったそうなので、それなりの準備はしておいたほうがいいかもしれません。

それからおばあちゃんとフットボールの試合を見たり、DVDを見たりしていました。「ラスト・サムライ」を見たのですが、日本と字幕が逆（日本語に



英語字幕）になっていて、とても面白かったです。そして夜10時に就寝。部屋は一部屋まるまる使わせてもらっていました。

一番問題になったのは、電話です。僕のところだけかもしれませんが、自宅の電話から日本にかけてもうまくつながらなかったです。ですから、現地の携帯電話を電話会社で借りるか、国際電話が可能な日本の携帯電話をもっていくことをオススメします。

最後に別れるときには、手紙と手作りのミサンガを贈りました。おばあちゃんは、僕が来る前に10人くらい留学生を受け入れていたそうだけど、手紙もらったのは僕がはじめてだったそうです。ちょっとした自慢です。

とにかく、いい経験になりました。迷っているならぜひ行くべきです！！

（小栗 和雄）

■ 私がホームステイしていた家には一人暮らしのJudyと愛犬のTammyがいました。Judyは今までも何人か受け入れていて慣れていたようで、いつもゆっくり、はっきりと発音してくれたので分かりやすかったです。毎日たくさん話しかけて



くれて、落ち込んだ日でも Judy としゃべると元気になりました。ステイ中たくさん英語を話すことができたのは Judy が話しかけてくれたおかげでした。オーストラリアに着いてから、national holiday と土日が重なって学校が始まるまで暇な日が3日間ありましたが、毛糸を買ってきて Judy に編み物を教えてもらったり、日曜にはサマスの先輩たちと Currumbin という大きな動物園に行ったりしました。Currumbin ではコアラを抱いて記念撮影したり、たくさんのカンガルーに触れ合ったりして、とても楽しかったです。でも一つ注意しなければいけないのはバスについてです。向こうのバスの運行はとてもルーズなので特に休日のバスはあてになりません。Currumbin に行った日も30分待ってもバスが来なくて、結局 Judy に待ち合わせ場所まで車で送ってもらいました。バス停には名前もついていないしアナウンスもないので、暗い夜は特に降りる場所が分からなくてずいぶん乗り過ぎてしまい、迎えに来てもらったこともありました。

Judy が作ってくれる料理はどれもおいしくて、あまり日本食が恋しくなることもありませんでした。お昼にはいつも手作りのケーキを添えてくれて嬉しかったです。それと必ずリングも持たせてくれて、それを丸かじりしなくてはならないことに驚きました。休日にどこかへ行く時には、お昼に持っていけるように一緒にサンドイッチを作ったりもしました。


週末には、サマスの先輩たちとモートン島というブリスベンの沖合に浮かぶ白い砂でできた島へ行ったり、飛行機を使ってシドニーまで観光に行ったりしました。またクラスで仲良くなったメンバーで movie world という、USJ を小さくしたような所へも行きました。この時は中国人や台湾人の人もミックスして行ったので、ずっと英語が喋れて楽しかったです。また、平日には放課後に山奥の土ボタルを見に行ったり、近辺で最も高い Q1 というビルに上って展望台から夜景を眺めたりもしました。

それから、もう一つ楽しみだったのはオーストラリアの星空です。オーストラリアは南半球なので、日本と見える星空が違います。特に日本では見られない南十字星や、ケンタウルス座のひときわ輝く $\alpha \cdot \beta$ 、地面に向かって真っ逆さまに落ちていくさそり座も見ものです。私は毎日星座の本と懐中電灯を持って家の庭から眺めていました。オーストラリアは日本よりも灯りが少ないので、とてもきれいに見えます。でも一番星がきれいに見えたのはモート

ン島でした。プラネタリウムのようなあの満天の星空は忘れられません。ぜひオーストラリアに行く機会があれば見てみてください！

初めは長いと思った1か月もあっという間で、後からやりたいことが増えてきて、帰らなくてはならないのがとても残念でした。心残りは、休日にいろんな所へ出歩いていたので、その分 Judy の手伝いができなかったことです。Judy はホントによくしてくれて、私が気に入った曲を焼いてプレゼントしてくれたり、私にとって有益だと思う情報をたくさん教えてくれました。Judy はネットをよく使うので、今でも頻繁にメールのやり取りをしています。あと Tammy ともっと遊びたかったです。今まで犬はあまり好きではなかったのですが、1か月 Tammy と過ごして、犬が好きになりました！毎日バスで帰宅するたびに家の奥から玄関まで走って迎えてくれる姿がとても愛らしかったです。いつかまたオーストラリアに行って Judy や Tammy やクラスのみんなに会いたいです。

（相川 清子）

 僕は初めての海外で、しかも知らない家族のところへホームステイするというので、とても緊張していて、言葉や生活のことなど不安でいっぱいでした。僕のホームステイ先はファーザー、マザー、8歳、6歳、3歳の男の子と1歳の女の子という小さい子供いっぴいの6人家族でした。最初にファーザーと顔合わせしたときに自分が考えていた自己紹介も緊張でほぼ忘れてしまい、ほとんどしゃべれませんでした。しかし、笑顔で迎えてくれて、いろいろ話しかけてもらえたので、とても嬉しかったです。

日本からの土産では、扇子、エビせんべい、折り紙、お菓子を持っていき、折り紙やお菓子を子供たちがとても喜んでくれたのでよかったです。いつも家に帰ると「今日はどうだった？」と聞かれました。最初のうちは「～に行ってきた、おもしろかったよ」程度しか言えませんでした。だんだん詳しい内容や深い話までできるようになりました。ファーザーと戦争やゴミの分別について語ったり、トトロについて語ったりもしました。自分の中で英語をしゃべっているなあと思うと同時に、オーストラリアと日本の文化の違いを学ぶことができました。

子供たちはとても元気で部屋の中でも暴れるぐらいいっしょに遊んでいました。僕は怒られなかった



のですが、子供たちはマザーによく「シャラップ！」と怒られていました。このようなところは日本と同じだなあと思いました。いっしょに買い物に行ったときは8歳の子が『あなたは私の兄弟だよ』と言ってきて、とても嬉しかったこともありました。食事に関してはあまり米は無く、チキンが多かったです。最初は味が濃くてつらかったのですが、慣れていくうちにおいしく感じるようになりました。朝食はマザーが作らない文化らしく、自分でシリアルかトーストを食べていました。日本では自分で作らな

いので、いい経験になりました。昼食にはいつもサンドイッチとフルーツを持たせてくれてありがたかったです。

外食がしたいときは電話を1本入れれば快く対応してくれました。僕のホームステイ先では毎週金曜日にパーティがあり、親戚が集まって食事をしました。お祈りから始まるので、最初は戸惑いましたが、豪華な食べ物が出てくるのでよかったです。食事の後にはみんなでTVゲームをして楽しく過ごしました。

他のみんなと違い、僕のホームステイ先ではシャワーについては何も言われませんでした。オーストラリアでは水が貴重なので基本的にシャワーは4分までと言われるところが多かったみたいです。洗濯も週に1回まとめて洗うみたいなので、下着などは足りなくなりそう自分で洗っていました。最後の別れのときは手紙を書いて読んだのですが、ホストファミリーとの別れがつらく、読んでいるうちに号泣してしまいました。楽しいオーストラリアでの生活はホストファミリーがあつてのものだと心から思いました。自分の中でホストファミリーとの出会いは大きな財産になりました。

（土屋 圭輔）

授業・クラス

GRIFFITH UNIVERSITY LANGUAGE INSTITUTE
GOLD COAST
TIMETABLE FROM 1 SEPTEMBER 2008

CLASS : GE 2 B

Day	MONDAY Kaylene	TUESDAY Kaylene	WEDNESDAY Bronwyn	THURSDAY Bronwyn	FRIDAY Kaylene
8.30 am to 9.30 am	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	ILC	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS REVIEW — G&V TEST
9.30 am to 10.30 am	LANGUAGE LAB	ILC	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	
10.30 am to 11.00 am	B	R	E	A	K
11.00 am to 12.30 pm	INTEGRATED SKILLS	SPEAKING AND LISTENING	INTEGRATED SKILLS	READING AND WRITING	11:00-12:00 SPELLING AND PRONUNCIATION
12.30 pm to 1.30 pm	L	U	N	C	H
1.30 pm to 2.30 pm	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	
2.30 pm to 3.30 pm					

GRIFFITH ENGLISH LANGUAGE INSTITUTE
GOLD COAST

CLASS : GE 3 C

TIMETABLE FROM 1 SEPTEMBER 2008

Day	MONDAY Cara	TUESDAY Cara	WEDNESDAY Cara	THURSDAY Joan	FRIDAY Joan
8.30 am to 9.30 am	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS REVIEW — G&V TEST
9.30 am to 10.30 am	ILC	LANGUAGE LAB	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	
10.30 am to 11.00 am	B	R	E	A	K
11.00 am to 12.30 pm	11:00-11:50 INTEGRATED SKILLS 11:50-12:30 NEWSPAPERS	READING AND WRITING	SPEAKING AND LISTENING	11:00-12:00 ILC 12:00-12:30 INTEGRATED SKILLS	11:00-12:00 SPELLING AND PRONUNCIATION
12.30 pm to 1.30 pm	L	U	N	C	H
1.30 pm to 2.30 pm	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	(OPTION CLASS- CHECK ROOM & TEACHER)	
2.30 pm to 3.30 pm					

クラスはレベル分けテストによって決定され、午前に2コマ、午後に1コマあり、私が在籍したクラスはどちらも15人程度で、アジア系が多かった。4～5人ずつ固まって着席していたが、自由席であったため日によってグループのメンバーが多少異なり、いろいろなクラスメートと話すことができた。クラス全体の仲は良かった方だと思う。「(特に)授業中は英語で話す」という強いルールがあり、同郷の生徒と自国の言葉で話していて注意される、ということがしばしばあった。同じ母国語を持つ生徒がクラスにいる場合、ついその言葉で話してしまいがちだが、皆が気持ちよく過ごすためにもこのルールは守られるべきだと思えた。自分の知らない言語で話されると内容がどうあれ、疎外感があったりと、あまり気持ちのいいものではないからである。


各レベルの時間割があり、1コマの中で何を学習するかは時間で決められていたようだ。日本で受けてきた英語の授業との違いで印象に残っているのは次に挙げる三点である。1. グループでの話し合いが多い。2. “What do you think?” などと自分自身の意見を問われることが多い。3. 生徒が積極的に発言する。1. については、ディスカッションであったり雑談のようなものであったりと様々であった

が、自分も相手もノンネイティブで、出身が違えば当然訛りも違い、自分の意見・想いを納得のいくように伝えるのは予想以上に難しかった。2. について、この類の質問は日本であまり経験してこなかったからか、返答に困ってしまうことが多々あった。他国の生徒はたいてい臆することなく自分の意見などを述べていたため、とても刺激を受けたし、授業を通して1ヶ月間でかなり鍛えられたと思う。3. については2. と似ているが、授業中自分が理解できなかった時や先生の説明に納得できなかった時にすぐにそれを表現し、解決させてしまう生徒が多かった。また、先生にしたはずの質問に他の生徒が答え、先生が後から補足するということもよくあった。これらのことは、ある事柄を学習したり問題を解いたりする時に、他人が何を思い、どのように考えていくのかなどの発見があるので大変面白かった。

約1ヶ月間授業を受けたことによって、今まで得意だと思ってきた文法などについてはさらに自信が持てるようになり、苦手意識を持っていたスピーキング・リスニングについては、よりポジティブに捉えられるようになった。リスニングは聞けば聞くだけ上達したと感じられたし、スピーキングについては、クラスメートが話す英語を聞いていて発音はさ

ほど問題ではないと実感できたからである。日本で受けてきた授業でも、ネイティブではないのだから彼らと同じ発音ができなくても気にする必要はないと教わっており、頭ではわかっていたがどうしても苦手意識を払拭することができなかった。しかし、授業中、休み時間、ランチタイムにいろいろな国の人たちと話をしてみて、皆それぞれクセがあり、中には自分よりも発音が下手なのではないかと思ってしまうほどに訛っている人もいて、それでも皆コミュニケーションがとれている。自分も彼らと話せていると感じた時、発音を気にして萎縮してはいはもったいないと思えたのだ。この感覚を得られたことが、学校生活で私にとって一番の収穫だったかもしれない。

（枝吉 佳奈）

 オーストラリアでのサマースクール4日目、Griffith University English Language Instituteでの授業が始まりました。Griffith Universityといってもオーストラリアの4箇所にキャンパスを持つ大きな大学で、今回は Gold Coast にあるキャンパスに通いました。

Gold Coast キャンパスといっても語学学校は本キャンパスとは別の場所で、大きなショッピングセンターの一角にありました。

初日にまず、クラス分けのテストが行われて、その日の午後からそれぞれのクラスに分かれて授業を行いました。授業は午前と午後で分かれており、それぞれクラスメイトも違いました。

午前のクラスでは Reading, Writing, Grammar, Speaking, Listening と総合的な授業が行われました。毎週1～3回筆記テストが行われ、生徒それぞれの成績を付けているようでした。また、ペアである設定を決め、それについて会話をするという Speaking テストもしました。また、週に2回は図書

館での自主学習の時間もあり、テキストを使って勉強したり、本を読んだりしました。クラスはサウジアラビアが半数以上と、台湾、韓国、タイ、チリ、ベネズエラ、コロンビアの人たちがいました。それぞれの国で英語の発音など特徴があり、また、いろいろな文化にも触れることができました。とくに、サウジアラビアの人たちはイスラム教でちょうどラマダーン（断食が行われる月）であり、それに関するいろいろな話を聞くことができました。

午後のクラスは特に Communication を中心とした授業でした。ペアで会話をしたり、グループで相談しながら問題を解いたり、クラス全体でゲームをして盛り上がったりと楽しかったです。また、コンピュータールームでヘッドフォンとマイクを使ってペアで会話をしたりもしました。


ランチタイムは日本人みんなで食べました。ランチは日によって自分で作って持ってきたり、ホームステイファミリーが作ってくれたり、近くのショップで買ったりしました。ショッピングセンター内なので、お腹がすいたら Mac や KFC などのファーストフードがあるし、コーヒーショップもたくさんあって食に困ることはありませんでした。

午後の授業は3：30（金曜日は12：00）に終わるので放課後にたくさん遊ぶ時間があり、友達と買い物をしたり、友達の家でビールを飲んだり、野生のカンガルーを見に行ったりと毎日遊んでいました。また、早く帰った日はホストファミリーのファーマーとお酒を飲んだり、夕飯の準備の手伝いなどをしていました。

今回のサマースクールでは、さまざまな国の人と出会い、文化の違いなどを感じることができました。英語という共通言語があることで、いろいろな人と Communication ができるということは素晴らしいことだと思いました。

（野口 幸太）

休日の過ごし方

 オーストラリアで過ごす初めての休日、私は同じホームステイ先に住んでいる台湾人の Anna と彼女の友達と一緒にサーファーズパラダイスへ行きました。メンバーは台湾人の Anna, Alex, Winnie, 韓国人の Justine, 日本人の優香, 千夏, こうじ先輩の計8人です（優香はサマスクの仲間でしたが、千夏とこうじ先輩とは初めて会いました）。

まずは8人でビーチへ行きました。サーファーズパラダイスの青く透きとおった海、サラサラの砂浜に感動!! ズーっと先まで続く海辺を見て、オーストラリアに来たことを実感しました。広大で美しい海を見ると、今までの自分の悩みや不安がちっぽけなことのように感じました。まだ肌寒い時期だったので脚だけ水につかりましたが、サーフィンをしてい

る人たちもたくさんいました（後日千夏と一緒にサーフィンに挑戦してきました。とても難しかったけれど楽しかったです）。



海で遊んだ後はショッピングをしました。サーファーズパラダイスには大きなショッピングセンターが1つあり、そのほかにもお土産屋や服屋や雑貨屋、レストランやカフェなど多くの店があります。台湾の女の

子と趣味が合い“pretty!!”を連呼しながらお店を巡りました。夕食は韓国料理屋に行き、韓国人お勧めのメニューを食べました。サーファーズパラダイスには日本料理、韓国料理、中華料理、タイ料理などアジア系のレストランが多くあるのでお米が恋しくなったときにはいつでも食べることができます。そして食後に夜の海を見るために再びビーチへ。夜の海は昼とは違った雰囲気でもほとんどいなくて静かでロマンチックでした。

こうして、彼らのおかげで初めての休日はとても充実したものになりました。みんなとても親切で、一緒にいて楽しかったです。彼らは違う語学学校に通っていましたが、その後も連絡を取り合い何度か放課後に遊び、たくさんの思い出をつくることができました。彼らには感謝の気持ちでいっぱいです。オーストラリアには様々な国の留学生やワーキング



ホリデーの人がいます。世界各国の人々と出会い、お互いの文化や思想を交流することは、自分を見つめ直し、人として成長する絶好の機会になると思いました。

（瓜野 早紀）

休日というのは1日を完全に使える最高の日です。そして、金曜日は午後の授業がないので、どこかに出かけるチャンスがあります。私は多くの場所を訪れ、歩き、見聞を広めました。Gold Coast Show やモートン島、Q1、土ボタルなどの特別な場所だけでなく、ショッピングセンターやスーパーでも日本との違いを実感し充実した時間を過ごせます。

私はよく散歩をしました。学校の帰り道を歩いて帰ったり、道を変えて探検してみたりしました。ゴールドコーストには緑があふれていて、心が安らぎます。



Gold Coast Show

8月29日～31日の3日間行われたイベントで様々な展示とコンテストが開かれていました。会場には仮設の遊園地があり、馬、豚、羊、ラクダ、ポニー、



カモなどたくさんの動物がいました。車やバイク、子供の作品、模型など様々な展示があり、日本との違いを探そうと思っていましたが、大きな発見は得られず、途中で断念しました。何も考えずぶらついていただけですが、小さな違いはたくさんあって、とても楽しめました。

ショッピングセンター&スーパー

日本と一番大きく違う点は、棚です。天井に届く程の所まで商品が陳列されています。棚の背が高いのです。また、商品の種類も豊富で、たくさんの種類が並んでいました。

Q1

ゴールドコーストに来たら一度は訪れてみたい場所、それはQ1です。地上77階からの眺めは絶景で、街がまるでおもちゃの街のようでした。ゴールドコーストには運河のような大きな川が流れていて、面白い街の形を作っています。これは上から見て初めてわかります。

土ボタル

土ボタルとはゴールドコーストの山で見られる、青白く光る虫です。その虫が作る眺めは、まるで星のようでした。生息しているのは洞窟ですが、そこに行くまでの道でも見る事ができました。しかし、洞窟の中はそれまで見た眺めとは比べ物になりません。中には、天の川が広がっていました。弱い光と強い光があり、不均一なものもあって夜空のように見えました。

このツアーは、日本人ガイド付きという、語学留学としては避けるべきものでした。しかし、このガイドのおかげで見聞を広げることができ、とてもよかったと思っています。別のツアーに参加している観光客は、すぐに帰路へ向かっていましたが、私たちは「絞め殺しの木」という不思議な木の説明（木

を枯らしてその場所に自分が生息する木）や土ボタルの説明など面白い話を聞き、楽しむことができたからです。

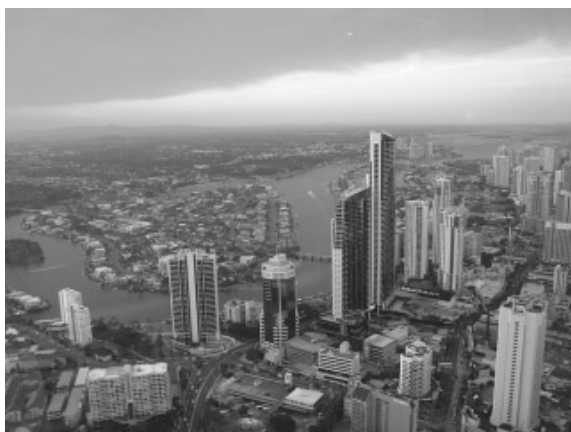
サイクリング

1日\$25。少し高いですが、最後の週末、追いつめられるように計画しました。ゴールドコーストを歩き回するには時間的に限界があり、自転車がほしいなと思うことがよくありました。最後の週末に急ぎよ自転車屋に乗り込み、「自転車のレンタルはできませんか?」と聞いたのは、その日の午前中でした。「ここではできないよ」と渋い顔をされた後、「どうしても借りたい」という想いが伝わるように頼みました。するとサーファーズパラダイスにあるレンタル自転車屋を紹介してもらえました。最初の自転車屋まで行くのに歩いて1時間かかり、さらにサーファーズに行く必要があり、午前中はつぶれました。もっと早くから計画していたら、一日中ずっとサイクリングできたと思います。13時から借りて17時時に返す約束をして結局返したのは16時です。もっと時間があれば遠出ができましたが、余裕がなくなり諦めました（この日Q1で昼間の景色を見なかったのが焦っていました）。



射撃

ゴールドコーストの海岸沿いに、サーファーズパラダイスという街がありました。商品の値段が高いという点以外は、いい場所です。緑は少ないですが、服屋、雑貨屋、お土産屋などたくさんの店がありました。そこで、実弾の射撃をやってきました。日本ではできない経験をしようと思ったのがきっかけです。サマスクメンバーの男子全員が射撃を経験しました。本物の弾と本物の銃。ゴーグルと耳あてを身に着け、撃ちました。イスに座って肘をつき両手で撃ちましたが、凄い衝撃でした。反動で手が勝手に



た市場をのぞいたり、カフェに入ったりと優雅な町並みを満喫しました。シドニーの町は本当におしゃれです。また、この日の夜はハーバーブリッジとオペラハウスが同時に見られる場所に行き、夜景を見ました。これも絶景で、私は昼より夜の方がいいなと思います。何時間でも眺めていられるくらい素敵な夜景で、大変ロマンチックでした。

3日目、私は念願のブリッジクライムをすることが出来ました。これは、ハーバーブリッジのアーチの部分歩いて頂上まで行くというのですが、私はオーストラリアに行くこと決めた瞬間から、このブリッジクライムは必ず達成しようと思っていました。他のメンバーの中で希望者がいなかったため、別行動をして一人で登ってきました。英語の説明と解説で、全てを理解するのは困難でしたが、登る途中に他のツアー客と励ましあったり、一步一步自分の足でハーバーブリッジを登っているという実感は大変嬉しいものでした。頂上に着いたときの360度シドニーを見渡せる眺めは、言葉では言い表せないほど感動するものでした。また、この高さを歩いて登ったという素晴らしい達成感を味わうことが出来ます。これは本当に良い経験になったと思いました。

その後はみんなと合流し、博物館組と美術館組に分かれて、出発までの時間を過ごしました。海外の博物館は日本とは大きさも中身のスケールも違って、恐竜の骨格や動物の標本などリアリティにあふれるものがたくさんありました。海外ならではの迫力を味わうことができるお勧めの場所です。またこのそばにある大聖堂では結婚式が行われていて、すごく綺麗でした。初めてパイプオルガンの音を聴き、大聖堂の雰囲気酔いしれていました。

シドニーは本当に素敵な町で、なんといってもオ



ペラハウスやハーバーブリッジを見てオーストラリアに来たんだという実感を得ることが出来ました。是非、訪問してみてください。

（原 靖江）

オーストラリアに着いてから三度目の休日に、土、日、月と、二泊三日でシドニーに行ってきました。費用は、渡航費・交通費で\$230、宿泊費が\$70くらいで、合計で\$310くらいだったと思います。ゴールドコースト空港から一時間くらいかけて、シドニー空港に到着。そこからタクシーに乗って宿まで行きました。

一日目は、とにかく何も考えずにノープランでシドニーまで来たので、とりあえずみんなで歩き回ってみることにしました。そのうちセント・メリアス大聖堂というところに行き着きました。このとき、聖堂の中でたまたま結婚式が開かれていましたが、とても壮大に行われていて、ただただ驚くばかりでした。

二日目は、とりあえず電車に乗って、有名なオペラハウスを見て、ハーバーブリッジを渡りました。お昼にはみんなでSUSHIを食べました。それから帰り際に、天文台や現代美術館にも行って見ました。宿に入る前に、中華街に行って、みんなで夕ごはんを食べたりもしました。夜には、オペラハウスとハーバーブリッジを同時に見ることができる、ミセスマックウォーリーズチェアという岬のようなどころに行って見ました。夜景がとてもきれいでした。シドニーに行くなら、ここには絶対行くことをオススメします。

三日目。この日はみんな別行動で、オペラハウスの中を見学したり、ハーバーブリッジに登ってみたり、クルーズを楽しんだりしていました。それから美術館や博物館に行って、最後にみんなでもう一度メリアス大聖堂に行って、そして夜にゴールドコーストへ帰ってきました。

このサマースクールのいいところは、すべてが自由なところなんです。ツアーではないから、何をやってもいいんです。街じゅう歩き回ったってよし。ずーっと買い物してたってよし。ひとりで橋の上に登りに行ってもよし。どこで飯食ってもよし。シドニーに限ったことではなく、なんにも考えずに、ただ気のむくままに旅行するというのも、なかなかいいものでした。

ただ、飛行機や宿の手配は、もっと早くからやっ

ておけば良かったなあと思いました。やはり、渡航費は予約が間近になればなるほど高くなってしまい、宿も予約を取ろうとしたときには、もう満室のところばかりだったり、けっこう困りました。旅行のプランを、何から何まですべて決めてしまうのは味気ないから止めたほうがいいと思いますが、土日どこへ行くかぐらいはあらかじめ決めておいて、飛行機や宿の予約は、できるだけオーストラリアに着いてから早めにやっておいたほうがいいと思います。サーファーズパラダイスにあるJTBという旅行会社に行けば、だいたいのことは出来ます。とはいったものの、まあとりあえず行けば何とかあります。やりたいようにやってみてください!!

(小栗 和雄)

☆☆ケアンズ☆☆

■ サンゴ礁の海、グレート・バリア・リーフ。世界最古の森、キュランダ。「世界の車窓から」、キュランダ鉄道。常夏の町ケアンズ。私は3泊4日でケアンズに行きました。

ケアンズはシティではなく、タウンというイメージの緑豊かで穏やかな町でした。そして、ケアンズは常夏の町です。その説明をするために、ゴールドコーストの話をする必要があります。ゴールドコーストは冬ですが、日本と比べてあまり寒くありません。暑い日は半袖1枚でいられるほどです。ただし、夜は少し寒いです。夜になるといつも上着を着ていました。それに対し、ケアンズでは夜でも半袖でいられます。「夏になったらどんな気温になるのだろう」と恐ろしく思いました。日焼け止めを塗っているにも関わらず、肌が焼けるような感じがしました。

ケアンズには日本語があふれていて、日本人がた



くさんいました。海外へ旅をしているのに、日本にいるような感覚を少し持ってしまったのが残念です。レストランのメニューが日本語で書かれているのは、わかりやすいですが、少し残念に思います。もちろん全部の店に日本語メニューがあるわけではありません。

グレート・バリア・リーフが今回の旅のメインでした。日本人観光客の少ないツアーを選び、フェリーに乗り込み、船のような人口の浮き島に行きました（某人気マンガの中で、足のみで戦うコックさんが料理長をやっていた場所に、イメージが重なります）。

酔い止めを飲み忘れて船酔いしましたが、なんとか回復できました。半潜水艇（完全には潜らず、2階建ての下半分が海中に沈んでいる）に乗って約30分間綺麗なサンゴ礁や魚を鑑賞しました。シュノーケリングをして間近に色とりどりのサンゴを見ました。凄く綺麗で、ずっと眺めていたかったです。

3日目にキュランダへ行きました。恐竜時代から変わっていないという世界最古の熱帯雨林の上をロープウェイで通りました。残念ながら下には降りられませんが、背がとても高い木であることは間違いありません。また、雨期に巨大な滝になるというパロン・フォールズを見ましたが、雨期ではなかったので、とても小さな滝でした。残念です。また、キュランダでは水陸両用のバスに乗って熱帯雨林の散策ができました。

キュランダ村でウィンドーショッピングを楽しみ、野鳥園に入り、最後に有名なキュランダ鉄道に乗ってケアンズへ帰りました。高原列車というだけあり、見おろす眺めが綺麗でした。

バックパッカーズという寝るための格安宿（トイレ・シャワー室が共用）に泊まりましたが、

2つのツアーに申し込んだため、9万円近くかかりました。しかし、この経験は日本にいたら決してできない貴重なものです。もしかしたら、2度と味わえないかもしれません。そう考えると価値ある旅であったと思えます。とても楽しい旅でした。

（原田 剛志）

☆☆一人旅☆☆

「オーストラリアに来た以上は、一度でいいから一人旅もやってみたい！」

週末には皆でモートン島やシドニーへ旅行していたのですが、そんな冒険心が、私を一人旅へと駆り立てました。

そこでゴールドコーストから北200キロにある、サンシャインコーストと呼ばれる観光地へ1泊2日の旅行へ行くことにしました。旅行会社を通して、バックツアーではなく往復の長距離バスと1泊分の宿のみ予約しました。現地の移動から観光まで、すべて自分の手でやってみたかったのです。だから事前に観光地周辺についてはよく調べました。

ちなみに、日本語の旅行会社（JTB、NaviTourなど）は学校からバスですぐの観光地（サーファーズパラダイス）にちゃんとあるので安心です。しかし、オーストラリアを知り尽くした現地の旅行会社（FlightCentre、StudentFlightなど）を利用する手もあります。私は冒険心から日本語ではなく現地の旅行会社を使いました。やりとりは全部英語で大変でしたが、電子辞書があれば身振りや気力でなんとかできました。往復の長距離バスと宿泊費で180豪ドルでした。

旅行の前日は楽しみよりも不安のほうが大きかった気がしますが、当日の朝は長距離バスにもスムーズに乗れて、片道4時間かけて、ゴールドコーストからサンシャインコーストへ移動しました。

道中、ゴールドコーストからバスで17時間かけてシドニーへ帰るといふ方も会いました。

サンシャインコーストの地区は、ゴールドコーストとはまた一味違った雰囲気のあるビーチです。この地区にはいくつかの大きな町がありますが、私が行ったのはサンシャインコースト北部のヌーサという町周辺。そこには有名な国立公園がありました。日本人観光客もほとんどいない、静かで落ち着ける場所です（サンシャインコーストにはほかにもとても有名な動物園などもあるのですが、1泊2日の観光では時間が足りませんでした。観光の時間はできるだ

け多めがいいとはこのときの教訓です）。

初めての場所に日本人一人、しかもバックツアーでもないから頼れる人ゼロ。それでも観光案内所の人は親切に観光スポットなどを教えてくれたり、周りの人も協力的でそこまで苦勞することはほとんどありませんでした。

唯一苦勞したのが予約したホテルを探すとき。住所は分かるのですが、地図もなく、近くにタクシーもなく、人通りの少ない見知らぬ日没前の町に呆然としてしまってかなり焦りました。ともかく目の前にあったお店に転がり込んで、「この住所の宿、知りませんか!？」と聞いたたら、その店員さんは住所をもとに宿に電話して聞いてくれました。ともあれ、なんとか予約した宿に辿り着くことができました。

ヨーロッパ的な趣きのある町歩きやフェリー観光もよかったのですが、一番は国立公園の散策でした。公園の海岸沿いの道がおすすめです。奥のほうの手付かずの海岸は、信じられないくらい素晴らしい景色でした。絶対に一見の価値があります。ただ転落には要注意。

一人旅をして、多くの人と出会い、そして別れました。「一期一会の出会い」という言葉をこれほど実感したことはありません。一人一人の出会いが、確実に私に何かをもたらしていると思いました。オーストラリアに行ったら、ぜひやってみてください。絶対に後悔はしないと思います。

（後藤 義哲）



ソウル産業大学

●韓国 ソウル産業大学参加者名簿（合計10名）

日程：2008年8月3日（日）～8月23日（土）3週間コース

	氏 名	学 部	学年
1	杉 山 真 央	応用生物科学部食品生命科学課程	4
2	太 田 沙 織	応用生物科学部食品生命科学課程	4
3	徳 田 隆 之	地域科学部地域科学科	4
4	山 田 優 子	地域科学部地域政策学科	3
5	川 上 香	地域科学部地域政策学科	3
6	岩 田 かなこ	地域科学部地域文化学科	3
7	渡 邊 晴 香	地域科学部地域文化学科	3
8	西 村 安香里	地域科学部地域文化学科	3
9	平 賀 絵 南	応用生物科学部食品生命科学課程	1
10	川 本 梨 絵	地域科学部	1



事前研修について

私たちは、サマースクールに参加する前、サークルの友達である留学生のパク・ジニさんとジン・ヘミさんに、週一回、二時間の授業をしてもらっていました。

主な内容は、韓国語の発音やハングルの書き取り、挨拶や簡単な会話などです。

少しでもわからないところがあれば、二人はすぐに優しく教えてくれて、大変心強かったです。それだけでなく、二人からは地下鉄の乗り方や、韓国の食べ物の種類、年上を敬うという文化についても教わりました。ジニさんとヘミさんは、大学で韓国語の授業を選択していなかった私にとって、とても頼れる存在でした。

（渡邊 晴香）

事前研修で韓国語を私たちに教えてくれたのは二人の韓国からの留学生でした。初歩の文字から始まり発音や会話まで、私たちが理解するまで丁寧に教えてくれました。また、授業以外に学校内で会った時、見知らぬ土地へ行くことが不安になっていた私にたくさん話し掛けてくれて、お喋りをし、韓国の楽しい場所などたくさんのお話を教えてくれました。ヘミさん、ジニさんのおかげで韓国語に全く触れたことのない人たちでも韓国語を学ぶことが楽しくなり、韓国に行きたいという思いが強くなったと思います。

（山田 優子）

授業について

STISS 2008 for Gifu

Month/ Day	T m s	1	2	3	4	Lunch	6	7	8
		09:00~ 09:50	10:00~ 10:50	11:00~ 11:50	12:00~ 12:50	13:00~ 13:50	14:00~ 14:50	15:00~ 15:50	16:00~ 16:50
Aug. 3	S	Move to dormitory							
Aug. 4	M	Orientation session	Campus Tour				Inner City Tour (Chonggyechon Stream, Insadong)		
Aug. 5	T	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Modern Pop Music I)		Self Study
Aug. 6	W	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Cooking Korean Food)		Self Study
Aug. 7	T	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Korean Movie I)		Self Study
Aug. 8	F	Cultural Experience and Making Ceramics (Field Trip)							
Aug. 11	M	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Taekwondo)		Self Study
Aug. 12	T	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Traditional Music)		Self Study
Aug. 13	W	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Cooking Korean Food)		Self Study
Aug. 14	T	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Korean Movie II)		Self Study
Aug. 15	F	National Holiday (Free)							
Aug. 18	M	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Modern Pop Music II)		Self Study
Aug. 19	T	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Four Ceremonial Occasions)		Self Study
Aug. 20	W	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Traditional Costume)		Self Study
Aug. 21	T	Korean Class					Understanding of Korean Culture (Korean Movie III)		Self Study
Aug. 22	F	Tour (Seoul, DMZ)							Farewell dinner
Aug. 23	S	Return home							

■午前

サマースクールでの韓国語の授業は、毎日午前九時から午後一時まででした。

授業は、韓国語と英語で行われます。内容は、こちらも韓国語の発音やハングルの読み書きからはじまり、テキストやプリントを使って文法も学習しました。



キム先生は、私たちが覚えやすいように、歌をつくってくださり、ゲームをしながらフレーズを覚えられるようにもしてくださったので、授業は毎日とても面白かったです。私は、知っている単語が増えたり、韓国語の会話で理解できる部分が少しでもあったりするととても嬉しくなり、もっと知りたい！もっと覚えたい！という気持ちが生まれました。こうして、韓国語を学ぶ面白さを知ることができたのだと思います。それと同時に、自分が韓国語をどんどん好きになっているということにも気づきました。

最後の授業で、キム先生は、「あなたたちからたくさんパワーをもらいましたよ。」と言ってくださ



いました。私の方こそ、先生からたくさんのをいただきました。それは知識だけでなく、思い出や、新しく生まれた気持ちです。サマースクールは終わったけれど、これからも韓国語の勉強を続けたいという気持ちが固まりました。

（渡邊 晴香）

■午後

午後の授業は韓国文化についての授業であった。授業は、現代の音楽・伝統的な音楽・クッキング・映画・スポーツ・冠婚葬祭について行われた。

・現代の音楽（2回）

先生の表現力がとても豊かで、授業を盛り上げて下さった。最初は子どもの歌を習った。「곰 세 마리（コム セ マリ）」という熊の家族の歌や「울쟁이의 개구리（オルセンイラ ケグリ）」というおたまじゃくしからかえるへと成長する様子を歌った歌を振りつきで歌った。歌い、踊りながら、言葉を体で覚えていくことは面白かった。また、K-Popも教わった。「마리아（マリア）」は日本のマン



ガが原作で、韓国で映画化された映画の主題歌であり、とてもパワフルな曲であった。「까만 안경 (カマン アンギョン)」はせつない恋の歌であった。その他の歌のプロモーションビデオも見たが、韓国のPVは物語仕立てにしてあり、本当のドラマのようであった。

・伝統的な音楽（1回）

「아리랑 (アリラン)」という韓国で伝統的な歌を習った。この歌がアレンジされたものはいくつかある。今回は、原曲とアレンジされた1曲を歌った。また、伝統的な楽器にも触れることができ、実際に歌と太鼓を合わせて演奏を行った。太鼓には2種類の革がはってあり、片面は牛革でもう一方は犬の皮が使われており、異なった音を出すことができるそうだ。

・クッキング（2回）

キムチとビビンバを作った。キムチは白菜キムチを作った。しっかりと白菜にコチュなどを混ぜ合わせたものを擦り付けることがコツである。一般的な家庭では、親戚などで集まって、一度に大量に作り、キムチ専用の冷蔵庫に保管しておくそうだ。ビビンバは思った以上に簡単に作ることができた。チューターの手つきは手馴れており、家庭の味であることが感じられた。どちらの料理でもコチュを欠かすことはできず、韓国料理にとってコチュは重要な役割を果たしているといえる。



・映画（3回）

韓国の映画は起承転結がはっきりとしている。今回は2つの映画を見た。1つは「教会のお姉さん」である。この話にも最後にオチがある。チューターに教えてもらいながらセリフを練習した。もうひとつは、音楽の授業で歌った曲の映画「カンナさん、大成功です」を見た。どうしても見てみたくて、先生にお願いしたら、用意してくださった。英語字幕

で読み取れない部分があったが、習った言葉を聞き取ることができる等、自身の成長を少しだけ感じることもできた。



・スポーツ（1回）

韓国で生まれたスポーツである、テコンドーを行った。型や飛び蹴りを教わった。先生の見本は見事なもので、圧倒された。軍隊でもテコンドーを行うそうで、チューターの中にもうまい人がいた。また、護身術も教わった。最後には、全員が板をパンチで割ることができ、すがすがしい気分が終わることができた。

・冠婚葬祭（2回）

韓国の冠婚葬祭について、昔と今との変化を比べながら教えていただいた。やはり日本とは考え方や服装が異なっている。成人式も設けてあるが、参加する人は少ない。また、伝統的に着用されてきた韓服は、ゆったりとしたシルエットで、色合いも鮮やかである。韓服の最も古い形は高句麗（～668）の壁画に見ることができるそうで、歴史の深さを感じられる。

午後の授業では、チューターと一緒に授業を受け、私たちの手伝いをしてくれた。一緒に作業を行っ



いことを聞きあったり、韓国語の練習をしあったり、生活の中で韓国語を取り入れたり、そんな日々が今では懐かしいです。

3週間の思い出をキスクサ無しでは語ることが出

来ないほど、思い出が詰まった場所になりました。安全に、そして楽しく学べる恵まれた環境で生活することができ、とても良かったです。

(杉山 真央)

食事について

■寮内

寮の食堂は、朝は7:00~9:00、昼は12:30~13:30、夜は17:30~18:30の間、開いている。これは夏期休業期間の時間である。ただし、少し早めに行っても、準備ができていれば、食堂のアジュンマ（おばちゃん）たちは、快く迎えてくれる。

食事は、ビュッフェ形式で、自分が食べたいものを食べられる分だけとる。早速驚いたのが、朝からキムチとチゲが出たことだ。韓国では、キムチがなければ食事にならない、と言ってもいいほど、キムチは重要らしい。おかずは大体3~5種類程度で、これとは別に、キムチとスープはいつでも欠かさず出る。寮の食堂はペチュキムチ（白菜キムチ）だった。「キムチ=辛い」と思い込んでいたが、白キムチという、日本の白菜の漬物のようなものもあった。日本のより、少し酸っぱく感じた。スープは、テンジャンチゲや、わかめのスープなど様々だった。昼食には、オムライスやカツなど洋風の献立の時もあって、そういう時は、スープも洋風に、クリームシチューのようなものに切り替わった。また、朝食には必ず牛乳が出た。普通の牛乳から、チョコ、イチゴ、コーヒーの牛乳もあった。

献立は野菜が中心だった。ごま油や、唐辛子がふんだんに使われていて、かなり健康的だった。「さ



すが韓国!!」と思ったのは、どんな料理にもとりあえず唐辛子が入っていたことだ。食べる前におかずののったプレートを見ては、皆で「赤い。」といていた。

韓国に行く前は、食堂のご飯にはそれほど期待していなかったが、食べてみたら、本当においしくて驚いた。特に、私は好き嫌いが無いので、口にするとすべてがおいしくて大満足だった。そのうえ、韓国に行ったら食べたいと思っていた料理が、大体食堂で食べられたので嬉しかった。たとえば、ピビンパプ、チャプチュ、プルコギ、サムゲタンなど。本当にどれもおいしかった。アジュンマたちも本当にやさしくて、お母さんのように、みんなで慕っていた。

(川本 梨絵)

■外食

韓国料理と言われてまずイメージする食べ物がキムチ!!韓国では、お店で食事をするときには、ほとんどのお店でキムチを注文していなくてもキムチが出てきます。もちろん無料でおかわりできます。キムチの他にも様々なおかずが無料で出てきます。

例えば、私たちが新村（シンチョン）のお店で注文したピビン冷麺が写真1です。この写真の中にあるピビン麺以外のおかずはすべて、注文したときに



写真1：ビビン冷麺



ついてきたものです。

1つ注文すると、お腹がいっぱいになるくらいたくさんのおかずが食べられて、健康にもとてもよかったです。

個人的な意見ではありますが、韓国料理はとてもヘルシーで野菜をおいしく食べられ、毎日食べても飽きない料理で、日本食が全く恋しくありませんでした。

また、日本と韓国の食文化で少し違うところがあります。日本では出されたご飯は残さず食べるのが当たり前だけれど、韓国では残してもいいそうです。私は初め、日本人の感覚としてすべて食べない

と失礼だと思って、お腹がいっぱいになっても一生懸命食べていましたが、残しても失礼にならないことを知り、驚きました。でも、その事実を知ってもやはり、もったいないと感じてしまい、なかなか残すのがつらかったです。

写真2：キムパブ



もう一つ料理を紹介します。김밥（キムパブ）という韓国では有名な海苔巻きです（写真2）。この写真ではわかりにくいのですが、キムチとたくあんがついてきました。

（平賀 絵南）

観光について

■ 1 週目

韓国での生活が始まった8月3日。慣れない土地、母国語ではない言語の土地で、初めて会う人達との3週間という長い生活にみんな緊張していました。

しかし、みんな毎日笑顔がたえませんでした。それは、私達と3週間一緒に生活していただける韓国の仲間、チューター達のおかげであったと思います。チューターのみannaには本当に色々な場所に連れて行ってもらいました。休日の授業がない日でも私達の付き添いをしてくれて、行きたいところに連れて行ってくれました。

初めての韓国での観光地は、歴史深いと言われる仁寺洞。そこでは私達がチューターの人達とたくさん話することができるようにと、2人から5人の細かいグループに分けて行動できるようにしてください



ました。また、今の大統領が整備して綺麗になった川、チョンゲッチョンと呼ばれる場所にも行きました。買い物もして、綺麗な川の流を見ながらお喋りをしました。慣れない韓国語で話そうとする私達の言葉に、ちゃんと耳を傾けてくれて、どんなに下

手な言語でも皆しっかり話を聞いてくれました。韓国語が出てこない時は、英語や日本語も使ったりしました。一日中一緒にいたこの日があったから、韓国の人たちとの仲が縮まったのだと思います。たくさんコミュニケーションがとれました。

また、ある日は、明洞に連れて行ってもらいました。女の子たちにとってそこは素敵な場所でした。コスメショップがたくさんある場所だからです。2時間近くコスメショップを見て回り、たくさんの化粧品を買いました。明洞は女の子の街とも言えます。安いお手軽な値段の服もたくさん売っていました。韓国の女の子たちも明洞にはよく足を運ぶそうです。

そして、またある日は、ソウルツアーをしました。バスガイドさん付きで韓国の文化体験ができる場所へ行き、陶芸をしました。そこでは、実際に自分たちでろくろを回してお茶碗や花瓶など好きなものを作ることができます。韓国にも陶芸という伝統的な技術があることを知らなくて、驚きでした。みんな各々の願いを込めて自分だけの陶芸を作りました。しかし、23日の私たちが帰る日までに焼き上げようと頑張っておさったのですが、急ぎすぎたため、その作品が全て壊れてしまいました。とても残念なことでしたが、それもまた一つの思い出です。

陶芸体験をした後、ハングル文字を作った世大王



のお墓を見に行きました。この日はとても暑い日で、全員が疲れきっていました。韓国は日本と違って湿度が高くないため、ベタベタとした気持ち悪さはないのですが、カラっとした最高の暑さを感じます。

初めの週を思い出だけでも、行った場所が多く出てきて、全部書き切れないほど観光を楽しむことができました。この1週間は、韓国に来る前に感じていた不安や緊張などを吹き飛ばすぐらいの楽しさ



で過ごした1週間だったと思います。

(山田 優子)

■ 2週目

ソウルで有名な63タワーへ行きました。63階のビ



ルから夜景が見えるということですのでごく楽しみでした。エレベータでのほり、63階に着き、窓から外を見た瞬間、思わず息を呑むような驚くほどきれいな夜景が広がっていました。ソウル中を見渡すことができ、車の流れや街の灯りなどがとてもキレイでした。また川の向こう側とこちら側での地価の高さによって違う明るさなどについても知ることができ、勉強になりました。ハローキティのイベントもやっ

ていて、とても楽しむことができました。COEXというショッピングモールにも行きました。岐阜で言うモレラのようなショッピングモールです。驚いたのは服がとても安いということです。もちろん中にはブランド物の高いお店もありますが、ノーブランドの物は日本に比べるととても安かったです。Tシャツは500円～1000円が相場で、2000円の服が高く感じてしまうほどです。また大きな本屋もあり、そこには日本の本や漫画の韓国版が



多くあり、驚きました。CD ショップにも J-POP のコーナーがありました。韓国に来て K-POP の魅力に気づいたので CD ショップも楽しむことができました。

（西村 安香里）

■ 3 週目

三週間目は室蘭工業大学、金沢工業大学も合流しました。8月20日（水）は、チューターに勧められて西大門刑務所歴史館に行きました。西大門刑務所はかつて日本が韓国を占領していた頃、韓国の独立運動をする人を収容した刑務所です。牢獄、拷問室、ハンセン病舎、死刑場、死刑囚の遺体を外に運ぶ秘密の通路などが当時のまま残っています。拷問や、裁判の様子はマネキンや音声を使って再現されており、とても怖かったです。日本軍は当時、直視できないほどひどいことをやっていて、申し訳なくて悲しい気持ちになりました。今は多少の問題はあっても仲良くしていますが、もとは複雑な関係だったのだ、ということを改めて実感しました。

建大は若者の街と言われており、日本でいう原宿のようなかんじでした。近くに美術の学校があり、路上では自分で作ったものを売っている学生がたくさんいました。居酒屋やしゃれたカフェなども多かったです。

最後の field trip はまず DMZ へ行きました。DMZ とは、休戦中の北朝鮮と韓国の間にある非武装地帯のことをいいます。非武装地帯から数キロ手前で一般の人はこの地域に入れなくなります。観光客や中に入る人は、その村に入る前に身分証明書の確認を

されます。最初に非武装地帯と北朝鮮が眺められる展望台に行きました。雨が降っていたので遠くまで景色が眺められるというわけではありませんでしたが、遠くに韓国の旗と北朝鮮の旗を見ることができました。また、ノラサン駅という、韓国で北朝鮮に一番近い駅に行きました。

その後、北朝鮮から韓国に入るために掘られたトンネルへ行きました。これは第3トンネルと言われており、資料館と併設されてトンネルの中まで入って見学できます。トロツコのような乗り物で下まで移動しました。内部は天井が低く、大人の身長では腰をかかめなければならないほどでした。日本では徴兵がなく、軍人を間近に見ることはめったにないので、軍人が多く、ピリピリとした雰囲気 DMZ はとても緊張しました。

最後は景福宮へ行きました。韓国の大統領官邸のとなりに位置する景福宮は、李氏朝鮮時代の王宮で、ソウル市内にある王宮のなかで最も規模が大きく、美しい建物が多くあります。正面から王宮を見ると背後には白岳山がそびえ、その山の岩が龍に目に見えることから、縁起が良いと、この地に建てられることになったそうです。建物は韓国らしい派手な色合いなのに落ち着いた雰囲気です、ひとつひとつの建物がとても重厚に感じられました。景福宮に向って奥を見ると山があり、静かなところに見えますが、振り返ると高層ビルがそびえたっていました。ソウルはいたるところで都会の真ん中に古い文化財がありました。

（岩田 かなこ）



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ チューターについて ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

サマースクールの一番の特徴はチューターだと思います。留学経験のない私達が、安心して毎日楽しく生活できたのも、いつもチューターが側にいてサポートしてくれたからだと思っています。ソウル産業大学のチューターは男性が10人、女性が5人でした。過去に岐阜大学に1年間留学していた留学生4人がチューターをしてくれたことや、日本語を勉強しているチューターが多かったことで、コミュニケーションにはあまり困りませんでした。

チューターとは、午後の文化の授業やフィールド



トリップと一緒に参加しました。また、授業後に勉強を教えてくれたり、時間があれば近くに食事に行ったり、ソウル中心部の案内もしてくれました。

私が一人にしている時に、「一緒に話そうよ」とカフェに誘ってくれ、家族や将来の夢、音楽、その他いろいろな話をたくさんしました。日本でも韓国でも、同じ世代では話題が共通でとても楽しかったし、何よりチューターの優しい気遣いに感動しました。

チューターとの会話を続けていくうちに、初めはほとんど分からなかった韓国語も次第に話せるようになってきました。3週間という時間はとても短く、やっと韓国語で交流ができ、韓国の料理にも慣れた頃に日本に帰らなくてはいけないことがすごく残念でした。そんな時もチューターは、「私は日本語の勉強を頑張って日本に行くから、日本での生活が落ち着いたら韓国にいつでも来て！」と言い、励ましてくれました。私達のことを妹のように可愛がり、いつも心配してくれたチューターに心から感謝しています。今回のサマースクールで芽生えた友情を大切にして、これからも交流を続けていきたいと思っています。

(太田 沙織)

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 総括 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

～ソウル産業大学サマースクールを終えて～
三週間のソウル産業大学サマースクール（以下、サマスク）のプログラムは大変充実していて、全員が満足できるものとなり、多くのことを学ぶことができました。そのように感じることは、現地のチューター、寄宿舍でお世話になった方々、授業を受け持って頂いた先生方、そして今回のプログラムを支えて頂いた先生の存在があったからです。

また、僕たち10人の、「サマスクを成功させて次に繋げよう」という強い思いが大きかったこともまた、成功に導いた要因だと感じました。

サマスクを終えて、10人にはそれぞれ大きな変化がありました。その一つは「言葉」です。

はじめは、簡単な挨拶が分かる程度だったのが、短い文を喋ることができるようなにもなったりしました。また、はじめは、韓国の学生の韓国語が、何を言っているのか聞き取ることができず、英語と日本語の会話を中心でした。しかし、徐々に簡単な韓国語は聞き取ることができるようになり、簡単な韓国語で会話をすることができるようになりました。

「言葉」を学び、それを実践的に使うことができるのは、とても大きな喜びです。また自分が発した韓国語が通じたときにも大きな喜びを感じることができます。その喜びを感じ取ることができた僕たちは、とても貴重な経験をすることができました。

もう一つの大きな変化は、韓国に対する「意識」の変化です。サマスクに参加する前でも、韓国に対

してそれぞれが意識を持っていましたが、帰国してからも韓国へまた行きたいという思いが強くなり、全員の韓国に対する意識がさらに大きくなったと思います。

サマスキのプログラムが終わっても、みなそれぞれ、韓国でできた友達とE-mail交換をしたり、手紙のやり取りをしたりして、韓国という存在がすぐ

そこにある生活を過ごしています。

サマスキは終わっても、僕たちの韓国との交流はまだ始まったばかりです。これからも多くの韓国の方と関わり合いながら、言語や文化など、たくさんのことをさらに学んでいきたいです。

（徳田隆之）

◆◆◆◆◆ 全員の感想 ◆◆◆◆◆

●韓国に行く前、私は、韓国や韓国の人が自分にとってこんなに大きな存在になるとは思っていませんでした。韓国の町並みや韓国の人たちと直に触れるにつれて、韓国が大好きになりました。数日滞在するのではなく、何日間も韓国にいられたことも大きいと思います。

チューターとは授業や放課後、休日も同じ時間を過ごしました。チューターは私の中でとても大きな存在になりました。別れる時は、とても辛かったですが、彼らと出会えて本当に良かったと思います。

今まで全く興味がなかった韓国語も、今はとても勉強したいです。韓国で勉強した続きをこれから日本でやるつもりです。この3週間は私にとって一生のたからものになりました。

（岩田 かな子）



●ソウル産業大学へのサマスキがあるとき、私は迷わず参加しようと思いました。それは、過去3年間に岐阜大学の受け入れチューターをしていて、ソウル産業大学に行ってみたかったため、今までに出会った韓国人の友達に再会したい強い思いがあったからです。留学に行き、岐阜大学に留学していた友達が、「今度は私がチューターをや

るから！」と、歓迎してくれたことが嬉しかったです。また、今回の留学プログラムでは、ホームステイがなかったため、岐阜大学のサマスキで出会った友達が、家に招待してくれ、皆で集まったのもすごくいい経験になりました。今回留学して初めて出会ったチューターにも、親友と呼べるくらいお互いを理解しあえる友情ができました。

今回の留学では毎日が充実し、韓国語も学べ、友情も深まり、出発前に想像していたよりずっと素敵なものとなりました。本当に参加できたことが幸せです。韓国人の皆さんが優しくしてくれたことを忘れず、社会人になっても韓国語の勉強を続け、また韓国の仲間と会いに行きたいと思っています。一緒に韓国へ留学した仲間、韓国のチューター、岐大サマスキのメンバー、留学生センターの方々、韓国の先生方、このサマスキに関わった全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

（太田 沙織）



●この3週間は、本当に私の今までの人生の中で1番の宝物になった。初めての海外での生活や文化の面での新たな発見がたくさんあり、毎日が新鮮で充実していた。そして、寮での共同生活の中では仲間

の大切さも感じた。チューターには勉強面や生活面でもよくしてもらい、仲良くなれたことが本当にうれしい。もっとチューターと韓国語で話せるようになりたいと強く感じ、今後も韓国語の勉強を続けていきたいと思う。次に韓国へ行くときにはチューターを驚かせるほどに上達したい。

（川上 香）



●初めは、私たちの韓国語の力はほとんど無に等しい状態であった。しかし、サマースクールも終わりに近づくころには、チューターや食堂のアジュンマたちの言っていることが、少し聞き取れたり、会話することができるようになったりした。これは、何よりも、私たちの「コミュニケーションをとりたい!!」という、強い思いが導いた結果だと思う。そして、私たちの気持ちに応えてくれた、韓国の人々のおかげである。この3週間を通して、言語を学ぶためには、実際に使うということがいかに大切かを実感することができた。また、人とのコミュニケーションの面白さも、改めて感じることができた。このような貴重な体験ができた私は、とても幸せだと思



う。これからの学習面や生活面に、生かしていきたい。

（川本 梨絵）

●正直なところ、3週間でここまでの思い出ができるとは思っていませんでした。プログラム自体、予定が詰まっている上、授業後はチューター達が色々な所へ誘い出してくれたので、朝から晩まで充実した日々でした。岐阜に留学していた旧友が歓迎してくれ、お世話をしてくれたのも感激だったし、また、私たちとの交流を通じて岐阜に来たいと言っている人がいたのも嬉しかったです。

今後もこのプログラムが更に良いものになって続いていくことを願います。

最後に、サマースクールを通じてお世話になった方々に感謝します。カムサハムニダ！

（杉山 真央）



●今回、このサマスクに参加して本当に良かったと思っています。僕は大学で二年半韓国語を勉強していましたが、実際に韓国人と会話することはありませんでした。だから今回のサマスクを通して多くの



韓国の友達と韓国語でコミュニケーションを図ることができたことは、本当にうれしかったです。これからも、韓国の友達との交流を続けていきたいです。

（徳田 隆之）

●このサマースクールは私にとって生涯忘れられないものとなりました。韓国での生活は毎日がとても充実していて、一分一秒がとても大切なものだと感じました。韓国では語学や文化を学びましたが、それ以外にも多くのことを学ぶことが出来ました。たくさんの友達ができ、一緒に行った仲間も私にとってかけがえのない人となりました。新たな目標もでき、自分自身がとても成長したと感ずることのできたサマースクールでした。

（西村 安香里）



●このサマースクールに参加する前にも韓国へは二回行ったことがあり、どのような場所であるかは知っていました。その二回の旅行で韓国の料理、風景、人柄に興味を持ち、言語についても勉強したい、いろんな人と話してみたいという気持ちが強くな



り、このプログラムに参加しました。このサマースクールでは、私が想像していた以上にたくさんものが得られました。その中でも一番大事なものが友達です。韓国で出会ったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。三週間では短くくらい充実した日々でした。

（平賀 絵南）

●行く前の私の心は“期待”より、“不安”な気持ちの方でいっぱいでした。違う国で3週間もの長い間を過ごすことは初めての経験であったからです。しかしそんな不安は行った初日から吹き飛びました。一緒に行った優しい仲間たち、向こうの大学でのたくさんの友達たちのおかげで、本当に素敵な3週間を過ごすことができました。

私は、日本で約1年半韓国語を学んできました。今回このサマースクールに参加した理由は、今まで自分が学んできた言語の力を現地で学んでもっと勉強したかったからです。この3週間、韓国語という言語を学び知識を蓄えることができたことももちろんですが、私はこの3週間で学んだことが他にもありました。それは、違う国、違う言語の人達でもこんなに仲良くなれるということです。うまく喋れなくても、伝えようとする気持ちで、伝わる、ということです。最高の仲間ができました。そんな仲間に出会えたこと、出会うきっかけとなったこのサマースクールという場に感謝の気持ちでいっぱいです。このプログラムに協力して下さった全ての方に感謝したいです。

（山田 優子）



●「韓国と日本は近いよね？ソウルから名古屋まで一時間半で行けるから、またすぐ会えるよ。寂しく

ないよ。大丈夫だよ。』

チューターの子と一緒に泣きながらこんなことを言い合ってお別れしたことは、忘れません。

韓国と日本は全然違う、と言う人もいるけれど、一緒に笑い、泣き、感動できたのは、日本と韓国に同じところや似ているところがたくさんあるからだと気付きました。

サマースクールで出会った友達との関係は、これからもずっと読きたいものです。

その気持ちを大切に、これからも韓国語の勉強を読きたいと思いました。

（渡邊 晴香）



短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

[アンケート回収率] 回答者10人／参加者11人中

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～4点で書いてください。

例：Writing（レポート、手紙の書き方）4点
Writing（新聞記事の要約、日記、作文、手紙の書き方、自己紹介、ジャーナル、読書記録、物語、e-mail等）

3.6点（回答9人）

Reading（読書、テキスト、長文読解、reading records）

3.3点（回答8人）

Speaking（環境問題等に対する議論、班ごとにディスカッション、ロールプレイング（買い物時のクレーム）、ペア・グループで会話、ディベート、ゲーム、自分の意見を語る等）

3.4点（回答10人）

Listening（CD、DVD等の鑑賞及び内容理解、コンピュータ上でのクイズ形式、テープの聞き取り、授業そのもの、PCを使って）

3.7点（回答8人）

Grammar（単純過去、付加疑問、現在完了、仮定法、時制、比較、中学校や高校ですでに習ったもの）

2.8点（回答6人）

SAC（自学自習の時間）

4.0点（回答1人）

Pronunciation

2.0点（回答1人）

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～4点で書いてください。

モートン島

4.0点（回答1人）

ケアンズ・グレートバリアリーフ

4.0点（回答1人）

キュランダ観光

3.0点（回答1人）

射撃

4.0点（回答1人）

散歩&サイクリング

4.0点（回答1人）

c. 先方の受け入れ体制について

- 1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？
何か問題がありましたか？）

①ホストファミリー

- ・洗濯をしてくれた。昼食と夕食を作ってくれた。バス停の場所を教えてくれた。
- ・向こうの都合で夕食の時間一緒に食べられなかった。2世帯住宅になっていて会えない日が多かった。
- ・料理、洗濯、掃除…問題なし。強いて挙げるならば、洗濯が週1回だったこと。
- ・食事の用意、洗濯、バスの乗り方を教えてくれた、病気の看病をしてくれた、観光地を紹介・ときに案内してくれた、などなど。受け入れ態勢に全く問題はありませんでした。
- ・食事やバス停への送り迎え、洗濯や掃除
- ・食事の用意、洗濯

②担任の先生、受付の人、友達

- ・わからないことを丁寧に教えてくれた。

- 2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？
何か問題がありましたか？）

①担任の先生、クラスメイト

- ・質問すればいつでもだれでも答えてくれた。問題なし。
- ・授業をしてくださったのは勿論、個人のスキルを把握して、適宜アドバイスもいただきました。
- ・わからないことを丁寧に教えてくれた。
- ・授業

②ホストファミリー

- ・ホストマザーやファーザーが宿題を手伝ってくれることがあった

3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？
何か問題はありましたか？）

①レセプション（受付）の方

- ・分からないことは大抵のことは教えてくださいました。

②ハウスメイト、同じくホームステイしている子

- ・バスの乗り方や会話の手助け
- ・家の勝手や学校の仕組みなど教えてくれたし、いろいろ話せたから頼りになった。問題なし。

③担当教師

- ・とても親しみやすく、話しやすかった。

d. 留学期間について

適当 長い 短い （長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください） ____ 週間

適当 5人

長い 0人

短い 5人

（5週間：1人，8週間：1人，半年：1人）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・オプションクラスで段取りが悪いというか、つまらない授業をする先生がいた。
- ・テストでカンニングをしている生徒がいたのが嫌だった。
- ・クラス分けテストの日時が事前に（日本で）知らされていた日と違っていた。なぜ情報が間違っていたのでしょうか。
- ・日本の英語教育を受けた人にとっては、Grammarは簡単すぎ、Speakingは難しかった印象がある。
- ・Speakingの授業は中学校の会話の授業のようで、簡単すぎると思いました。

2. ホームステイについて

1部屋 6畳：5人，8畳：1人，12畳：1人，
15畳：1人

- ・わからないけど、とりあえず広かったです。

ベッドが4人分ありました。

a. 部屋にあった設備を記入してください。

例：テレビ，電話，バスルーム

ベッド，クローゼット，机，イス，勉強机，タンス，鏡，大型の鏡，テレビ，DVD，冷蔵庫（家族が使用する），化粧机，ソファー，テーブル，ごみ箱，ライト，ランプ，ヒーター（使いませんでした），おもちゃ

- ・他に，バスタオルと旅行用かばん，サンドタオル，虫よけスプレー，マフラー，懐中電灯などを貸してもらった。

b. 食事はどうしていましたか？

- ・朝：シリアル，昼：ホームステイ先のマザーが作ってくれたサンドウィッチ，夜：普段は家で食事。週に2回は外食。

- ・ホストファミリーが朝，昼，晩と作ってくれていた。

- ・たいていは家で食べました。あらかじめ作ってある料理を電子レンジで温めてから食べました。

- ・朝食にトースト2枚かコーンフレークを一人で食べました。

- ・朝は自分でシリアルを食べるようにと言われていた。食後お皿を洗うのが面倒だったし起きるのが遅くて時間がなかったから，たいていオーストラリアフェア内のパン屋で買って食べてました。昼はママが作ってくれたお弁当もしくはママが持たせてくれたヌードル（たいてい韓国のもの）とフルーツとお菓子。夜はママかジェシカの手料理を皆で食べてました。帰宅が遅くなるが多かったから一人で食べたこともしばしば。夕食の時間はだいたい17時…早いと16時半頃，遅くても18時でした。ヌードルがある時は箸も使い，ない時はフォークとスプーンで食べました。←肉が出た時は厄介…

- ・朝昼夜ともホストの方が作ってくださいました。基本的に朝はシリアルやトースト，サンドイッチ。昼はサンドイッチか昨日の晩御飯の残り。夜はいろいろな料理を作ってくださいました。

- ・ホストファミリーが作る，もしくは自分が作る。

- ・ちゃんと手作りで美味しかったし、野菜も毎回あって良かった。
- ・朝は自分で用意し、昼と夜はマザーが作ってくれました。
- ・基本的にはマザーに作ってもらい、休日に旅行や遊びに行った時などはあらかじめ伝え、外食した。
- ・朝：自分で作る。昼：サンドイッチを作ってもらった。夜：家で食べたり外食したり。

c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・ドライヤーがなかった。
- ・洗濯に出した服がなかなか返ってこないときがあった。
- ・英会話の練習があまりできませんでした。
- ・洗濯が週1回はキツイ。ハンカチなどの手洗いもダメだったのでティッシュが大活躍。でも水不足だから仕方ない。シャワーが4分だったこと。これも仕方ない。
- ・クイーンズランド州は水不足なのでシャワーが4分に制限されていたこと。小さな困ったことは多少ありましたが、慣れれば全く大丈夫でした。
- ・洗濯の回数が少ないこと。シャワーの時間が4分なこと。
- ・洗濯が1週間に1回だったので困った。子供が元気すぎてマザーがよく怒っていた。

d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

- ・シャワーが割と自由に使えたこと。パソコンを借りられたこと。料理がおいしかったこと。
- ・門限などがなく、割と自由に活動できた。ちょっと学校から遠い（バスで朝は40分くらい。普段は20分くらい）。
- ・良かったことは、本当に身の回りのことを何でもしてくれたこと。不便に思ったことはひとつもなかったと思う。日本食が恋しくなってきたくらい。ただ、当たり前だけど、やっぱり自分が思っていることを相手に伝えるのはなかなか難しかった。
- ・たくさん日常会話ができたのがよかった。さらに日本のことも紹介できたし、話しながら

オーストラリアとの違いを発見したり、お互いが異国・異文化のことを学んでいたのでも意義だったと思う。

- ・バスの乗り方や大学への具体的な行き方などを教えてくれたのは勿論、いろいろな観光地に連れて行ってくれたり、教えてくれました。ほとんどの問題は相談して解決できたとし、いろいろ気遣ってくださいました。
- ・快適だった。いろいろ良くしてくれた。
- ・良かったのはみんな優しく丁寧で色々と教えてくれたこと。悪かったことは特になし。
- ・家でも会話の練習ができる。本当の家族のように接してもらえる。おいしいご飯が待っている。バスの本数が少なく、門限があったので、早く家に帰らなければならなかった。マザーがヘビースモーカーで、煙草嫌いの私にはきつかったこと。
- ・子供がたくさんいたので楽しかった。
- ・ホームパーティーでは親戚同士が仲良く自分とあまり相手にしてもらえなかった。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

- ・トラブル：風邪を一ヶ月間ひいていた
相談相手：ホームステイ先の家族
対応：病院へいく
- ・トラブル：初めのころの真っ暗な夜、自宅の最寄のバス停の位置とそのバス停の名前が食い違っていたばかりに、帰りのバスが自分の思っていたバス停を素通りしてしまった。
相談相手：運転手さん、たまたま乗っていたフランス人の乗客
対応：運転手さんに（フランス人のお客さんに助けられつつ）事情を説明したら、幸いそのバスは巡回だったため、来た道に戻って目的のバス停へこられた。そこから家までの道を「もう暗いから危ない」とフランス人の方が一緒に歩いてくれた。
- ・トラブル：バスの運行
相談相手：マザー
対応：バスが来ない時にはマザーが送り迎えしてくれた。

4. 所要経費について（平均）

支出総額 634,200円

内 訳

参加費 439,677円（航空費・宿舎費含む）

食費 26,500円

保険料 14,333円

その他 154,000円

参加費について

高い 3人 適当 6人 安い 1人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・生協の伊藤さん、いろいろとありがとうございました。とてもわかりやすかったです。お疲れ様でした！！
- ・学内でほとんどすべての手続きが済ませられるのは非常に便利で助かりました。
- ・生協さんにはとてもお世話になりました。
- ・毎回丁寧にメールをくれたし、ほとんどの手続きは学校側でやってくれたので大変楽でした。
- ・スムーズにできた。

（出発前の事前研修について）

- ・事前研修があつて助かった。
- ・実践で使えるように思えなかった。英会話中心に組み立てられていると、凄くよかった。
- ・参加者が少なかった…。このサマスケメンバー以外の人も一緒に受けていて、最初は誰がサマスケメンバーかわからなかった。授業はよかったと思う。
- ・今年の事前研修は水曜日と木曜日の4時から6時でしたが、時間が合わなくてほとんど参加できませんでした。
- ・あまり行けなかったけど楽しかった。
- ・自分はバイトや部活の時間とかぶってしまってほとんど参加ができずに残念でした。ただ参加しなかったから現地で困ったということはない印象。
- ・忙しかったり、時間が合わなかったりして、あまり参加することができませんでした。せっかく開いてくださったのにごめんなき

い。

- ・習ったことが実際出てきた。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・日本では体験できない多くのことをオーストラリアで体験できました。自分の考え方が大きく変わった部分や、今までどおりでいいやと思えた部分もあり、言葉では説明できないような変化が自分の中で生まれたような気がします。
- ・多分ほかの人も言っているだろうけど、このサマスクールに参加して本当に良かったと思っている。オーストラリアという英語圏の国に行って、とても勉強になったし、何より楽しかった。来年もまたこのサマスクールが開催してほしいし、また、より多くの人が、この機会に海外で生活するということを体験してほしいと心から願っている。
- ・自分に何が必要で、これからどういう勉強をしていけばよいかなどが、より明確になったのがよかった。旅の楽しさを知った。財力と時間と心の余裕があれば、来年の夏休みか今度の冬休みか春休みにまたいきたい。
- ・この短期留学に参加して、本当にたくさんものを得られました。英語力はもちろん、自分の価値観や世界が広がりました。参加費は決して安くはないですが、参加費以上のものを手に入れられると思います。
- ・英語という共通言語を使うことでいろいろな国の人と **Communication** ができるのは素晴らしいと思った。
- ・とても良かったです。自分はもともと外国の文化に興味があったのですが、やはり色々情報で聞くのと実際に行ってみるとは違います。日本にはできない体験も多かったですし、行って良かったと本当に思います。
- ・参加して本当によかったと思います。自分のつたない英語でも通じたので自信が持てたし、もっといろんな表現を使って話したいと思いました。なので日本に帰ってからも英語の勉強は続けていこうと思っています。
また学校では世界各国の友達ができました。その子たちとは英語で会話するので英語

の勉強にもなりました。

- ・一人旅はしませんでした。みんなとモートン島やシドニーに行って美しい海や景色を見て感動し、おいしいものを食べてたくさんの思い出を作ることができました。一生の思い出です！！
- ・自分の中では様々な感動や出会い、別れがあり、とてもいい経験になりました。英語を学ぶにもとてもいい場所でした。あつという間の1ヶ月でしたがとても楽しかったです。本当に行ってよかったと思いました。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・私は一ヶ月間風邪（特に咳）をひき続けていて、2度現地の病院へ行きました。その際、保険で支払いをしたので金銭的には問題はないのですが、体力的にきついきもありません。向こうは思っている以上に夜は寒いです。気をつけて。
- ・デジカメがいる！使い捨てカメラじゃ枚数がぜんぜん足りない。
- ・休日にシドニー等に旅行に行きたい場合、航空機や宿の手配は早めに。予約でいっぱいになっちゃうから。
- ・現金は現地で変えた方が得です。積極的に話しかけてください。きっと通じます。文法を無視してください。ここでしかできないことをたくさんしてください。
- ・服、特に下着は多めに持って行った方がいいでしょう。

お金はオーストラリアドルを日本で両替して用意するなら10ドル札など、なるべく細かいものを用意するとよい。クレジットカードがあると便利。

学校に通うので筆記用具は持参した方が低コストだと思われる。日本から持って行けば荷物の重さも把握できるし…。

通う大学(グリフィス大学)のことや、オーストラリアに関する知識をある程度持って留学するのが好ましいかも。

スーツケースは32kgまでは預かってくれますよ、確か。なのでそんなに心配しなくても大丈夫。上記の戯言はあくまで参考程度に。せっかく行くなら守りに入らず、自分の

思うままにやればいいと思います、それで失敗したとしても別にいいじゃないですか。

- ・4週間はあつという間です。とにかく思い立ったら行動あるのみです。留学中に旅行へ行くなら、渡豪する前に情報収集しておくことをお勧めします。
- ・積極的に何にでも挑戦してください。
- ・もし迷っているなら参加すべきだと思います。色々不安に思う面があるかもしれませんが、行ってみれば結構どうにかなるものです。1か月は長いようで短いので思いっきり自分のしたいことをしてきて下さい。
- ・迷っているなら絶対行くべきです。1か月はあつという間なので1日1日を有意義に生活してほしいです。そしておしゃれなカフェがいっぱいあるので、ぜひ行ってみてください。ICED COFFEEとICED CHOCOLATEはお勧めです！！マフィンやケーキも大きくておいしかったです！！
- ・バスは基本的に遅れてくるし、たまに来ないし、休日は絶対来ないし、バス停に名前なし、もちろん車内アナウンスもないのでバスの利用が困難でした。変圧器は持って行った方がいいです。

中国語が話せるとコミュニケーションをとるのに使えて楽しいと思います。週末に小旅行へ行くならモートン島がオススメです。星がすごくきれいですよ。バスに乗る前は\$2~3の小銭をあらかじめ用意しておくべきです。デジカメは必需品でした。あったかい服は持って行った方がいいです。

携帯は現地で借りるとお得です。

- ・不安がいっぱいかもしれないけど、行ってみればとても楽しいのでぜひ参加してみてください。

8. お礼の手紙について

- 出した（誰に？）
- 出していない（是非出して下さい）
- | | |
|--------|----|
| 出した | 8人 |
| 出していない | 2人 |

備考

- ・誰に？（おばあちゃん、ホストマザー、同居

していた留学生，ホストファミリー・「お礼」ではないかもしれませんが，一緒に暮らしたホームステイの生徒2人）

- ・手紙はまだ出してないですが，帰国した日に電話して，後日メールは送りました。オーストラリアを発つ日の朝，ハウスメイトも含めホストファミリー全員（10人）に手紙を書いてアーノルドに皆に渡してくれるよう頼みました。クリスマス前にカードを送ろうかと考えていたり…。

ソウル産業大学

[アンケート回収率] 回答者10人／参加者10人中

1. 先方の大学での研修について

- a. 履修した授業の内容（科目，授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～4点で書いてください。

韓国語（文法・会話等）

3.6点（回答8人）

韓国文化の授業（全体）

3.7点（回答5人）

ポップミュージック

3.9点（回答5人）

料理

3.9点（回答5人）

映画

3.3点（回答5人）

テコンドー

3.9点（回答6人）

伝統音楽

3.0点（回答4人）

その他伝統文化（伝統衣装等）

1.3点（回答4人）

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～4点で書いてください。

フィールドトリップ

3.5点（回答2人）

チョンゲチョン（清溪川）

4.0点（回答1人）

DMZ・景福宮（キョンボックン）

3.4点（回答5人）

陶芸体験

3.3点（回答3人）

Inner City Tour

3.0点（回答1人）

Seoul Tour

3.0点（回答1人）

c. 先方の受け入れ体制について

- 1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？
何か問題はありましたか？）

①ソウル産業大学コーディネーター

- ・旅行や授業，プリントの手配をしてくれた。
- ・寮での生活に困ったことはないか，と声かけをしてくれた。
- ・授業でのお菓子の準備など。
- ・韓国でのプログラムが円滑に進められるよう，常に気に掛けていてくれました。
- ・差し入れや食事をはじめ，すごくよくしてくれた。雨の時，傘まで貸してくれた。

②寮長，寮の管理人，寮の栄養士，食堂関係者

- ・寮での食事や，トイレトペーパーが無くなったときなど，とても頼りになった。
- ・毎日私たちのためにおいしいごはんをつくってくれた。
- ・寮の管理人のおじさんはまるでお父さんのように毎日ニコニコはなしかけてくれ，困ったことがあったら助けてくれるようだった。が，実際言葉が通じず，言いたいことを伝えるのに苦労した。
- ・寮の食堂のおばちゃん達は，毎日3食おいしい食事を作ってくれた。どうやら私たちが居たときは普段よりも韓国料理を意識したメニューになっていたらしく，さまざまな韓国料理を食べることができた。
- ・毎日食事を作ってくれたり，困った時には助けてくれた。
- ・毎日必ず会うと挨拶してくださいました。問題は特にありません。
- ・毎日食事を作ってくれたり，困った時には助けてくれた。
- ・毎日必ず会うと挨拶してくださいました。問題は特にありません。

③チューター

- ・バスや地下鉄の利用の仕方を教えてくれたり，ミョンドンを案内してくれたりした。

- ・友達としていろいろな話もでき、仲良くなれてよかった。
- ・休みの日や放課後に私たちが行きたい所やお勧めの場所に連れて行ってくれた。
- ・チューターの学生たちは何事にも協力し、手伝ってくれた。休みの日などは大抵誰かが外に連れ出してきていたの、寮で暇な日を過ごすことはなかった。
- ・平日は宿題や韓国語の勉強を教えて下さり、休日は観光案内に必ずついてきて下さった。してもらいすぎな程最初から最後まで面倒をみて下さり、問題点はありません。
- ・生活全般に関して困ったことや相談事、買い物。
- ・手紙の書き方を教えてくれたり、テスト勉強を手伝ってくれた。
- ・平日は宿題や韓国語の勉強を教えて下さり、休日は観光案内に必ずついてきて下さった。してもらいすぎな程最初から最後まで面倒をみて下さり、問題点はありません。
- ・寄宿舎での過ごし方や韓国での生活スタイル。
- ・放課後いろんなところへ連れて行ってくれました。本当に感謝しています。

そして寮にすんでいるチューターの人には、宿題や勉強を教えてもらったり一緒にスーパーにいったりたくさん交流しました。

- ・授業以外でも、私たちが休日にもかかわらず、出かける場所にはいつもついてきてくれて、外国での行動も彼女のおかげでとても安心だった。

2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？

(名前、分かれば役職も教えてください)

(その人はどんなことをしてくれましたか？)

何か問題はありましたか？)

①先生

- ・韓国語の授業をしてくれた。歌などを交えて英語と韓国語しか使用していないのに、とてもわかりやすかった。
- ・授業
- ・金先生の授業は本当に楽しかった。とてもやさしく、笑顔が素敵な先生で、先生のためがんばろうとも思えた。
- ・韓国語の文法や会話を教えてくださいました。

- ・分からないところを教えてくださいました。

②チューター

- ・寄宿舎に住んでいたの、夜遅くまで宿題や予習・復習をする際にはよく手伝ってくれた。文法や単語をおしえてくれた。
- ・寮の食堂で遅くまで韓国語を教えてくださいました。私が韓国語ができなくて落ち込んでいるときに励ましてくれた。ほかのチューターとも普段の会話の中で、たくさんの韓国語を教えてくださいました。
- ・チューターは毎晩宿題を手伝ってくれたり、勉強のお手伝いをしてくれた。
- ・授業後の復習に、一緒について教えてくださいました。
- ・勉強をおしえてくれたり、韓国を案内してくれたり、様々な面でサポートしてくださいました。
- ・語学のサポートをして下さった。
- ・分からないところを教えてくださいました。

3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？

(その人はどんなことをしてくれましたか？)

何か問題はありましたか？)

- ・岐阜大学交換留学生及び元交換留学生
- ・岐阜大学で留学していたパク・ヨンソクさんとキム・ジソンさん、キム・ビョンギさんも本当に親切にしてくれた。また、一時帰国中だったジン・ヘミさんは行く前からお世話になった。日本語がぺらぺらな彼らは、授業で通訳をしたり、さまざまな場面で大活躍してくれた。彼らがいたから、このプログラムは無事成り立ったようなものだと思う。
- ・休日にソウルの案内をしてくれた。ホームステイをさせてくれた。

d. 留学期間について

適当 長い 短い (長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください) ____ 週間

適当 (回答 3 人)

長い (回答 0 人)

短い (回答 7 人)

(2ヶ月：1人、4週間：3人、4～5週間：2人)

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・テキストが全て終わらなかったの、それが終わるぐらいまでの期間滞在したかった。
- ・韓国の伝統文化（冠婚葬祭の話やチマチョゴリ）の授業は、私たちだけでなく韓国人学生にもウケがわるかったです。チマチョゴリも一人しか着られなかったの他の全員は座っているだけでした。それに、チューターの中には日本語が上手な学生が何人もいて授業中たすけてくれるのに、あの先生はそれが少し気に食わない感じでした…伝統文化の授業なので、まじめな雰囲気になるのはわかりますし、先生の性格がクールなだけなのかもしれないけど、少し怖かったです。他の先生方は明るくてとてもおもしろい授業をしてくださいました。
- ・入学試験の関係で教室が小さく、狭いときがあった（2回目のポップミュージックのとき）。
- ・授業は4時間目まであって10分休みもありましたが、15分休みのほうがらくだと思えます。昼休みが短かったのでどたばたする日が多かったので、もうすこし長いといいと思った。1時間30分くらい。昼からの授業では、あきらかに感じの悪い人がいました。チマチョゴリの授業をした先生です。私達やチューターの扱いが少しひどかった気がします。
- ・岐阜大学以外の学校から先生や事務職員の人が来ていたことで、留学の雰囲気が台無しになってしまった。せっかくのサマースクール、学生だけで行くべきでは…
語学のクラスを最低でも2クラスに分けたほうが良かったのでは。日本で何年も韓国語を学んできている子も『読み方』から始まったのはかわいそうだった。
- ・午前の授業時間が長かった。昼の休憩時間が短い。
- ・特にありません。
- ・授業についてですが、韓国語を一から学ぶ人たちと、日本の授業などで韓国語に触れていて少しは韓国語がわかる人たちとでクラスが分かれているとよりよかったです。
- ・クラスは一つにするべきではない。レベル別

に最低でも2つには分ける必要がある。

2. 寮について 1部屋（約8畳/m²）

a. 部屋にあった設備を記入してください。

例：扇風機等

- ・各部屋
勉強机・いす・ベッド・ふとん（上下）・ベッドカバー・まくら・ごみばこ・扇風機・ロッカー・個人のクローゼット・インターネット・インターネットを繋ぐケーブル
- ・リビング
掃除機、テレビ、ポット、冷蔵庫

b. 食事はどうしていましたか？

- ・時間になったら食堂へ行き、ビュッフェ形式で食べた。
- ・外食か寮の食事（すごくおいしかったです）。
- ・普段は食堂で食べるが多かった。遊びに行く時は外食をしていた。
- ・寮の食事。時間が決まっていた、朝昼晩ついていました。おいしかったです。
- ・基本的には寮で。外食も可。食事を抜いても値段は変わらない。大勢で外食するときは前もって伝えておく必要があった。
- ・朝・昼は寮で食事。授業後は学内または学校の近くのカフェによく行った。夜や休日はよく外食に行っていた。
- ・ほとんど寮で出される食事を食べていたが、休日や授業後などは、外出先で食べることもあった。
- ・基本は寮の食事を食べ、週末など外へ出かけるときは、その出かけた先で食事をしました。
- ・寮で平日も休日も3食きっちり出るの、どこかに出掛けて食べる時以外は寮の食事をいただきました。
- ・寄宿舎で取ったり、外で食べたりした。

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・8人部屋で、シャワールームが1つしかなかったの、全員入るまでにとっても時間がかかった。
- ・シャワーが一つだけというのはキビシかったです！！8人で一つだと、最後の人に回っ

てくるまで何時間かかるんだって感じでした。

- ・扇風機だけでは暑いときがあった。
- ・シャワールームが1つだけだったので、8人が順番にはいるには時間がかかり困った。すずしかったけど、暑い日は扇風機だけでは寝苦しい日もあった。寮ではありませんが、使えるパソコンが5台くらいだったので、なかなか使えなかった。
- ・8人部屋でシャワー1つは少なすぎる。
- ・丁度新しい寮を工事中であったため、騒音がうるさかった。ゴミ箱がある部屋とない部屋とがあった。シャワーが8人で1つなので不便。
- ・とてもきれいだった。シャワーが一つしかなかったのは少し不便だった。
- ・全く困ったことはありませんでした。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

- ・寮がまだ新しいので、とてもきれいで、暮らしやすかった。シャワールームが少なすぎるのが残念だった。
- ・すごくきれいで過ごしやすかったです。問題はシャワーの数だけです。
- ・とてもきれいな部屋だった。みんなが集まれるスペースがあったことがよかった。
- ・共同生活のようで楽しかったです。悪かったことではありませんが門限が12時でした。
- ・非常にきれいで、安全面もしっかりしていてとてもよかった。しかし最初の1週間はかなり暑く、扇風機だけでは寝苦しかった。
- ・良かったこと→ 食事が美味しい。寮がきれい。セキュリティがよく安全。
悪かったこと→ シャワーが8人で1つであること。部屋の鍵がよく壊れたこと。
- ・とてもきれいだった。シャワーが一つしかなかったのは少し不便だった。
- ・部屋もとてもきれいで満足でした。
- ・新しく建てられた寮だったため、外装も内装も全て綺麗で大変過ごしやすい寮でした。
- ・きれいなところが良かった。クーラーがついていてもいいと思う。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

- ・トラブル：しいて言えば寮に入居した日に備え付けのポットにカビが大量発生していた。
相談相手：寮の管理人
対応：すぐに部屋に来てポットを回収、きれいに洗って戻してくれた。
(しかし気持ちが悪くて結局最後まで使うことはなかった。)
- ・トラブル：バスでの乗車
相談相手：チューター
対応：一緒にバスに乗ってくれる。案内地図を書いてくれる。
- ・トラブル：勉強機の引き出しの鍵をなくした。
相談相手：寮長
対応：相談した次の日には、新しい引き出しに替えてくれた。

備考

- ・直接何かあったというわけではありませんが、サマースクールで同じだった室蘭工業大学の引率の先生が、学生に飲酒を勧めたり寮の規則を平気でやぶっていました。同じ日本人としてとても恥ずかしく、腹が立ちました。わざわざ日本から勉強をしにきて、費用も安く滞在させてもらっているのだから、私達は産大側が決めたルールはきちんと守っていたのですが、これまでの雰囲気最後の1週間でこわれてしまい、とても残念でした。
- ・室蘭の学生の参加態度がひどかった。

4. 所要経費について

支出総額 174,667円

内 訳

参加費 116,111円（航空費・宿舍費含む）
食費 13,875円
保険料 8,394円
その他 38,125円

参加費について 高い 適当 安い
高い 0人 適当 3人 安い 6人
無回答1人

備考

- ・値段は忘れてしまいました。参加費は安かつ

たですが飛行機が高すぎて驚きました。自分でためたマイルが使いたかったです。

- ・参加費は安いですが飛行機チケットが高すぎる！！！！

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

(学内の諸手続きについて)

- ・空港にジソンさんが迎えに来てくれたので9人同じ時間にインチョン空港にいなければならず、しょうがないですが、航空券が6万円というのは、少し高いと感じました。他の旅行会社を探せばもう少し安く手に入ったのではないかと思いました。
- ・生協の伊藤さんが非常に丁寧に対応してくれて助かりました。
- ・生協が手配してくれ、楽であった。
- ・今回が第一回目のプログラムということでしたが、出発ギリギリまでほとんど説明がなかったこと、また相手校の施設・設備、駅からのアクセス方法などの情報が少なすぎて、出発前は不安だった。

(出発前の事前研修について)

- ・とても為になりました。後期も会話を中心に韓国語教室を開催してほしいです。
- ・少し寮についてなどの情報が少なかった気がします。
- ・事前研修があったおかげで、現地での授業が大分楽に始めることができた。毎週準備をして、しっかり教えてくれてヘミさんとジソンさんには感謝！また、韓国語だけでなく、文化的なこともいろいろ教えてくれたのが役に立った。皆のモチベーションも事前研修のお陰で高まっていったと思います。
- ・ハングルが読める状態で行けたので、現地での学習効率がよかった。
- ・とてもよかったと思う。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・この3週間は、最初におもっていたよりもはるかに充実していました。私は今まで韓国語を全く勉強したことがなかったので向こうで

やっていたかとても不安でしたが、韓国では日本語を話せるチューターや、日本語は話せなくても簡単な韓国語やボディランゲージを使ってコミュニケーションを取ることができ、まったく困りませんでした。授業も発音の初歩の初歩からだったので、とてもわかりやすかったです。韓国や、韓国のひとが大好きになり、その人たちとすこしでも話したいがためになるべく多くの単語、言い回しを覚えて、覚えたらすぐに会話で使って、と、今まで楽しいと思ったことがなかった「勉強」がとても楽しかったです。

韓国に行くまでは韓国語や韓国に触れたことはなかったのですが、帰ってくると韓国の魅力にどっぷりはまってしまいました。これから韓国語の勉強を本格的に初めて継続していくつもりです。

このサマースクールで私は、勉強することの楽しさ、語学の面白さ、同じ気持ちをもった友達など、たくさんのもので得ることができました。この3週間は私にとって一生のたからものです。

- ・本当に楽しかったです！！韓国が大好きになりました。あの短期間で韓国人の友達とも仲良くなれたし、一緒に行った10人のメンバーの友情もすごく深まりました。もし行かなかったら、このメンバーとこんなに仲良くなることはなかったし、ましてや知り合うことすらもなかったんだと思うと、恐ろしいくらいです。韓国語も大好きになりました。今まで、何かを「勉強したい！」と自分から思うことなんてなかったのに、自分でも驚いています。
- ・初めての海外でとても緊張しましたが、本当に素敵な仲間たちと過ごすことができ、幸せでした。韓国語は直前にヘミさんとジソンさんが先生となって教えてくれた授業に出て、自分ではすこししか勉強できないまま行きましたが、韓国で過ごしている間、毎日少しずつ韓国語で会話できることが増えて、とてもうれしかったです。チューターとのかかわりがこの短期留学の中で特に印象に残っています。妹のようにかわいがってくれたり、たくさん一緒に笑ったこと、私が落ち込んでいるときは、心配して見に来てくれて励ましてく

れたこと、こんなにも仲良くなれたことが本当にうれしいです。もっと韓国について知りたいと思うと同時に、他の国にも行ってみたいと思いました。

- ・本当に本当に楽しかったです！行く前は少し観光気分でいったけれど、向こうで受ける影響はとても大きく、たくさんのことを学びました。

私にとってもみんなにとっても大きな転機になったことは間違いありません。そのおかげで今私は新たな目標を持つことができました。ソウル産業大学に交換留学生として留学したいと思っています。かなうかはわかりませんがそれに向けて頑張ろうと考えています。本当に楽しくてあつという間の3週間でした。参加してころからよかったと思います。

- ・3週間という短い間でしたが、本当に楽しい時間を過ごすことができました。

岐阜から行ったメンバーは皆、韓国語を学びたいという意識が非常に高かったため、本当に良い雰囲気の中で過ごすことができました。STISS 1回目でしたが、1回目とは思えないほど良くできたプログラムだったと思います。

すべての経験が楽しかったのはやはりチューターのお陰かもしれません。夏休み中なのにも関わらず、遠くから学校まで来て相手をしてくれて、本当に親切にしてもらえました。大感謝！学生のうちに参加することができて本当に良かったです。

- ・優しい先生方やチューターに囲まれて、韓国での生活は何一つ不自由がない程、楽しく、充実していました。韓国語だけでなく、韓国の人と触れる機会が多くあるこの留学プログラムがこれからも発展していくことを願っています。
- ・本当によかったと思う。語学・コミュニケーションのおもしろさを改めて実感した。世界観が広がり、留学に以前よりも、より現実的に興味を持つようになった。
- ・出発前は口でおしえてもらえるだけでわからないことも多くて不安でしたが、一緒に参加した人やソウル産業大学の先生や学生が親切に接して下さったおかげで、三週間楽しく

韓国の言語や文化に触れることができました。自分の考え方を大きく変えた三週間であり、充実した三週間でした。

- ・私にとって大変いい留学となりました。自分の韓国語能力を試したい一心で今回の留学に参加しましたが、語学を学べただけでなく、韓国という国自体を学ぶことができました。違う国の人で母国語が違う言語で、お互いかけたこと言葉で話し合うのに、心が通じ合うことを知りました。こんなにも仲良くなれることを知りました。私にとってこの3週間はかけがえのない時間となったと思います。短期留学に参加できてとてもよかったです。

- ・参加して本当に良かった。大変よい経験ができた。多くの人と関わり合うことができ、人とのつながりの大切さを学んだ。

これをきっかけに、さらに韓国語を勉強しようと思ったと同時に、他の国にも行ってみたいと感じた。世界観が広がった。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・すこしでも気になったならぜひ行ったほうがいいです！！そして1週間より、絶対に3週間行ったほうがいいと思います。
- ・シャンプーは日本で買った方が安いです。行きの荷物はスーツケース半分以下にした方がいいです。
- ・絶対参加するべきです。むしろ、私も来年行きたいです！！韓国語を履修していない場合は、早くから韓国語に取り組むことをお勧めします。チューターとたくさん話してください。それが韓国語の上達に1番です！それに本当にたくさんしたこと（言葉、文化）をおしえてくれます。
- ・特にないですが、行く前に韓国語は少しでも勉強したほうがいいとおもいます！そのほうが楽しめます！あと日本のお菓子とかはみんなにすごく喜ばれます！
- ・参加費の3倍以上の価値のあるプログラムだと思います。時間があるなら是非参加してください！きっと新しい発見が山ほど待っていると思います。
- ・韓国語を何も勉強していないから、といって躊躇う必要はありません。私もゼロの状態

だったけど、最後には皆と韓国語で簡単な会話もでき、韓国の友達がたくさんできました。文化も言葉も近い韓国という国をもっと知れるよい機会に参加できて、本当にラッキーだったなあと思います。

ソウルに行ったら、是非ソウル市内をチューターと歩き、授業で習った韓国語を使ってみて、楽しい思い出を作ってください。

- ・日本ならではのお土産を持っていくとよい。
 - ・自分の韓国語が伝わるのかなどと考えるよりも、とにかく積極的に話してみることが大切です。実際私は出発前韓国語を話すことができませんでしたが、三週間という短い間でも簡単な日常会話は話せるようになり、韓国人の友達が話す韓国語も少しわかるようになりました。
 - ・部屋には冷房がなく扇風機しかついていませんが、韓国の夏はそれで充分です。洗濯機もついていますしシャワーもありますので、生活面ではほとんど困りません。お水も買わなければいけないと思っていましたが、寮の1階に浄水のお水が出る機械がありますので、お水がなくなったらそこで継ぎ足しすればいいので金銭面も心配ありません。
- ただ、ドライヤーはありません。8月終わりの雨が降る日は大変寒いので1枚は長袖をもっていった方がいいです。シャンプーやリンスなど日用品で足りないものは現地を買出しに行ってもいいと思います。足りないものは何でも手軽な値段で韓国で買えますので、あまり心配しなくても大丈夫です。
- ・ある程度韓国語は勉強していくべき。その方が楽しめる。

ン、リョウウン、キョンナム、ヘジン、ウニョン)

- ・チューターや Sean 先生（コーディネーター）
- ・お世話になった友達
- ・手紙ではなく、メールを送った
- ・手紙ではなく、メールで、チューターさんほぼ全員に送りました。
- ・チューター

8. お礼の手紙について

- 出した（誰に？）
- 出していない（是非出して下さい）
- | | |
|--------|----|
| 出した | 8人 |
| 出していない | 1人 |
| 無回答 | 1人 |

備考

- ・Emailでお礼のメールを送りました。
- ・韓国語の先生、チューター（ジソン、ミジョ

岐阜大学短期留学（サマースクール）担当者一覧

部 局 等 名	氏 名	担 当
留学生交流委員会 委員長 教育担当理事	古 田 善 伯	総括責任者
留学生交流委員会 副委員長 留学生センター長	小 林 浩 二	副総括責任者・エクスカージョン引率・ 日本事情講義
教育学部	柳 沼 良 太	エクスカージョン引率
地域科学部	小 西 豊	
医学系研究科・ 医学部	高 橋 優 三	医療担当
工学部	大 矢 豊	エクスカージョン引率
応用生物科学部	岩 澤 淳	エクスカージョン引率
連合大学院	深 田 恒 夫	会計監査
留学生センター	太 田 孝 子	派遣コーディネーター・広報
留学生センター	森 田 晃 一	受入コーディネーター
留学生センター	橋 本 慎 吾 ★	日本語総括・日本事情講義
留学生センター	土 谷 桃 子 ★	受入コーディネーター・歓送迎会・ エクスカージョン引率・日本事情講義・広報
留学生センター	吉 成 祐 子 ★	日本語授業・エクスカージョン引率

★は、留学生交流委員会委員でない者を示す。

今年度のサマースクール(受入)では、スクールバスを運行するなど、いくつか大きな試みを行なった。その全てが大成功だったとは言えないが、長い歴史(今回で21回目)を有するサマースクール(受入)を、今後も安定的に開講し、より発展させるために必要な荒治療であった。来年度以降、更なる工夫を重ねたい。今年は梅雨が短くあまり雨が降らなかったのは幸いだったが、7月に異常といえる暑さに見舞われ、個人の部屋にはエアコンが設置されていない宿舎は過酷な状況となった。プログラム内容を充実させることは我々の当然の責務だが、個々の教員の努力では改善しようのないハード面の整備が急務である。大学全体がこのサマースクール(受入)をどう認識しているかを問い、担当者として、ぜひ善処を依頼したい。

毎年のものであるが、サマースクール(受入)を終えると、我々にもやりきったという充実感がある一方、不十分だったことや失敗したことが思い出され、いささか落ち込むこともある。今年度のサマースクール(受入)で何に挑戦し、何が成功し、何が今一つだったのか、この報告書から読み取っていただければ幸いである。

(つ)

今年のサマースクール(派遣)は、4月の説明会の時点ではオーストラリアのグリフィス大学のみを計画し、それも、後期の学部ガイダンスの関係から、従来より1週間少ない、4週間コースへの案内となった。しかし、5月になって急に、韓国のソウル産業大学でのサマースクール開催のニュースが飛び込んできた。「2~3人位参加すれば上出来ですね」と話していたのだが、蓋を開けてみると参加者は10人。オーストラリアの11人とほとんど変わらない人数で、予想外の喜びとなった。

事前の語学研修は英語とハングルを用意したのだが、英語研修は参加者も少なく、せっかく時間をかけて準備した授業もあまり活用されず、正直ガッカリだった。ハングル研修の方は出席率も高く、熱心で、後期も全教のハングルの履修している学生が多いと聞く。「来年もソウル産大のサマスクを是非続けてほしい」という声も大きい。報告書を読む限り、オーストラリアでも貴重な体験を重ねているはずなのだが、返ってくる声はなぜこんなに小さいのか…。

諸外国の人々は、日本人はまだ「集団で」行動する国民だと思い込んでいるようだが、大学でさえ「集団で」何かをすることはとても難しい。今年のサマースクール(派遣)を振り返りながら、そんなことを感じている。

(お)

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2008報告書

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
発行年月日 2008年12月
発行者 岐阜大学
電話 058-293-2142
F A X 058-293-2143
印刷 西濃印刷株式会社